

# 第4次佐世保市男女共同参画計画策定にかかる アンケート調査結果報告書

令和4年7月  
佐世保市

## 目 次

I アンケート調査の概要 .....	1
1 調査の目的 .....	1
2 調査概要 .....	1
3 報告書の見方 .....	1
II 市民意識調査結果 .....	2
1 あなたご自身について .....	2
2 家庭生活・地域生活等について .....	5
3 就労及びワーク・ライフ・バランスについて .....	47
4 人権（DVなど）に関することについて .....	72
5 女性の活躍推進・男女共同参画社会づくりについて .....	80
集計表 .....	87
III 事業所実態調査結果 .....	89
1 事業所について .....	89
2 ワーク・ライフ・バランス、育児・介護両立支援について .....	97
3 多様な人材の活躍について .....	103
4 ハラスメントについて .....	108
5 佐世保市の取り組みについて .....	110
集計表 .....	114



# I アンケート調査の概要

## 1 調査の目的

本調査は、「第4次佐世保市男女共同参画計画」の策定にあたり、市民や事業所の皆様から男女共同参画に関する意見を伺い、今後の男女共同参画施策に反映させることを目的として実施しました。

## 2 調査概要

項目	市民意識調査	事業所実態調査
調査対象者	市内在住の20歳～69歳の方 (無作為抽出)	厚生労働省「女性の活躍推進企業」データベースに登録している市内事業所及び国税庁法人番号登録サイトより市内事業所を無作為抽出
調査期間	令和4年4月27日(水)～5月13日(金)	
調査方法	郵送配布・郵送回収による本人記入方式 又は調査票に記載したQRコードからweb回答	
配布数	3,000件	500件
有効回収数	1,258件	92件
有効回収率	41.9%	18.4%

## 3 報告書の見方

- ◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答(複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式)であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- ◇複数回答(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ◇図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数(あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人)を表しています。
- ◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。
- ◇表形式のクロス集計では「その他」「不明・無回答」を除き、回答の高いもの**第1位**と**第2位**、**第3位**に網掛けをしています。
- ◇集計対象者総数(n)が少ない(10件未満)クロス集計については、分析文の記載を省略しています。

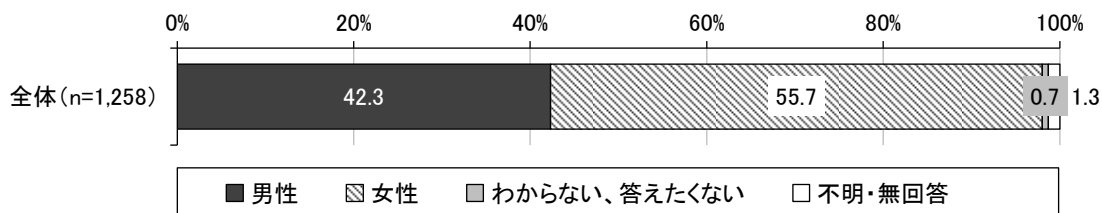
## II 市民意識調査結果

### 1 あなたご自身について

問1 あなたご自身について、お答えください。

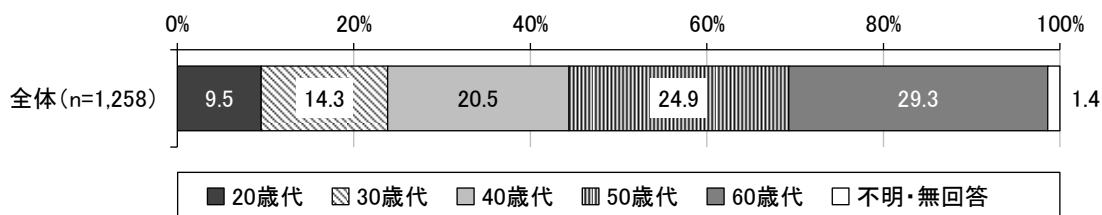
① あなたの性別をお選びください。(1つに○)

性別についてみると、「女性」が55.7%と最も高く、次いで「男性」が42.3%となっています。



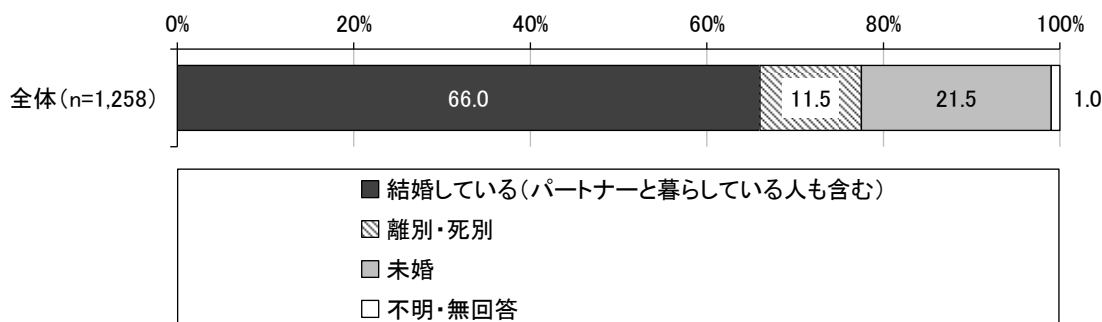
② あなたの年代をお選びください。(1つに○)

年代についてみると、「60歳代」が29.3%と最も高く、次いで「50歳代」が24.9%となっています。



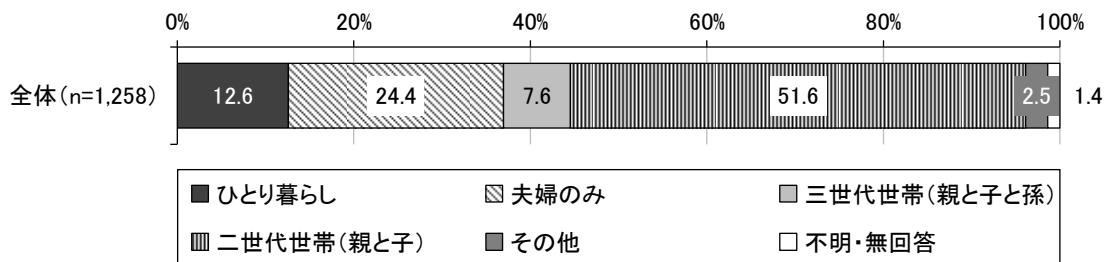
③ あなたは結婚(事実婚を含む)していますか。(1つに○)

婚姻歴についてみると、「結婚している(パートナーと暮らしている人も含む)」が66.0%と最も高く、次いで「未婚」が21.5%となっています。



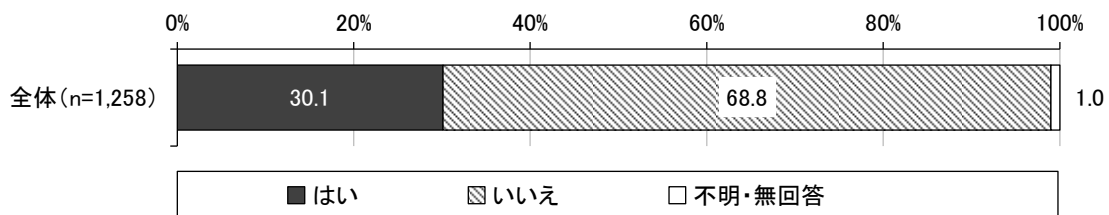
④ あなたの家族構成をお選びください。(1つに○)

家族構成についてみると、「二世世代世帯(親と子)」が51.6%と最も高く、次いで「夫婦のみ」が24.4%となっています。



⑤ あなたには20歳未満のお子さんがいらっしゃいますか。(1つに○)

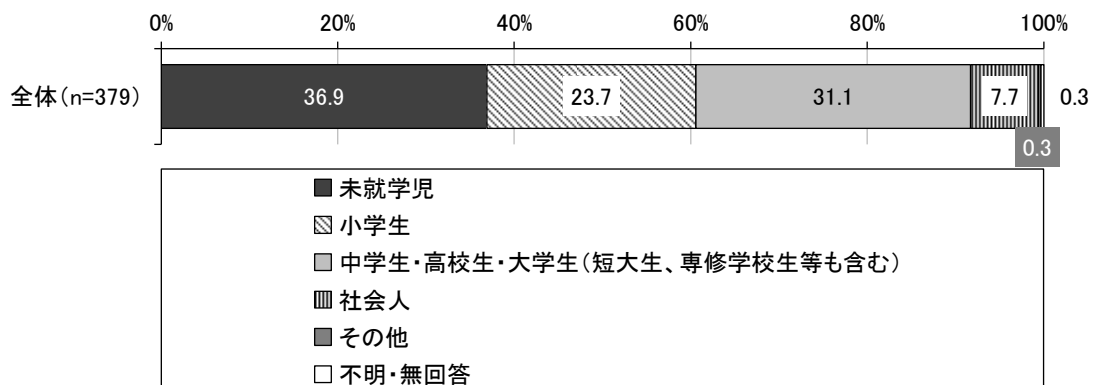
20歳未満のお子さんの有無についてみると、「いいえ」が68.8%と、「はい」の30.1%を上回っています。



⑤で「はい」と回答した方におたずねします。

⑥ 一番下のお子さんは次のどれにあてはまりますか。(1つに○)

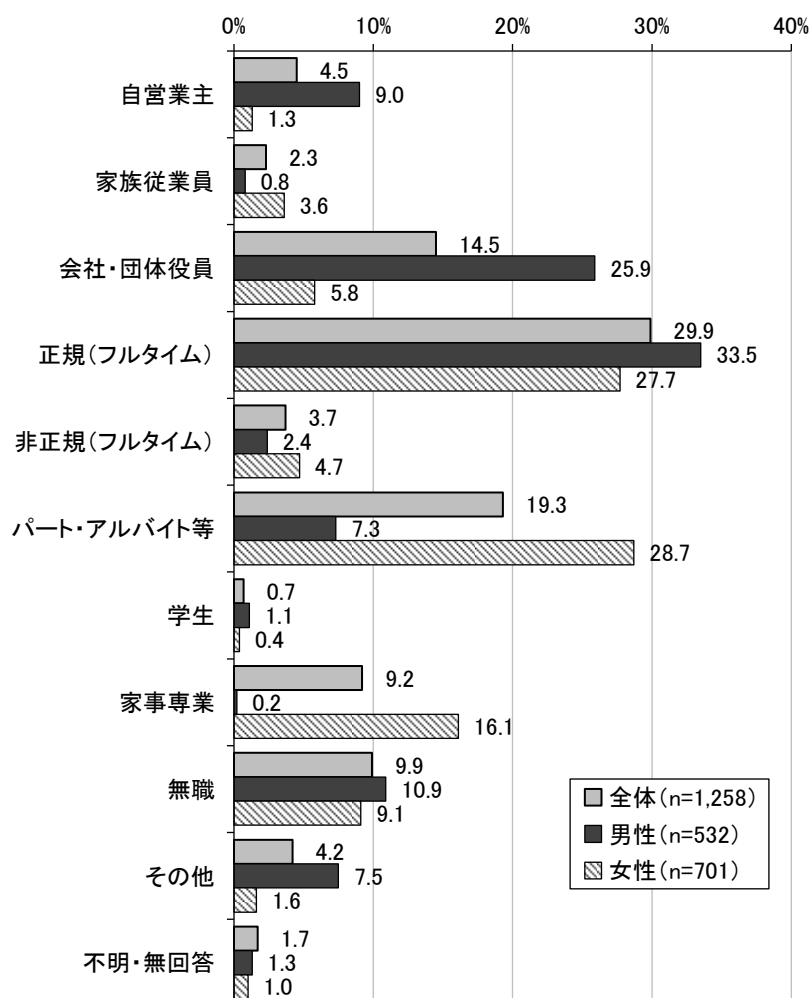
一番下のお子さんについてみると、「未就学児」が36.9%と最も高く、次いで「中学生・高校生・大学生(短大生、専修学校生等も含む)」が31.1%となっています。



⑦ あなたの現在のお仕事の状況についてお選びください。(1つに○)

現在の仕事の状況についてみると、「正規(フルタイム)」が29.9%と最も高く、次いで「パート・アルバイト等」が19.3%となっています。

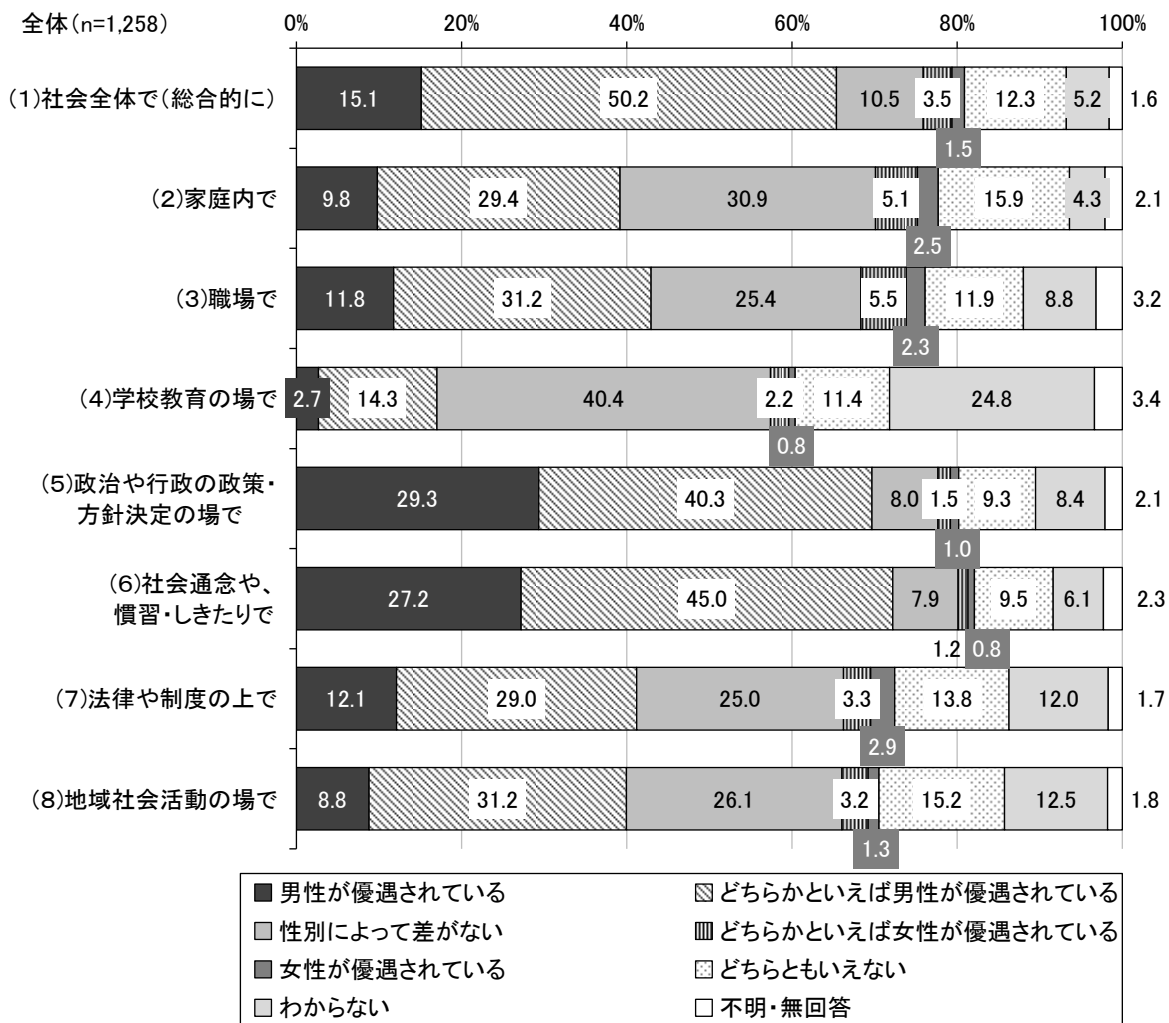
男女別にみると、男性は「正規(フルタイム)」、女性は「パート・アルバイト等」が最も高くなっています。



## 2 家庭生活・地域生活等について

問2 あなたは、次にあげるような分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。  
あなたの考えに最も近いものをお選びください。(それぞれ1つに○)

男女の地位の平等感についてみると、【(1)社会全体で(総合的に)】【(5)政治や行政の政策・方針決定の場で】【(6)社会通念や、慣習・しきたりで】では『男性優遇』(「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計)が6割以上と高くなっています。一方、『女性優遇』(「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計)はすべての項目において1割以下となっています。



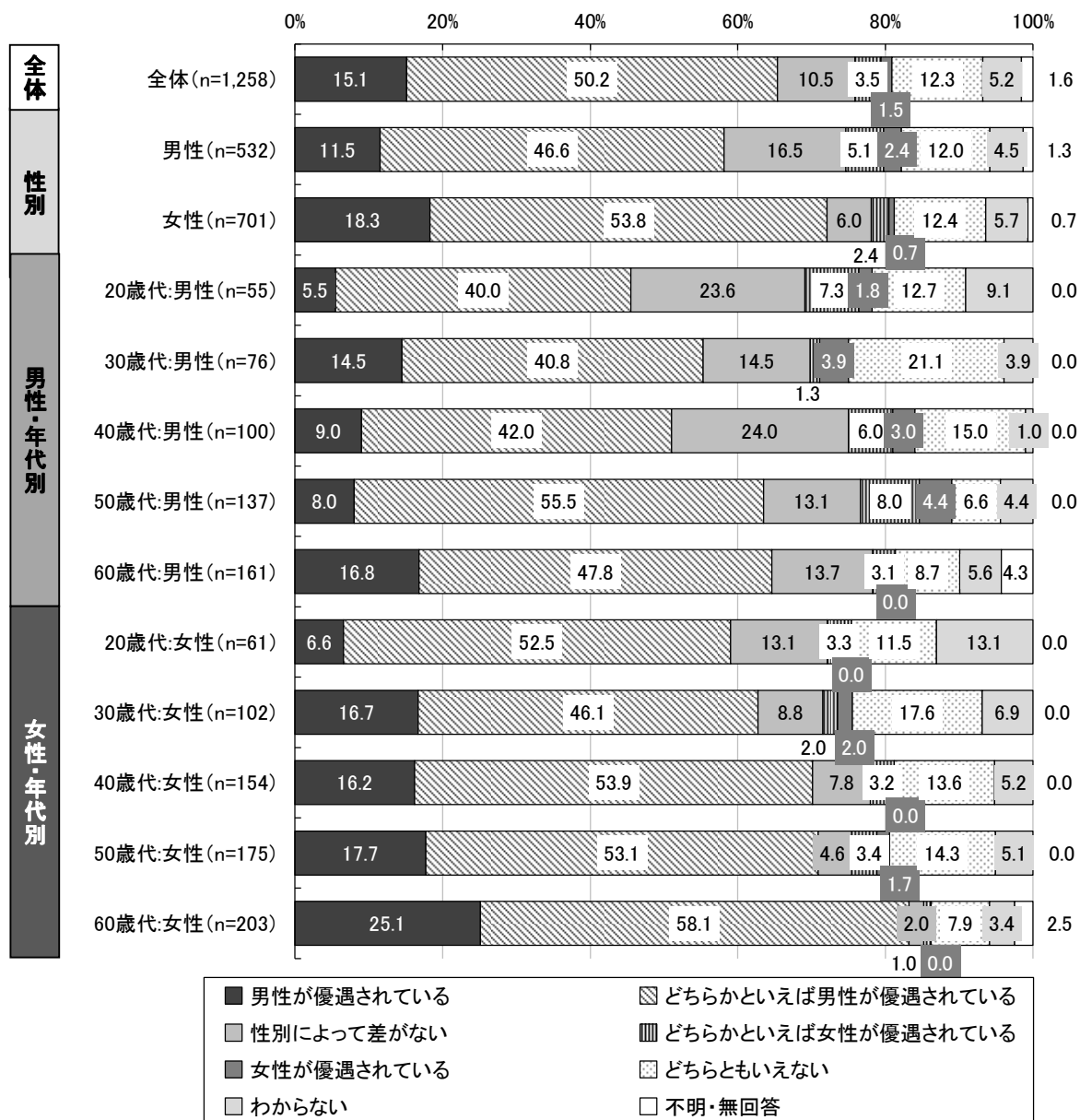


(1) 社会全体で（総合的に）

社会全体における男女の地位の平等感についてみると、全体では「どちらかといえば男性が優遇されている」が 50.2%と最も高く、次いで「男性が優遇されている」が 15.1%となっています。『男性優遇』は 65.3%、『女性優遇』は 5.0%となっています。

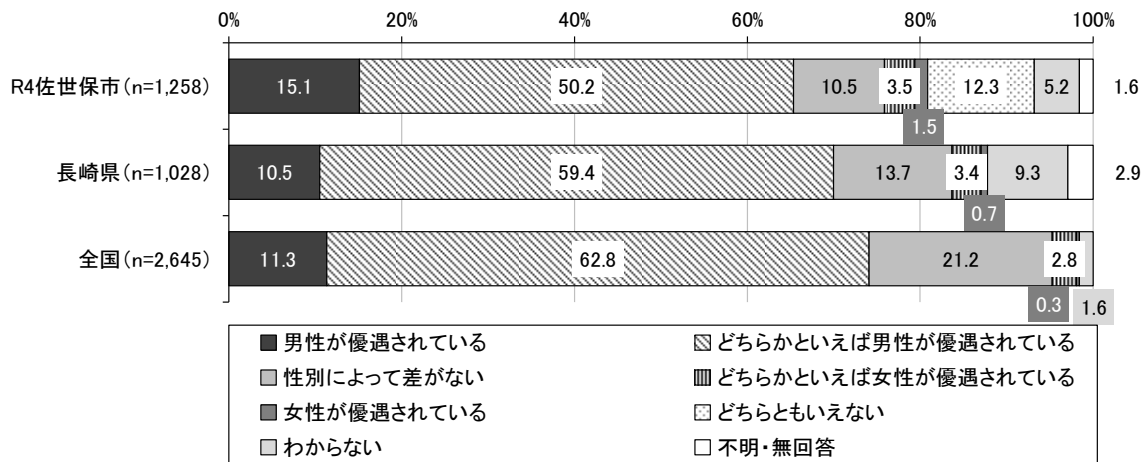
男女別にみると、女性では『男性優遇』が 72.1%と、男性と比べて 14.0 ポイント高くなっています。

性・年代別にみると、女性では年代が上がるにつれて『男性優遇』が高くなっており、特に 60 歳代女性では 83.2%となっています。



全国・長崎県と比較すると、『男性優遇』は全国、長崎県より低くなっています。また、「性別によって差がない」《全国・長崎県：「平等（である）」以下同》は全国、長崎県より低くなっています。前々回調査をみると、今回調査同様、『男性優遇』が高くなっています。

【全国・長崎県比較】



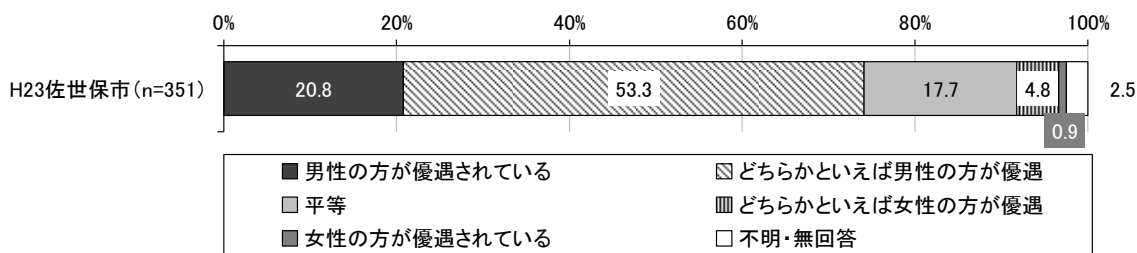
※全国・長崎県調査は令和元年度調査。

全国調査の選択肢：「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「平等」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が非常に優遇されている」「わからない」。

長崎県調査の選択肢：「男性の方が非常に優遇」「どちらかといえば男性の方が優遇」「平等である」「どちらかといえば女性の方が優遇」「女性の方が非常に優遇」「わからない」。

全国・長崎県調査では選択肢「どちらともいえない」はなし。全国調査では「不明・無回答」はなし。

【参考：前々回調査（H23）】



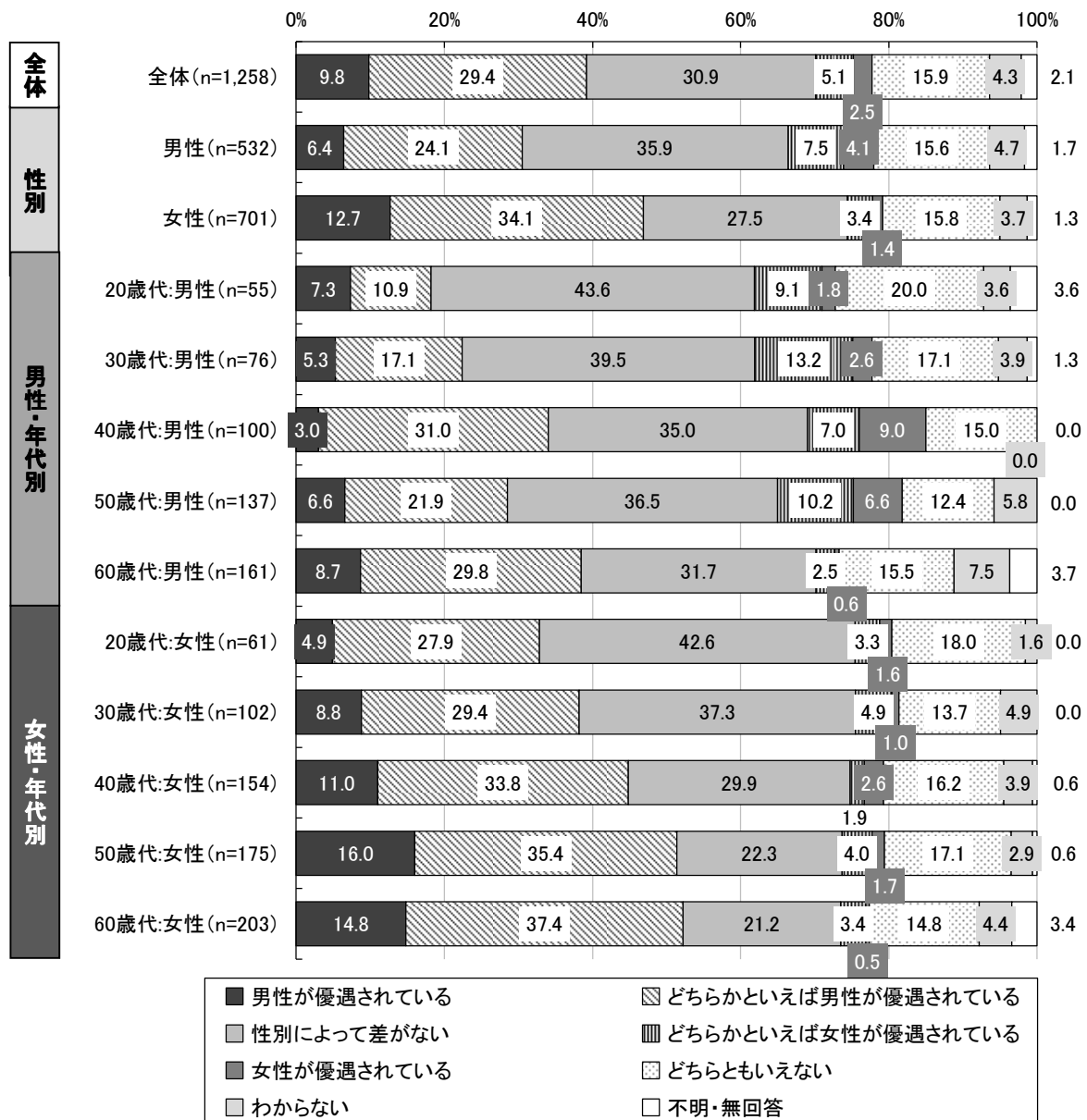
※選択肢内容に違いがあるため、参考として記載しています。

## (2) 家庭内で

家庭内における男女の地位の平等感についてみると、全体では「性別によって差がない」が30.9%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性が優遇されている」が29.4%となっています。『男性優遇』は39.2%、『女性優遇』は7.6%となっています。

男女別にみると、女性では『男性優遇』が46.8%と、男性と比べて16.3ポイント高くなっています。

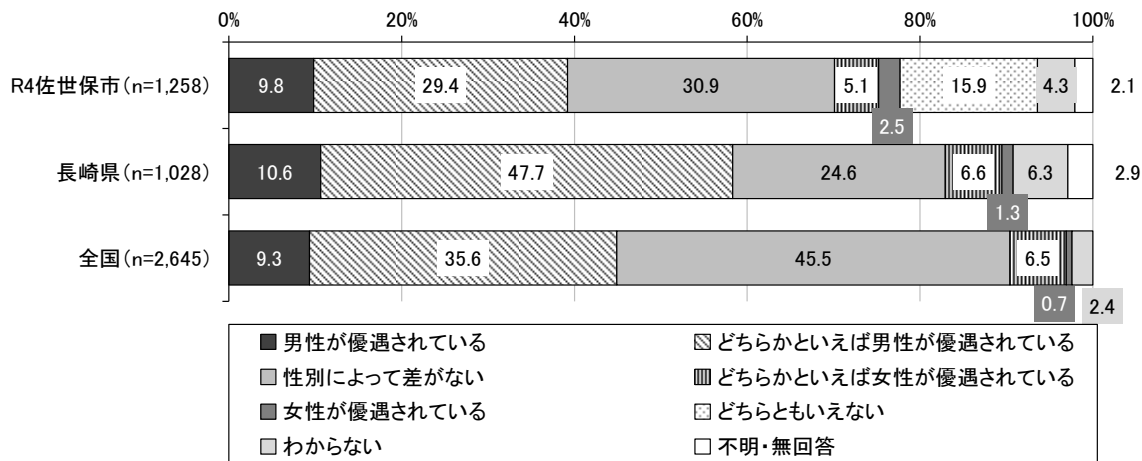
性・年代別にみると、50歳代以下の男性、20歳代女性では「性別によって差がない」、60歳代男性、30歳代以上の女性では『男性優遇』が高くなっています。特に50歳代以上の女性では『男性優遇』が5割以上となっています。



全国・長崎県と比較すると、『男性優遇』は全国、長崎県より低くなっていますが、「性別によって差がない」は全国より低くなっています。

前々回調査をみると、今回調査同様、『男性優遇』が高くなっています。

### 【全国・長崎県比較】



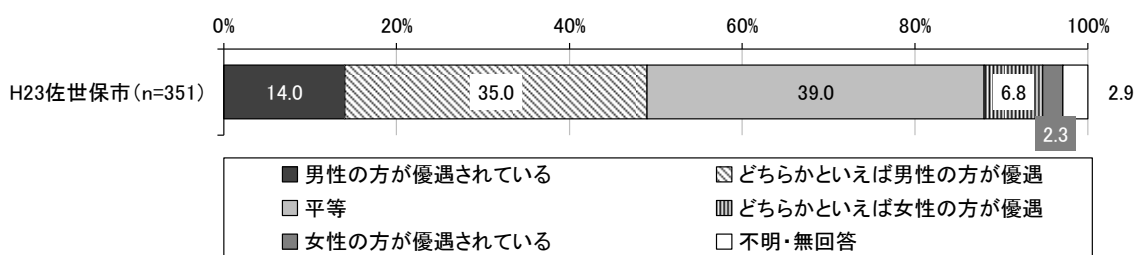
※全国・長崎県調査は令和元年度調査。

全国調査の選択肢：「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「平等」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が非常に優遇されている」「わからない」。

長崎県調査の選択肢：「男性の方が非常に優遇」「どちらかと言えば男性の方が優遇」「平等である」「どちらかと言えば女性の方が優遇」「女性の方が非常に優遇」「わからない」。

全国・長崎県調査では選択肢「どちらともいえない」はなし。全国調査では「不明・無回答」はなし。

### 【参考：前々回調査 (H23)】



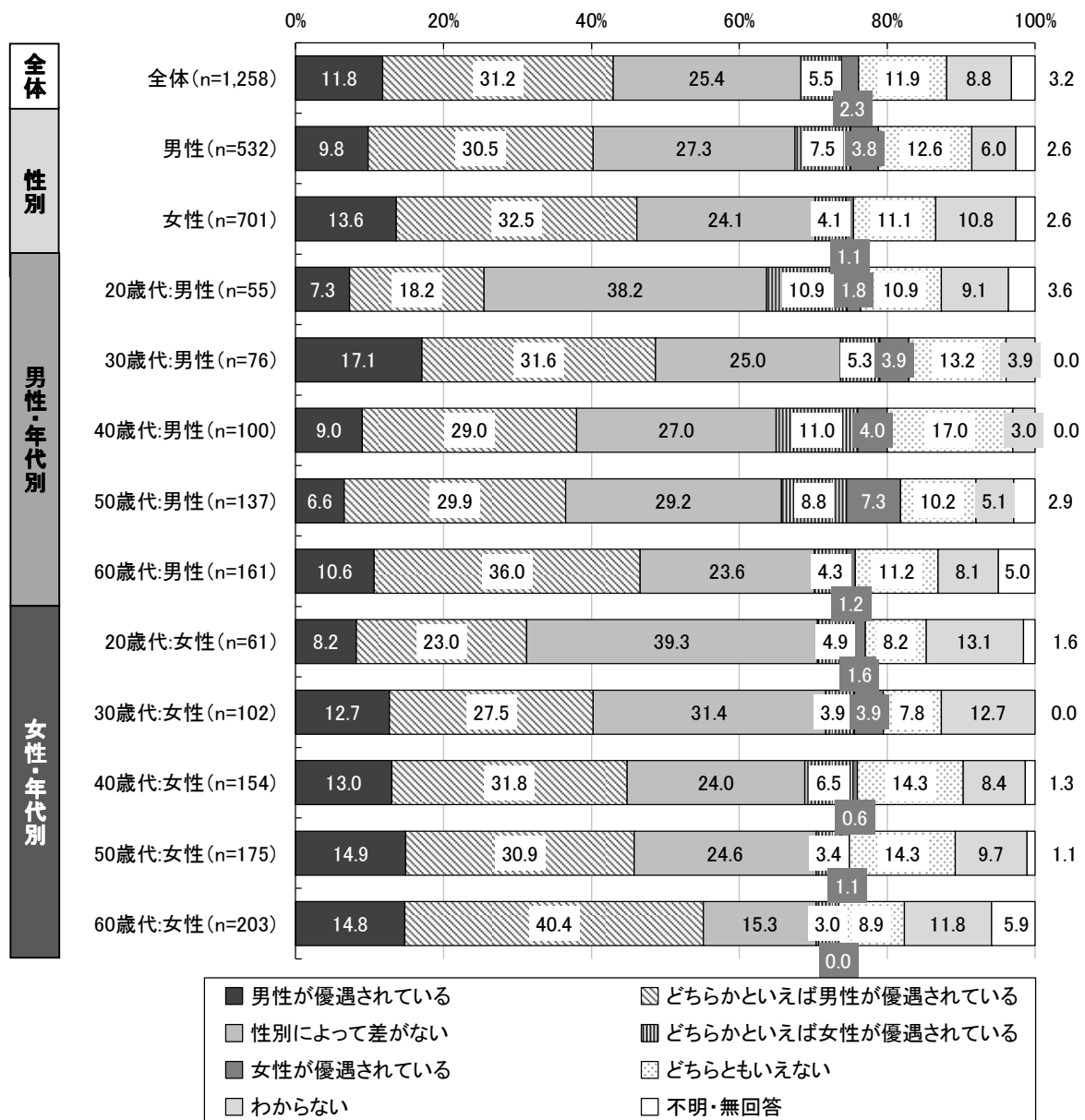
※選択肢内容に違いがあるため、参考として記載しています。

### (3) 職場で

職場における男女の地位の平等感についてみると、全体では「どちらかといえば男性が優遇されている」が31.2%と最も高く、次いで「性別によって差がない」が25.4%となっています。『男性優遇』は43.0%、『女性優遇』は7.8%となっています。

男女別にみると、男性では『女性優遇』が11.3%と、女性と比べて6.1ポイント高くなっています。

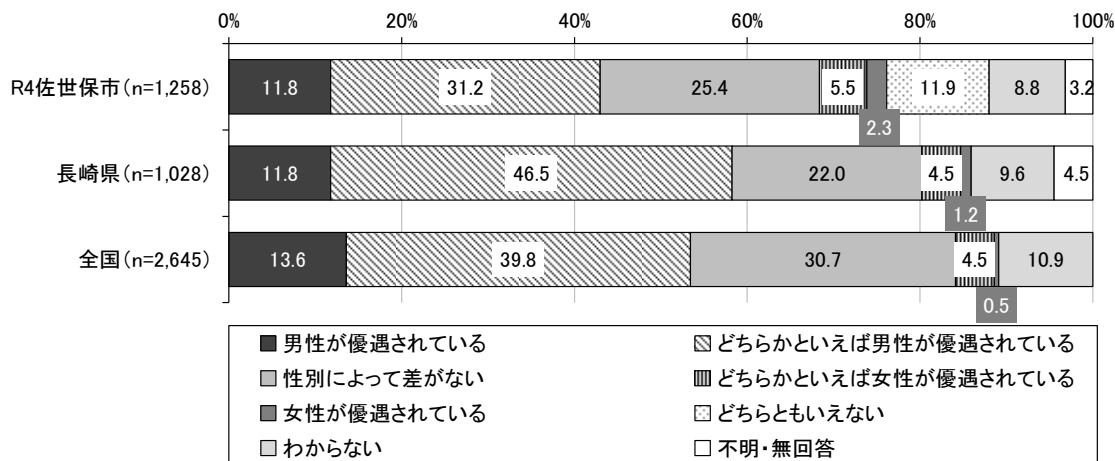
性・年代別にみると、女性では年代が上がるにつれて『男性優遇』が高くなっており、特に60歳代女性では55.2%となっています。また、男女とも20歳代では「性別によって差がない」が3割台後半と、他と比べて高くなっています。



全国・長崎県と比較すると、『男性優遇』は全国、長崎県より低くなっていますが、「性別によって差がない」は全国より低くなっています。

前々回調査をみると、今回調査同様、『男性優遇』が高くなっています。

### 【全国・長崎県比較】



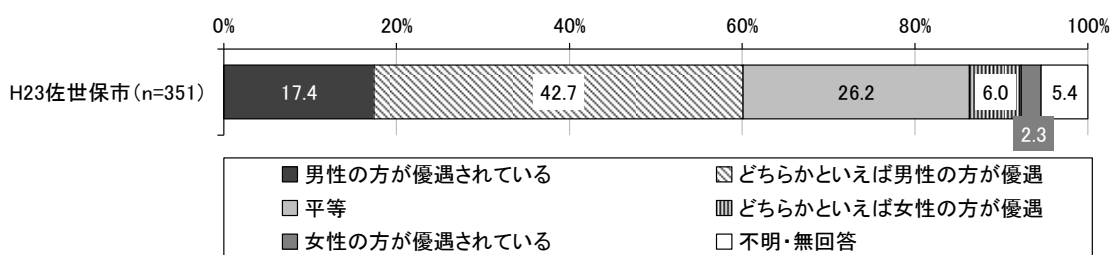
※全国・長崎県調査は令和元年度調査。

全国調査の選択肢：「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「平等」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が非常に優遇されている」「わからない」。

長崎県調査の選択肢：「男性の方が非常に優遇」「どちらかといえば男性の方が優遇」「平等である」「どちらかといえば女性の方が優遇」「女性の方が非常に優遇」「わからない」。

全国・長崎県調査では選択肢「どちらともいえない」はなし。全国調査では「不明・無回答」はなし。

### 【参考：前々回調査 (H23)】



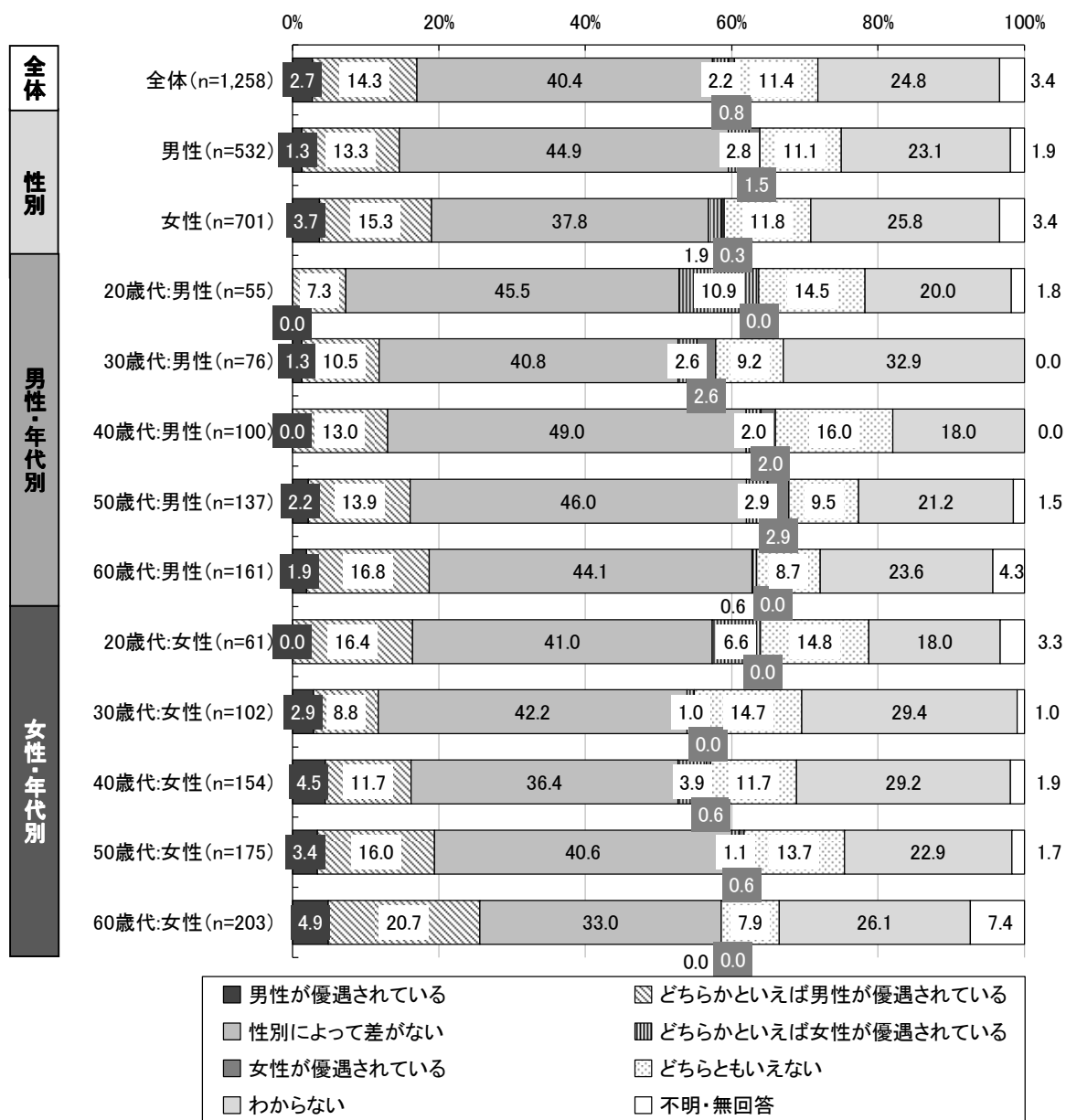
※選択肢内容に違いがあるため、参考として記載しています。

#### (4) 学校教育の場で

学校教育の場における男女の地位の平等感についてみると、全体では「性別によって差がない」が40.4%と最も高く、次いで「わからない」が24.8%となっています。『男性優遇』は17.0%、『女性優遇』は3.0%となっています。

男女別にみると、男性では「性別によって差がない」が44.9%と、女性と比べて7.1ポイント高くなっています。

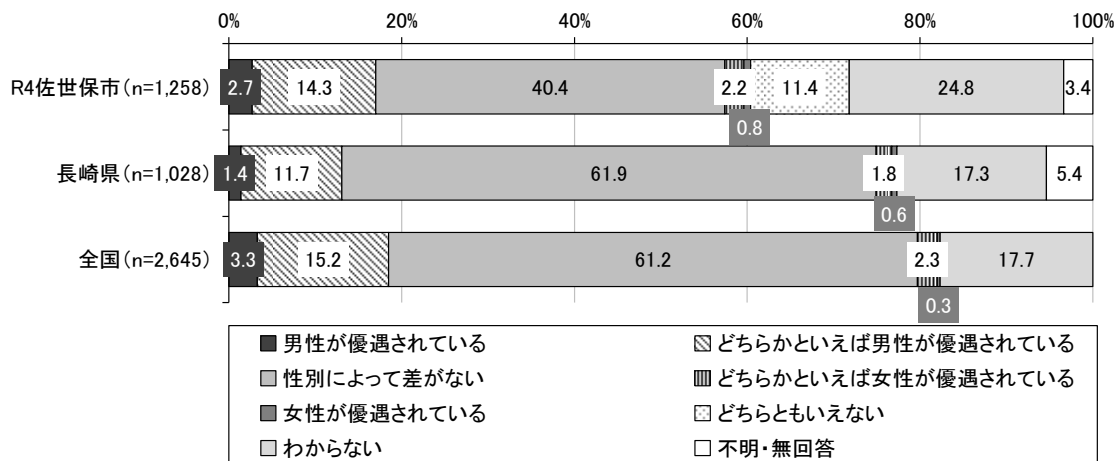
性・年代別にみると、男女ともすべての年代で「性別によって差がない」が最も高くなっていますが、60歳代女性では『男性優遇』が25.6%と、他と比べて高くなっています。



全国・長崎県と比較すると、「性別によって差がない」は全国、長崎県より低く、「わからない」は高くなっています。

前々回調査をみると、今回調査同様、「性別によって差がない」（平等）が高くなっています。

### 【全国・長崎県比較】



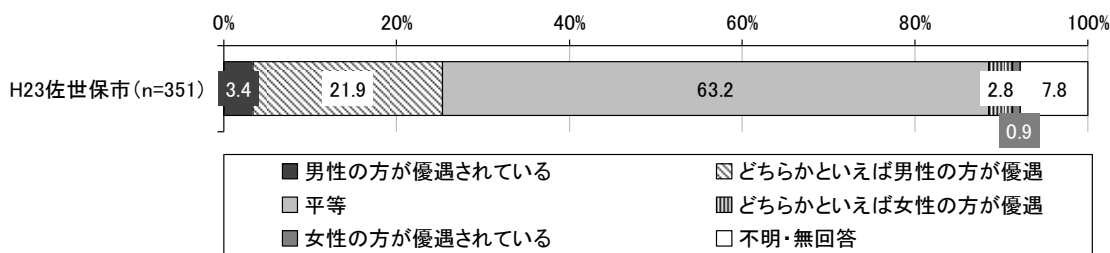
※全国・長崎県調査は令和元年度調査。

全国調査の選択肢：「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「平等」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が非常に優遇されている」「わからない」。

長崎県調査の選択肢：「男性の方が非常に優遇」「どちらかと言えば男性の方が優遇」「平等である」「どちらかと言えば女性の方が優遇」「女性の方が非常に優遇」「わからない」。

全国・長崎県調査では選択肢「どちらともいえない」はなし。全国調査では「不明・無回答」はなし。

### 【参考：前々回調査（H23）】



※選択肢内容に違いがあるため、参考として記載しています。

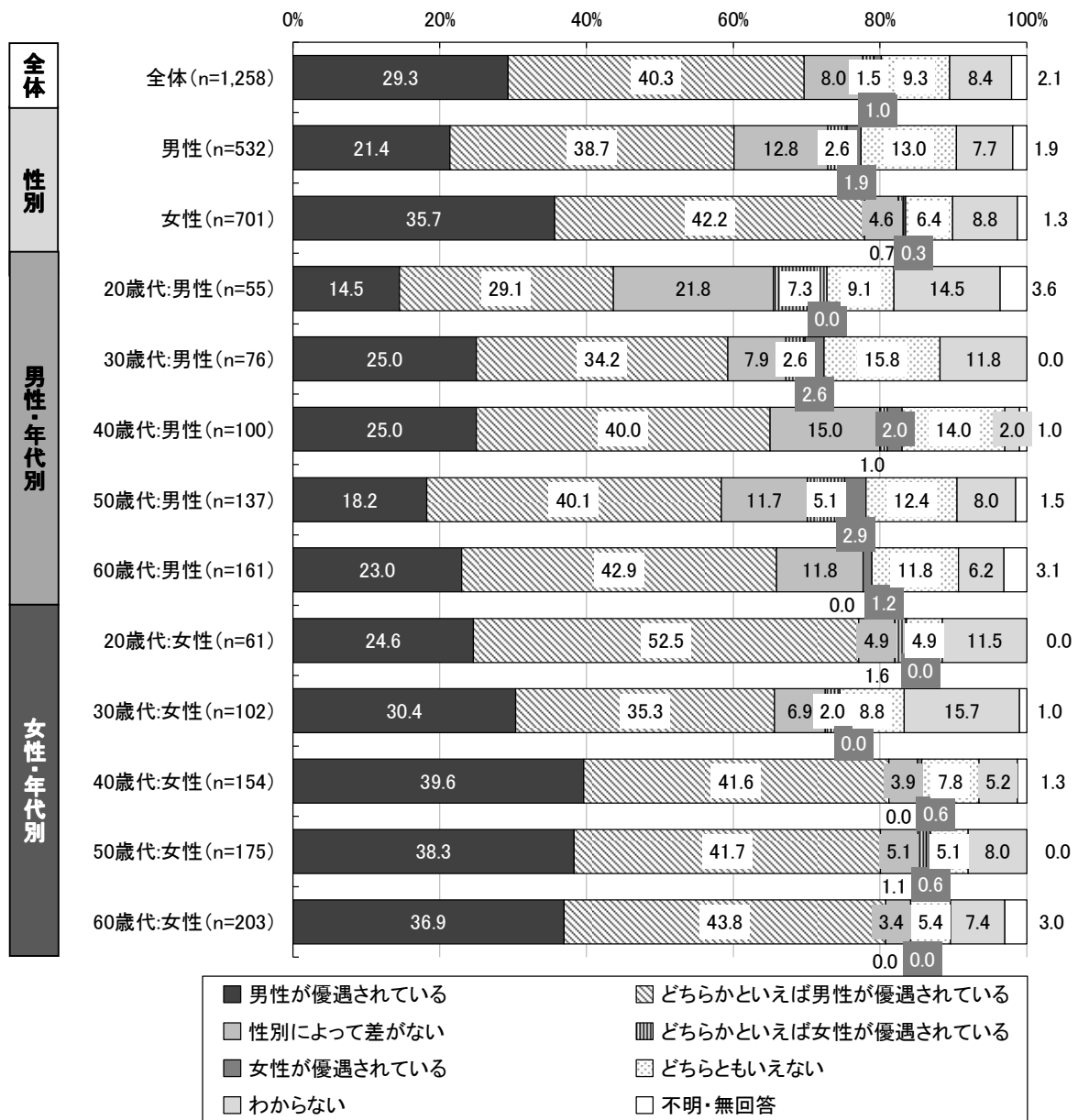


### (5) 政治や行政の政策・方針決定の場で

政治や行政の政策・方針決定の場における男女の地位の平等感についてみると、全体では「どちらかといえば男性が優遇されている」が 40.3%と最も高く、次いで「男性が優遇されている」が 29.3%となっています。『男性優遇』は 69.6%、『女性優遇』は 2.5%となっています。

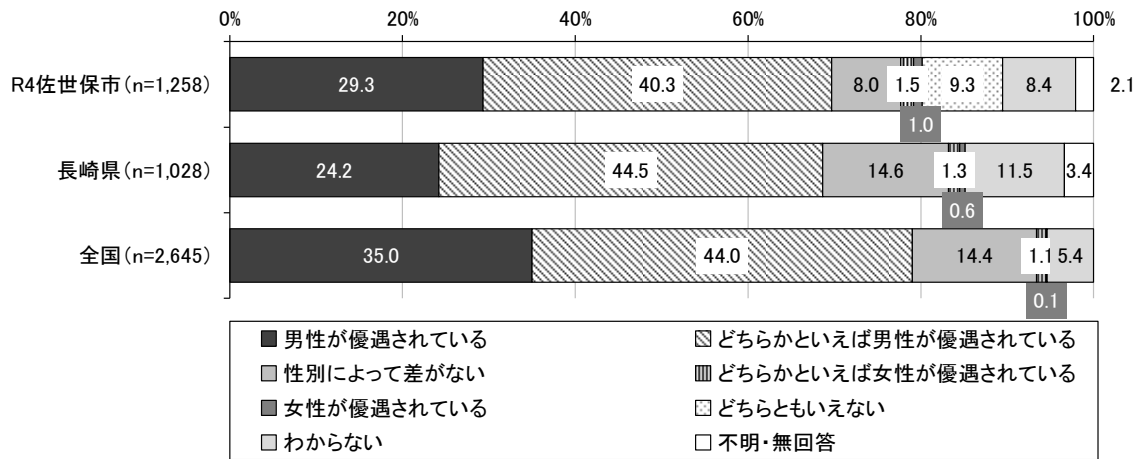
男女別にみると、女性では『男性優遇』が 77.9%と、男性と比べて 17.8 ポイント高くなっています。

性・年代別にみると、男女ともすべての年代で『男性優遇』が高くなっており、特に 40 歳代以上の女性では 8 割以上となっています。



全国・長崎県と比較すると、『男性優遇』は全国より低く、長崎県より高くなっています。また、「性別によって差がない」は全国、長崎県より低くなっています。  
前々回調査をみると、今回調査同様、『男性優遇』が高くなっています。

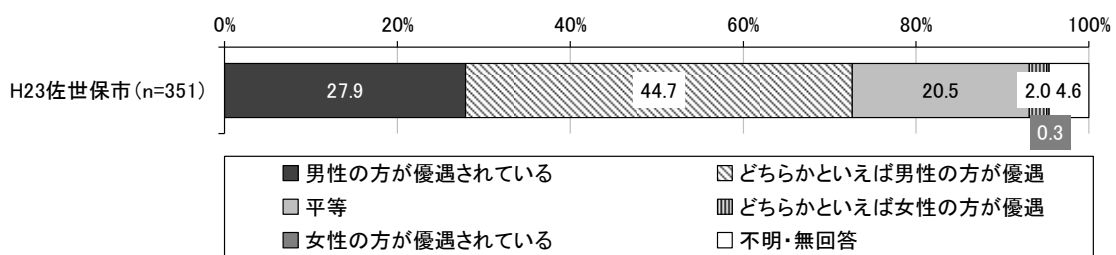
【全国・長崎県比較】



※全国・長崎県調査は令和元年度調査。

全国調査の選択肢：「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「平等」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が非常に優遇されている」「わからない」。  
長崎県調査の選択肢：「男性の方が非常に優遇」「どちらかと言えば男性の方が優遇」「平等である」「どちらかと言えば女性の方が優遇」「女性の方が非常に優遇」「わからない」。  
全国・長崎県調査では選択肢「どちらともいえない」はなし。全国調査では「不明・無回答」はなし。

【参考：前々回調査 (H23)】



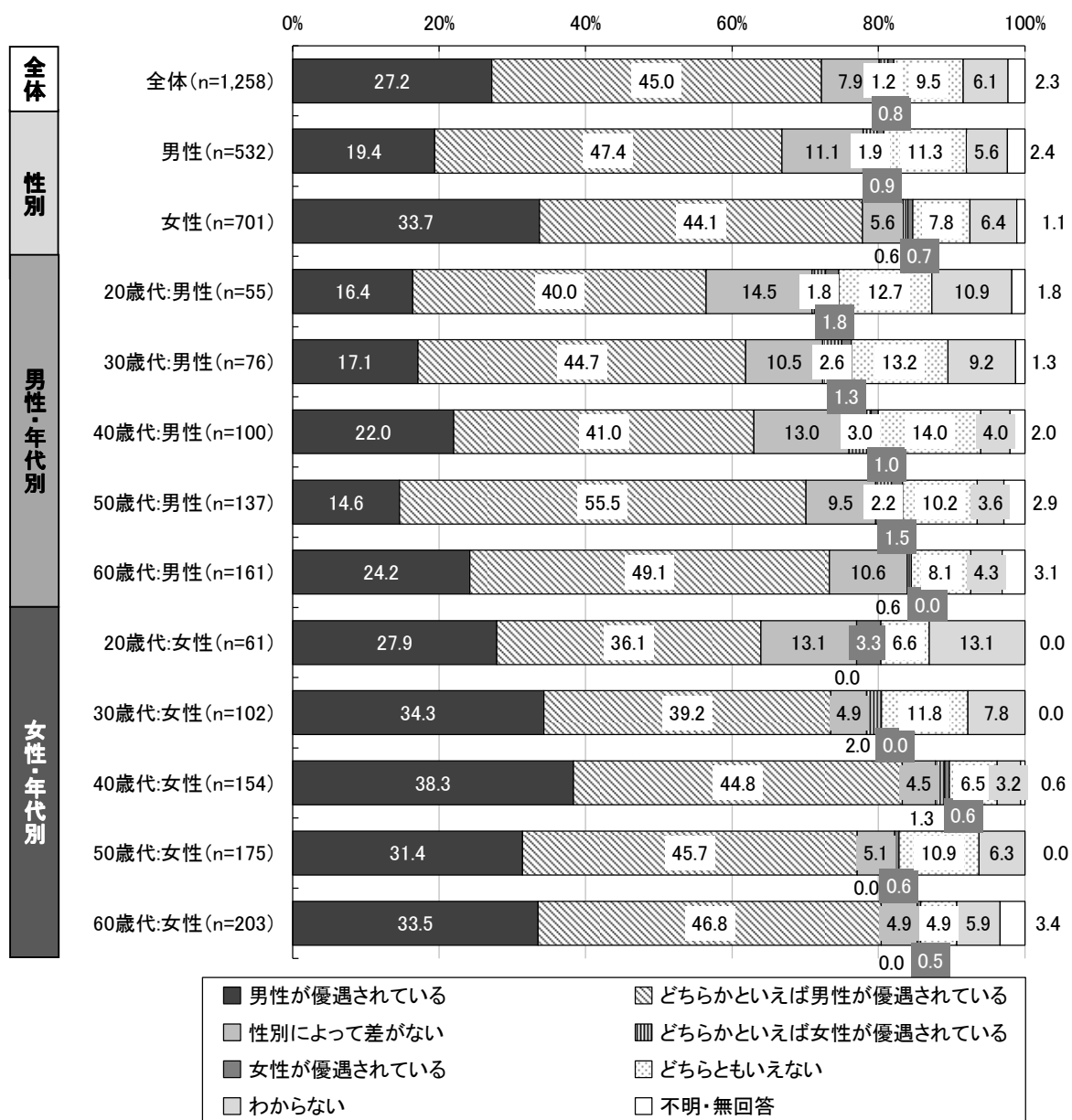
※選択肢内容に違いがあるため、参考として記載しています。

## (6) 社会通念や、慣習・しきたりで

社会通念や、慣習・しきたりにおける男女の地位の平等感についてみると、全体では「どちらかといえば男性が優遇されている」が45.0%と最も高く、次いで「男性が優遇されている」が27.2%となっています。『男性優遇』は72.2%、『女性優遇』は2.0%となっています。

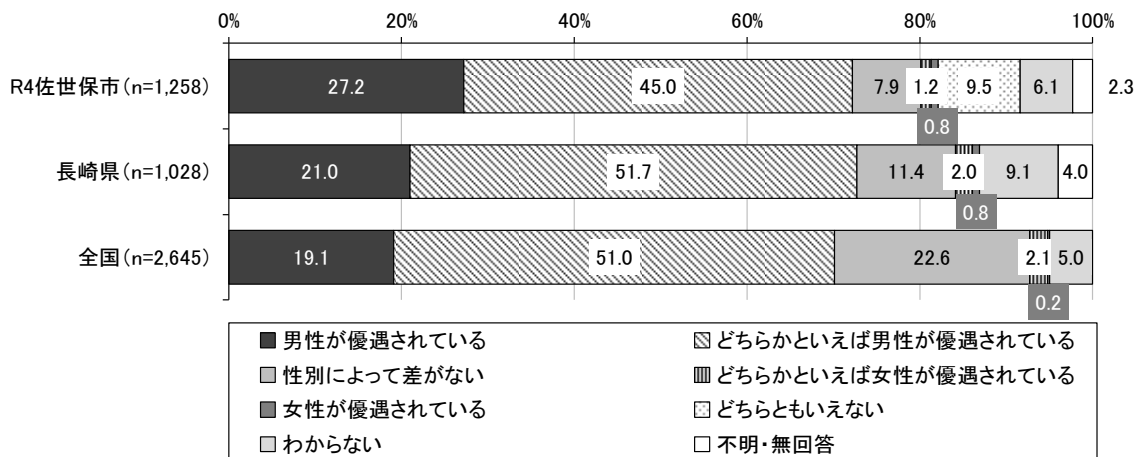
男女別にみると、女性では『男性優遇』が77.8%と、男性と比べて11.0ポイント高くなっています。

性・年代別にみると、男女ともすべての年代で『男性優遇』が高くなっており、特に40歳代、60歳代女性では8割以上となっています。



全国・長崎県と比較すると、『男性優遇』は全国より高く、長崎県より低くなっていますが、ほぼ同程度となっています。また、「性別によって差がない」は全国、長崎県より低くなっています。前々回調査をみると、今回調査同様、『男性優遇』が高くなっています。

### 【全国・長崎県比較】



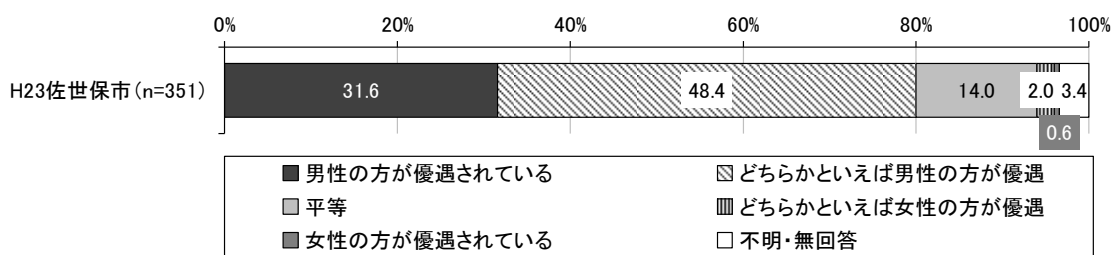
※全国・長崎県調査は令和元年度調査。

全国調査の選択肢：「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「平等」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が非常に優遇されている」「わからない」。

長崎県調査の選択肢：「男性の方が非常に優遇」「どちらかと言えば男性の方が優遇」「平等である」「どちらかと言えば女性の方が優遇」「女性の方が非常に優遇」「わからない」。

全国・長崎県調査では選択肢「どちらともいえない」はなし。全国調査では「不明・無回答」はなし。

### 【参考：前々回調査 (H23)】



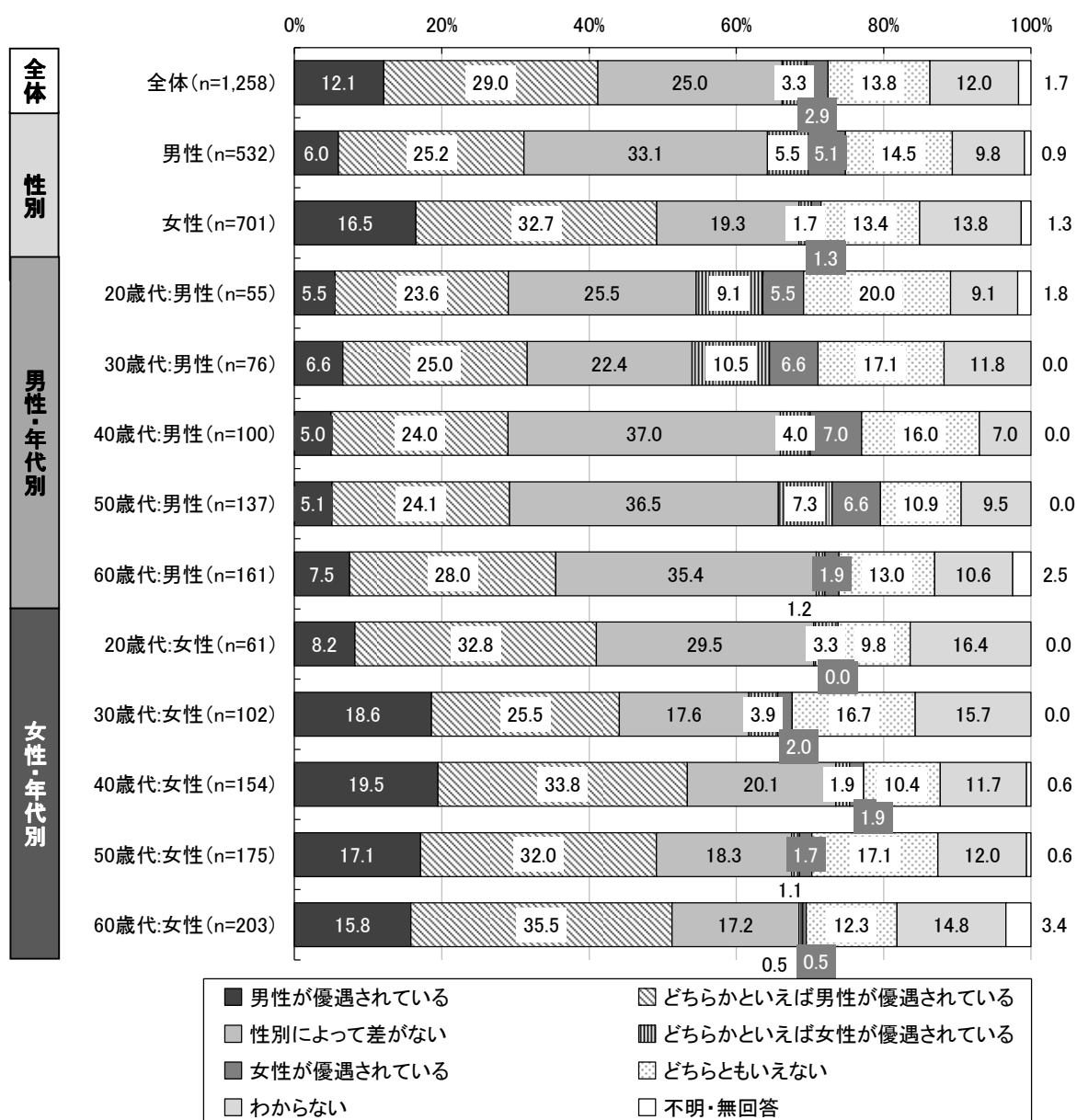
※選択肢内容に違いがあるため、参考として記載しています。

### (7) 法律や制度の上で

法律や制度の上における男女の地位の平等感についてみると、全体では「どちらかといえば男性が優遇されている」が29.0%と最も高く、次いで「性別によって差がない」が25.0%となっています。『男性優遇』は41.1%、『女性優遇』は6.2%となっています。

男女別にみると、女性では『男性優遇』が49.2%と、男性と比べて18.0ポイント高くなっています。

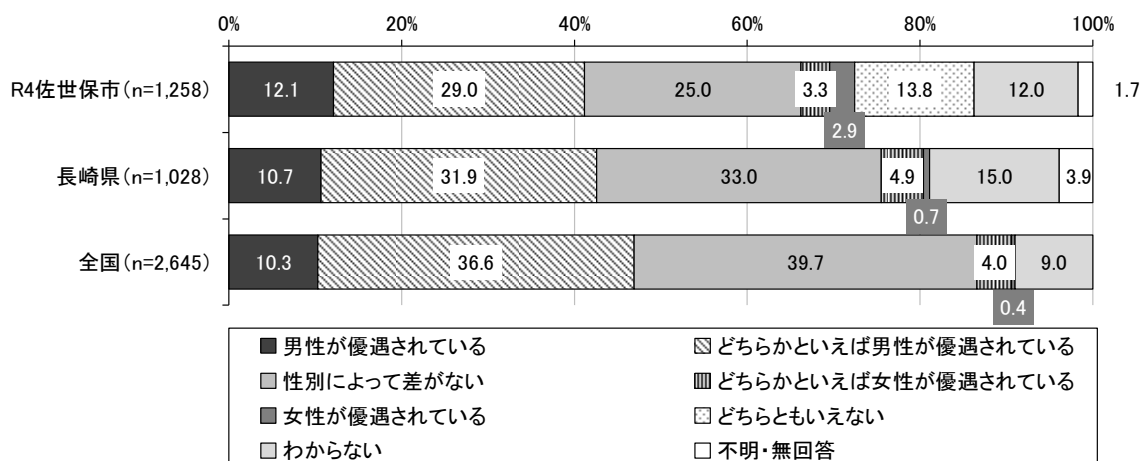
性・年代別にみると、女性ではすべての年代で『男性優遇』が高くなっており、特に40歳代、60歳代女性では5割以上となっています。また、40歳代以上の男性では「性別によって差がない」が3割台半ばと、他と比べて高くなっています。



全国・長崎県と比較すると、『男性優遇』は全国、長崎県より低くなっています。また、「性別によって差がない」は全国、長崎県より低くなっています。

前々回調査と比較すると、前々回調査では「平等」が最も高くなっていますが、今回調査では「どちらかといえば男性が優遇されている」が高くなっています。

### 【全国・長崎県比較】



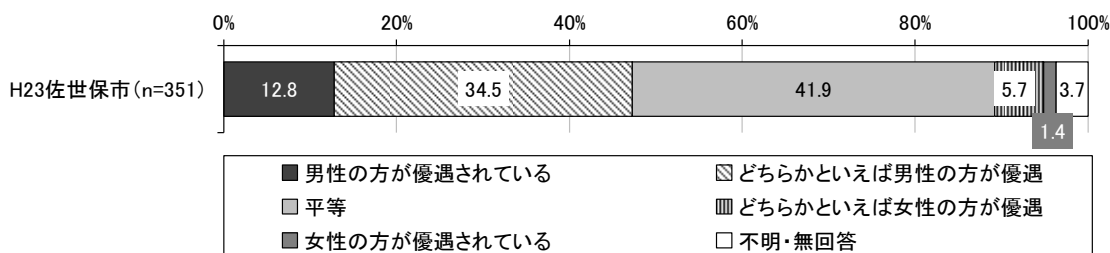
※全国・長崎県調査は令和元年度調査。

全国調査の選択肢：「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「平等」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が非常に優遇されている」「わからない」。

長崎県調査の選択肢：「男性の方が非常に優遇」「どちらかといえば男性の方が優遇」「平等である」「どちらかといえば女性の方が優遇」「女性の方が非常に優遇」「わからない」。

全国・長崎県調査では選択肢「どちらともいえない」はなし。全国調査では「不明・無回答」はなし。

### 【参考：前々回調査 (H23)】



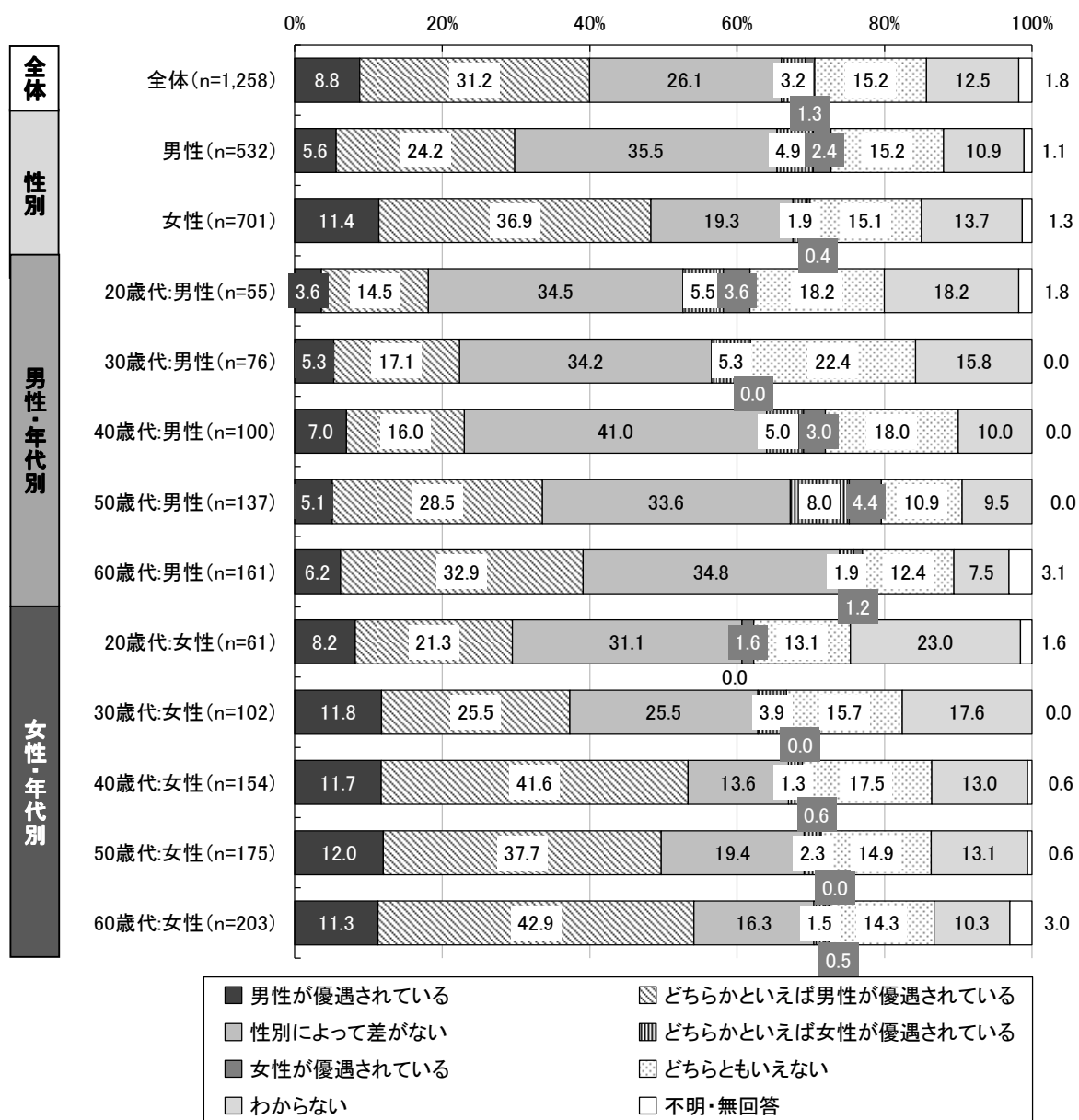
※選択肢内容に違いがあるため、参考として記載しています。

### (8) 地域社会活動の場で

地域社会活動の場における男女の地位の平等感についてみると、全体では「どちらかといえば男性が優遇されている」が31.2%と最も高く、次いで「性別によって差がない」が26.1%となっています。『男性優遇』は40.0%、『女性優遇』は4.5%となっています。

男女別にみると、女性では『男性優遇』が48.3%と、男性と比べて18.5ポイント高くなっています。

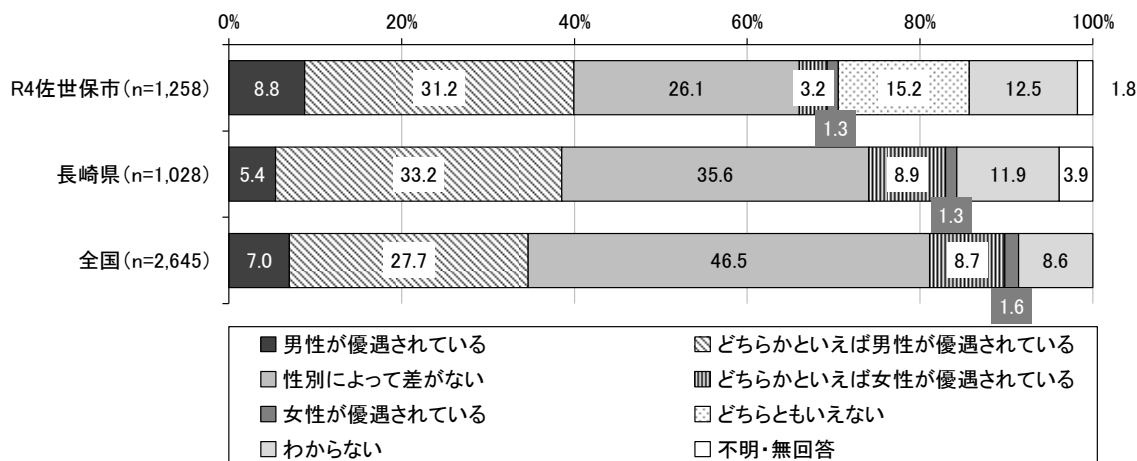
性・年代別にみると、40歳代以下の男性、20歳代女性では「性別によって差がない」、60歳代男性、30歳代以上の女性では『男性優遇』が高くなっており、特に40歳代、60歳代女性では5割以上となっています。また、50歳代男性では『男性優遇』『性別によって差がない』が33.6%と、同率となっています。



全国・長崎県と比較すると、『男性優遇』は全国、長崎県より高くなっています。また、「性別によって差がない」は全国、長崎県より低くなっています。

前々回調査と比較すると、前々回調査では「平等」が最も高くなっていますが、今回調査では「どちらかといえば男性が優遇されている」が高くなっています。

### 【全国・長崎県比較】



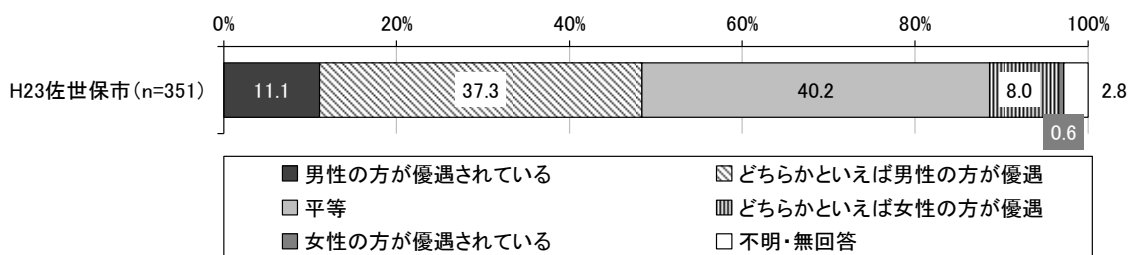
※全国・長崎県調査は令和元年度調査。

全国調査の選択肢：「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「平等」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が非常に優遇されている」「わからない」。

長崎県調査の選択肢：「男性の方が非常に優遇」「どちらかといえば男性の方が優遇」「平等である」「どちらかといえば女性の方が優遇」「女性の方が非常に優遇」「わからない」。

全国・長崎県調査では選択肢「どちらともいえない」はなし。全国調査では「不明・無回答」はなし。

### 【参考：前々回調査 (H23)】



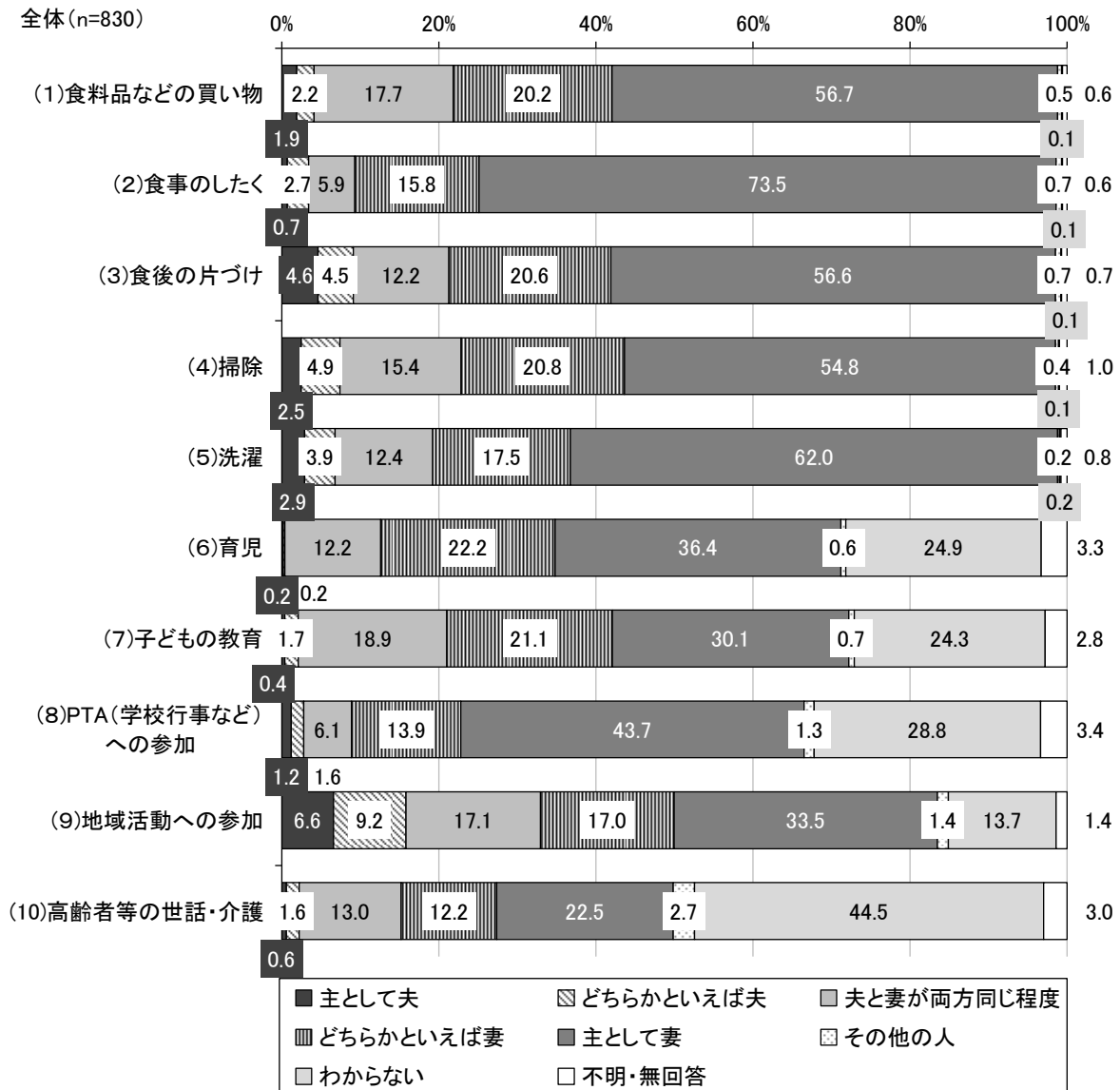
※選択肢内容に違いがあるため、参考として記載しています。



問3は、問1-③で「結婚している（パートナーと暮らしている人も含む）」と回答した方におたずねします。

問3 あなたの家庭での家事の分担について、お選びください。（それぞれ1つに○）

家庭での家事の分担についてみると、【(10)高齢者等の世話・介護】では「わからない」、その他の項目では「主として妻」が最も高くなっています。特に【(2)食事のしたく】では『妻』（「主として妻」と「どちらかといえば妻」の合計）が89.3%と、他の項目と比べて高くなっています。また、【(9)地域活動への参加】では『夫』（「主として夫」と「どちらかといえば夫」の合計）が15.8%と、他の項目と比べて高くなっています。

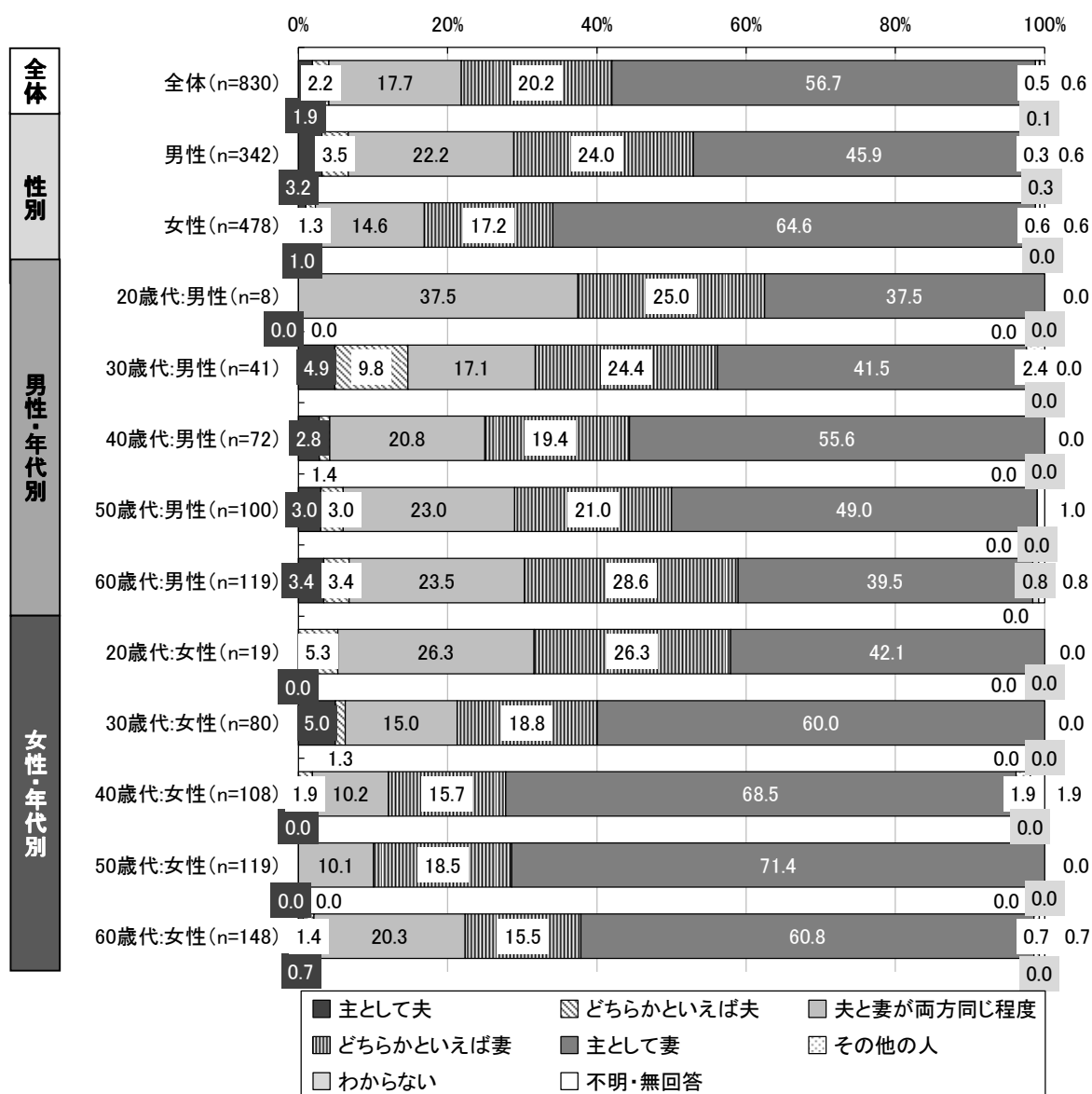


## (1) 食料品などの買い物

食料品などの買い物の分担についてみると、全体では「主として妻」が56.7%と最も高く、次いで「どちらかといえば妻」が20.2%となっています。『夫』は4.1%、『妻』は76.9%となっています。

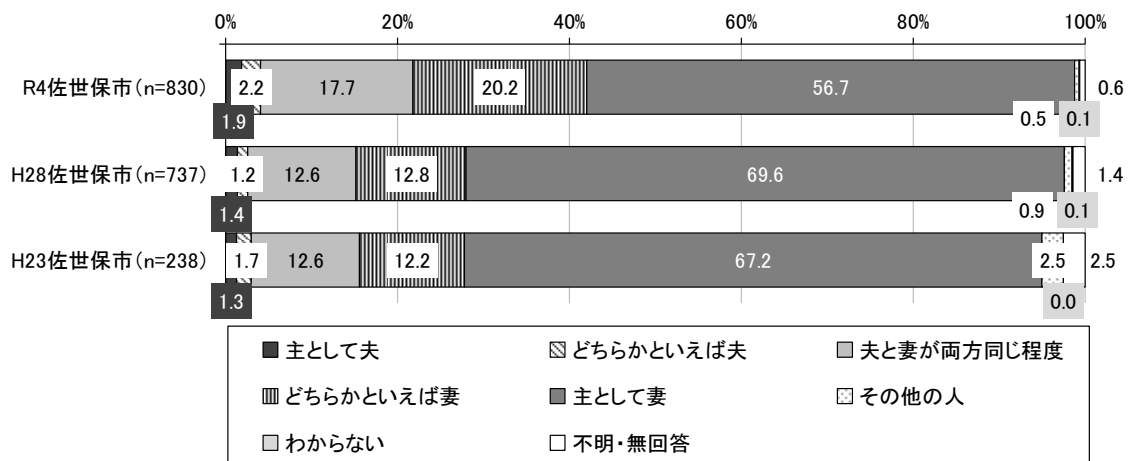
男女別にみると、女性では『妻』が81.8%と、男性と比べて11.9ポイント高くなっています。

性・年代別にみると、男女ともすべての年代で『妻』が高くなっており、特に40歳代、50歳代女性では8割以上となっています。また、30歳代男性では『夫』が14.7%と、他と比べて高くなっています。



食料品などの買い物の分担について、前回調査、前々回調査と比較すると、「夫と妻が両方同じ程度」の割合が約5ポイント増加しています。

【前回（H28）、前々回（H23）調査比較】

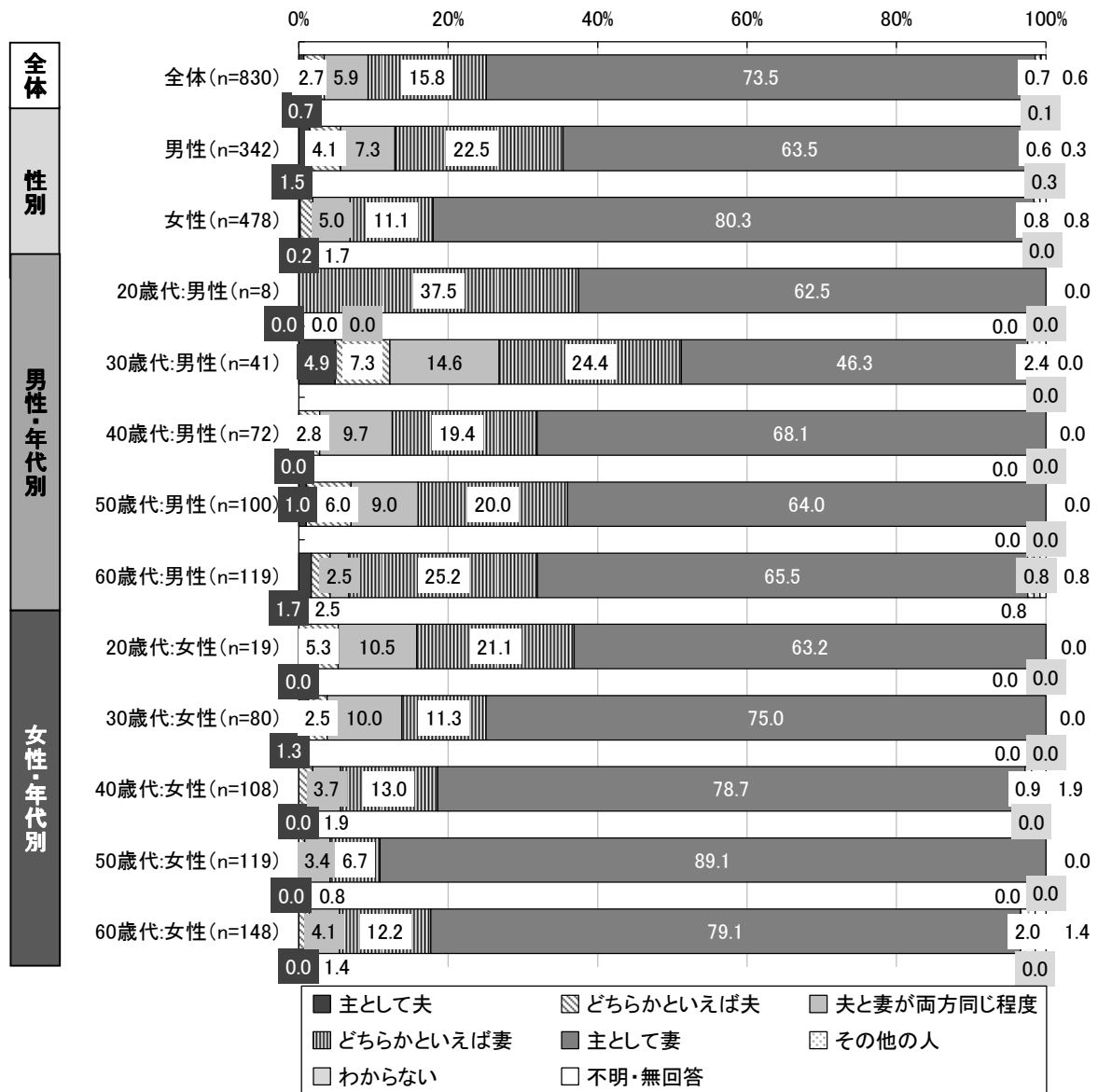


## (2) 食事のしたく

食事のしたくの分担についてみると、全体では「主として妻」が73.5%と最も高く、次いで「どちらかといえば妻」が15.8%となっています。『夫』は3.4%、『妻』は89.3%となっています。

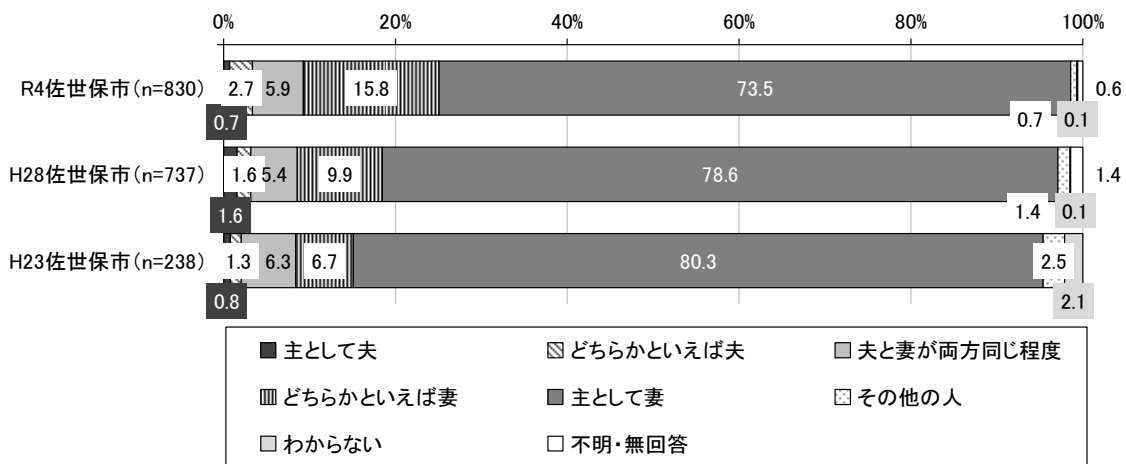
男女別にみると、女性では『妻』が91.4%と、男性と比べて5.4ポイント高くなっています。

性・年代別にみると、男女ともすべての年代で『妻』が高くなっており、特に60歳代男性、40歳代以上の女性では9割以上となっています。また、30歳代男性では『夫』が12.2%と、他と比べて高くなっています。



食事のしたくの分担について、前回調査、前々回調査と比較すると、どの調査においても『妻』の割合が高くなっていますが、その中でも「どちらかといえば妻」の割合が調査ごとに増加傾向となっています。

【前回（H28）、前々回（H23）調査比較】



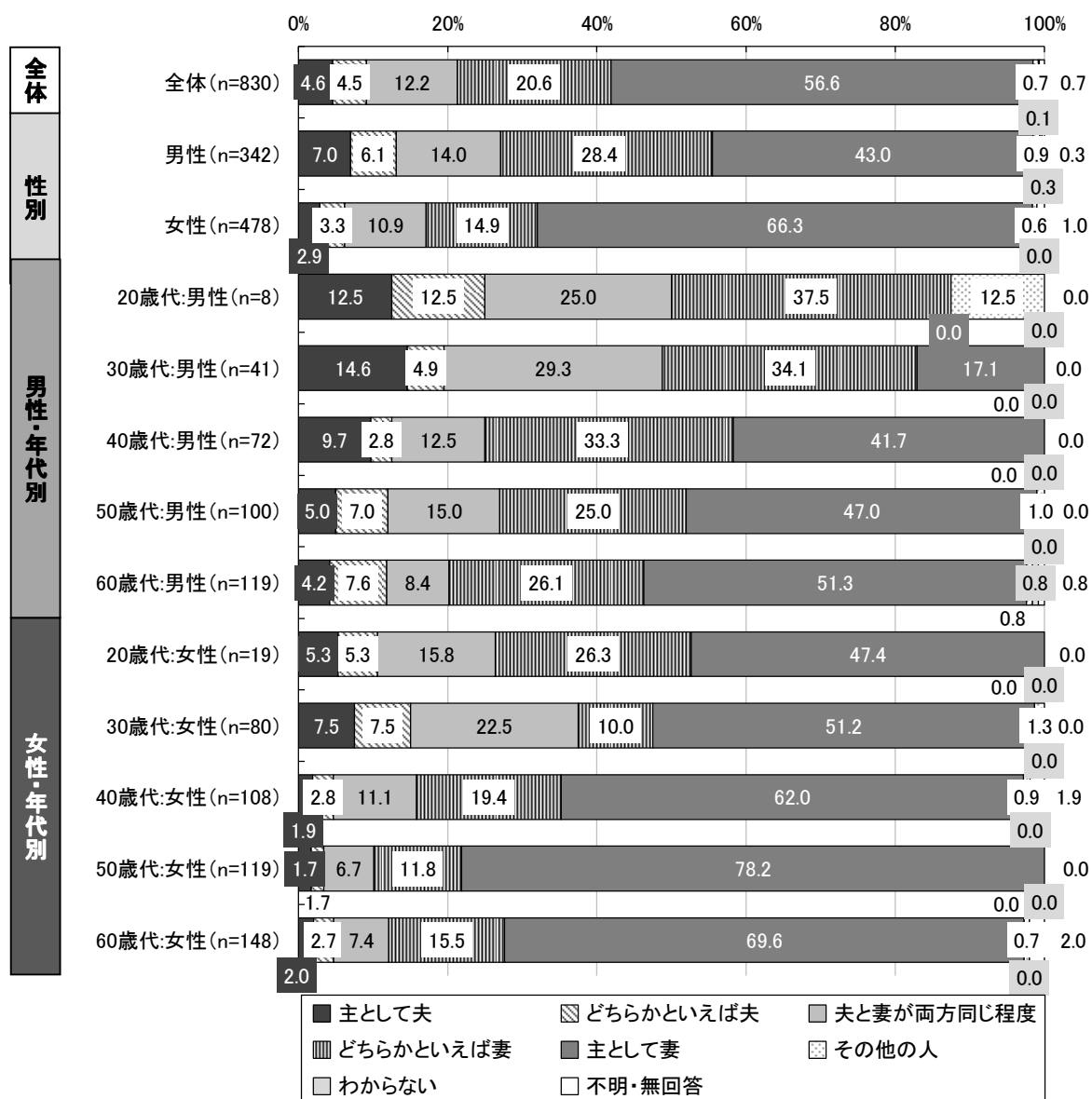
※H23 佐世保市では「不明・無回答」はなかったため、数値を記載していません。

### (3) 食後の片づけ

食後の片づけの分担についてみると、全体では「主として妻」が56.6%と最も高く、次いで「どちらかといえば妻」が20.6%となっています。『夫』は9.1%、『妻』は77.2%となっています。

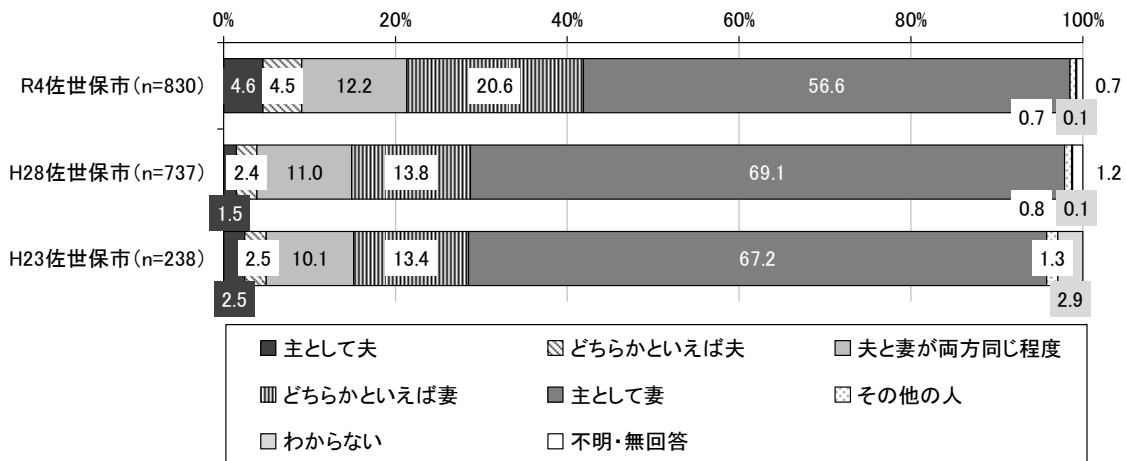
男女別にみると、女性では『妻』が81.2%と、男性と比べて9.8ポイント高くなっています。

性・年代別にみると、男女ともすべての年代で『妻』が高くなっており、特に40歳代以上の女性では8割以上となっています。また、30歳代男性では「夫と妻が両方同じ程度」が29.3%と、他と比べて高くなっています。



食後の片づけの分担について、前回調査、前々回調査と比較すると、今回調査では『夫』の割合が9.1%となっており、前回、前々回より高くなっています。

【前回（H28）、前々回（H23）調査比較】



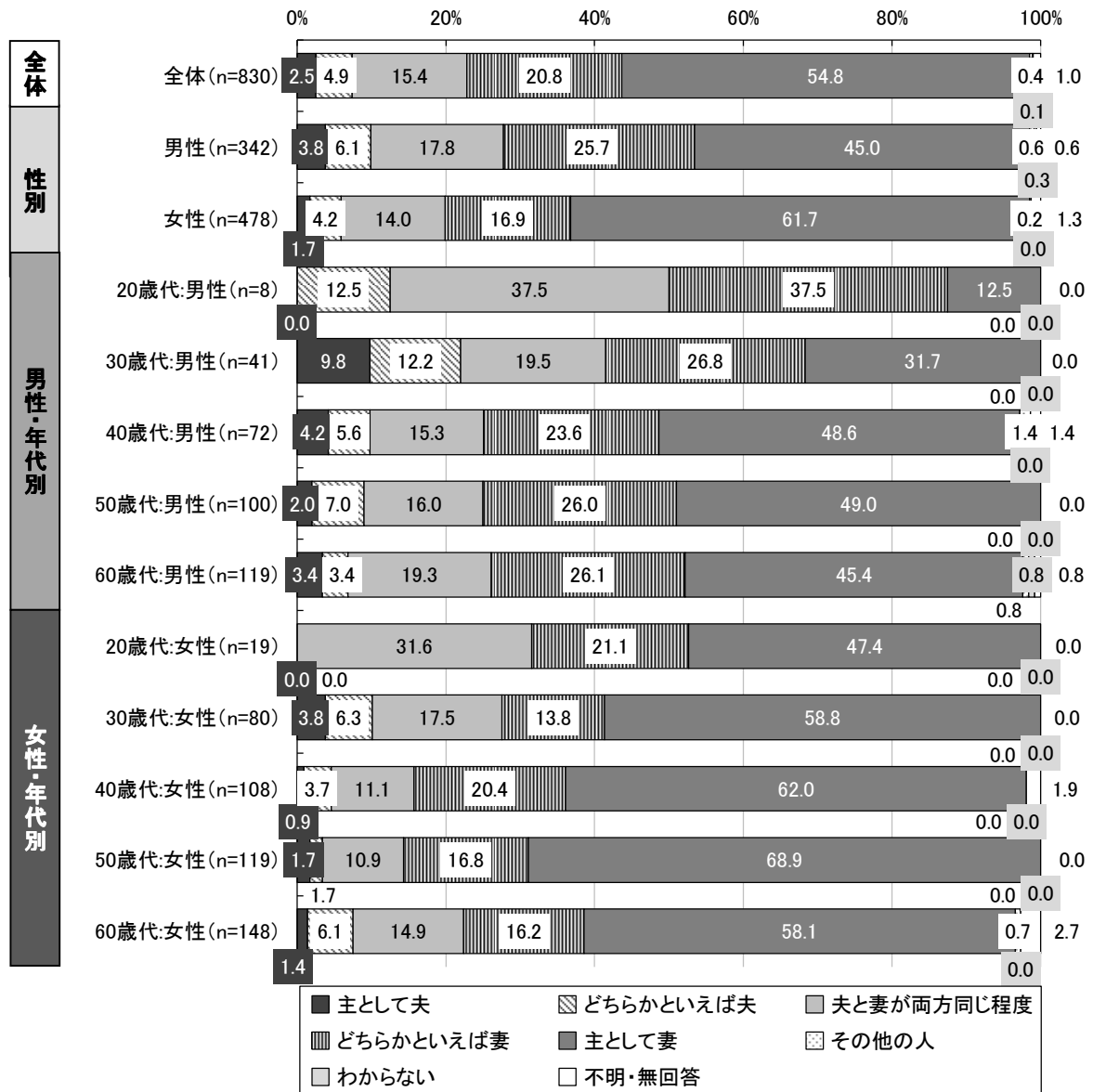
※H23 佐世保市では「不明・無回答」はなかったため、数値を記載していません。

#### (4) 掃除

掃除の分担についてみると、全体では「主として妻」が54.8%と最も高く、次いで「どちらかといえば妻」が20.8%となっています。『夫』は7.4%、『妻』は75.6%となっています。

男女別にみると、女性では『妻』が78.6%と、男性と比べて7.9ポイント高くなっています。

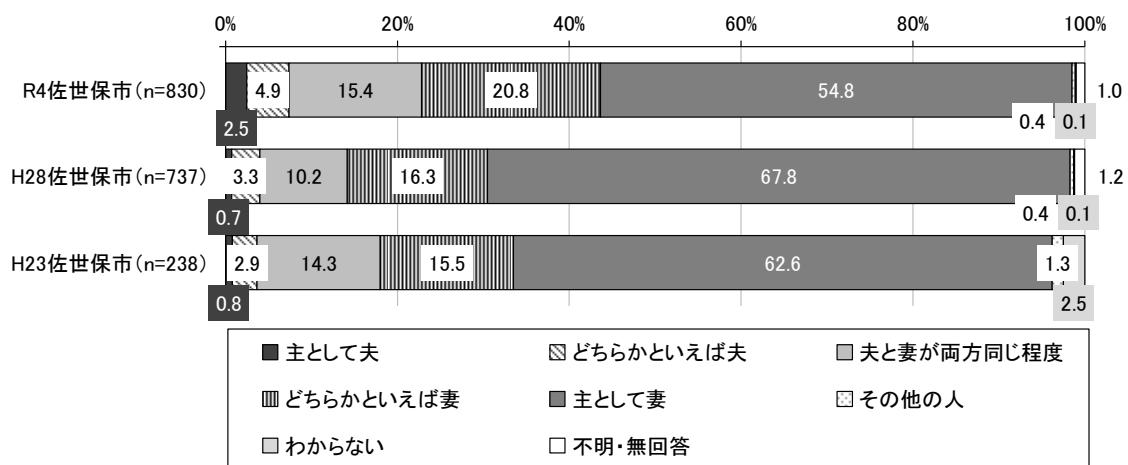
性・年代別にみると、男女ともすべての年代で『妻』が高くなっており、特に40歳代、50歳代女性では8割以上となっています。また、30歳代男性では『夫』が22.0%と、他と比べて高くなっています。





掃除の分担について、前回調査、前々回調査と比較すると、今回調査では『夫』の割合が7.4%、「夫と妻が両方同程度」の割合が15.4%となっており、前回、前々回調査より高くなっています。

【前回（H28）、前々回（H23）調査比較】



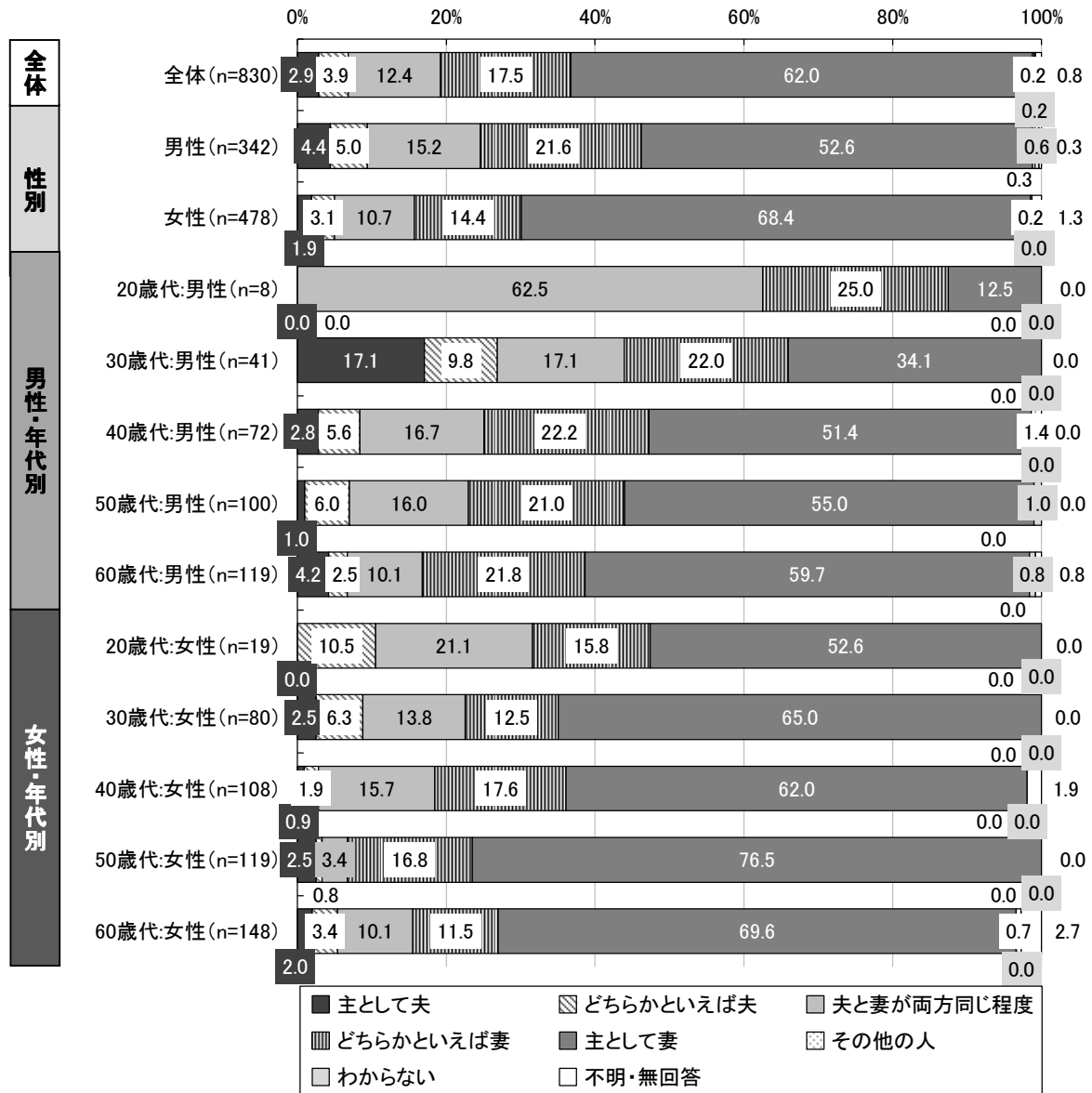
※H23 佐世保市では「不明・無回答」はなかったため、数値を記載していません。

### (5) 洗濯

洗濯の分担についてみると、全体では「主として妻」が62.0%と最も高く、次いで「どちらかといえば妻」が17.5%となっています。『夫』は6.8%、『妻』は79.5%となっています。

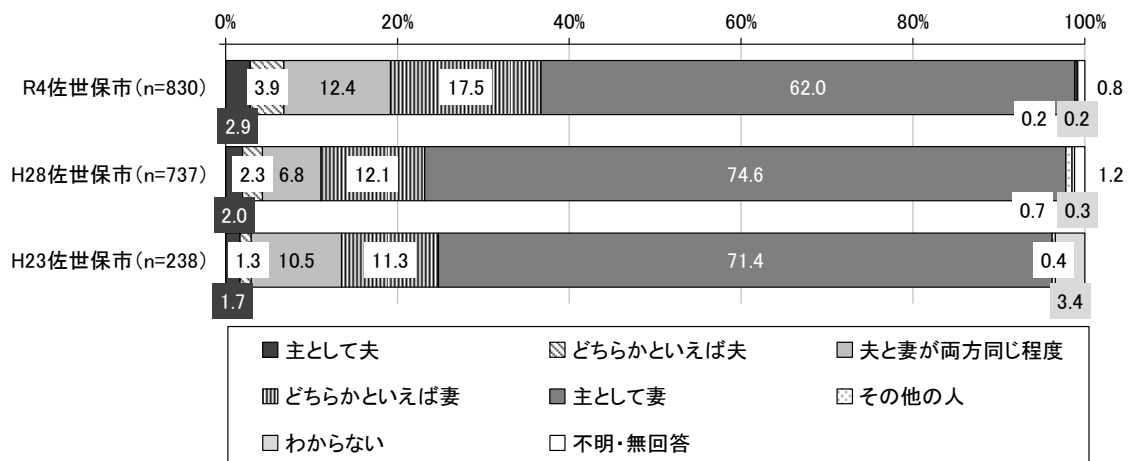
男女別にみると、女性では『妻』が82.8%と、男性と比べて8.6ポイント高くなっています。

性・年代別にみると、男女ともすべての年代で『妻』が高くなっており、特に50歳代女性では93.3%となっています。また、30歳代男性では『夫』が26.9%と、他と比べて高くなっています。



洗濯の分担について、前回調査、前々回調査と比較すると、今回調査では『夫』の割合が6.8%、「夫と妻が両方同じ程度」の割合が12.4%となっており、前回、前々回調査より高くなっています。

【前回（H28）、前々回（H23）調査比較】



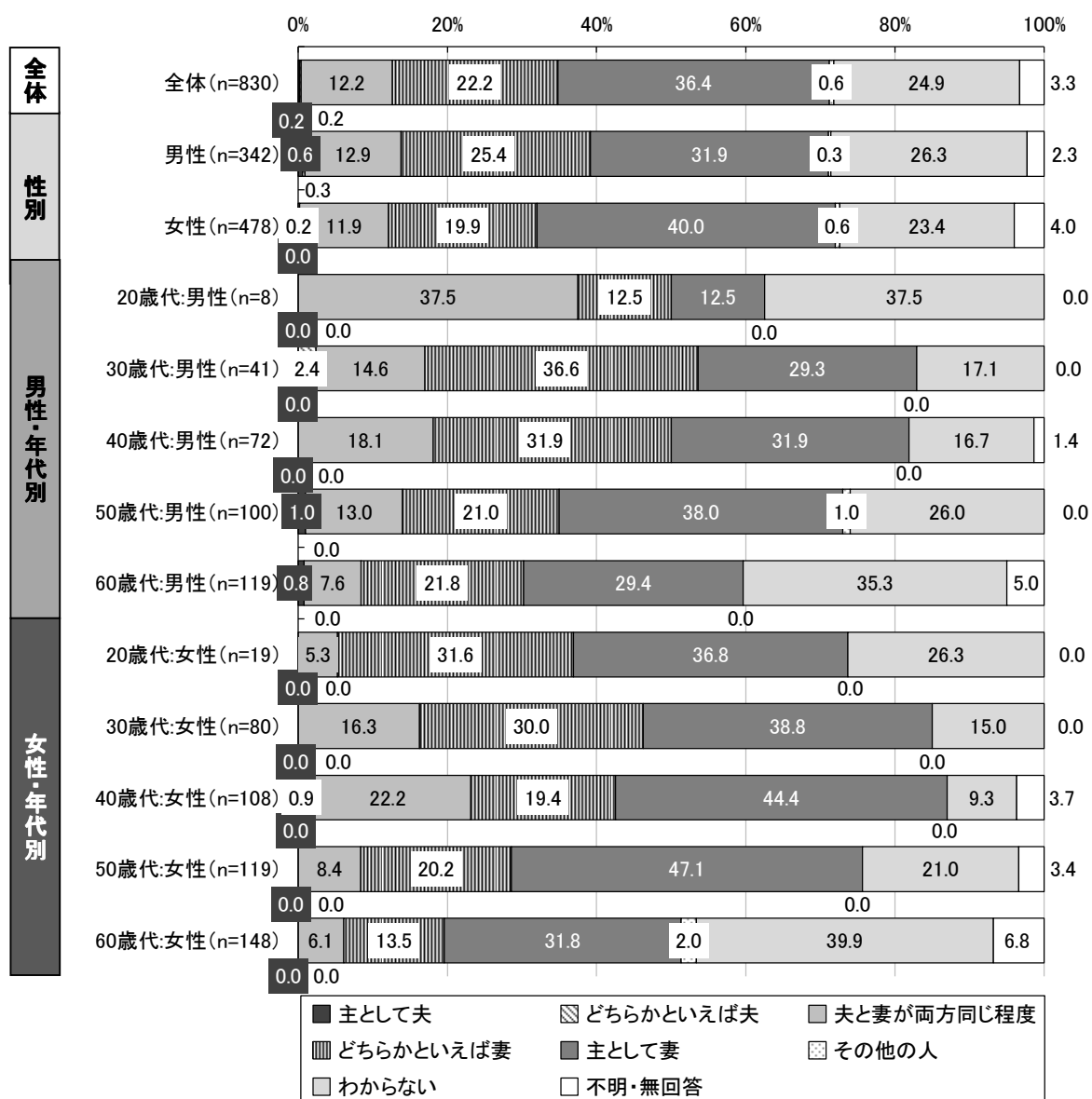
※H23 佐世保市では「不明・無回答」はなかったため、数値を記載していません。

## (6) 育児

育児の分担についてみると、全体では「主として妻」が36.4%と最も高く、次いで「わからない」が24.9%となっています。『夫』は0.4%、『妻』は58.6%となっています。

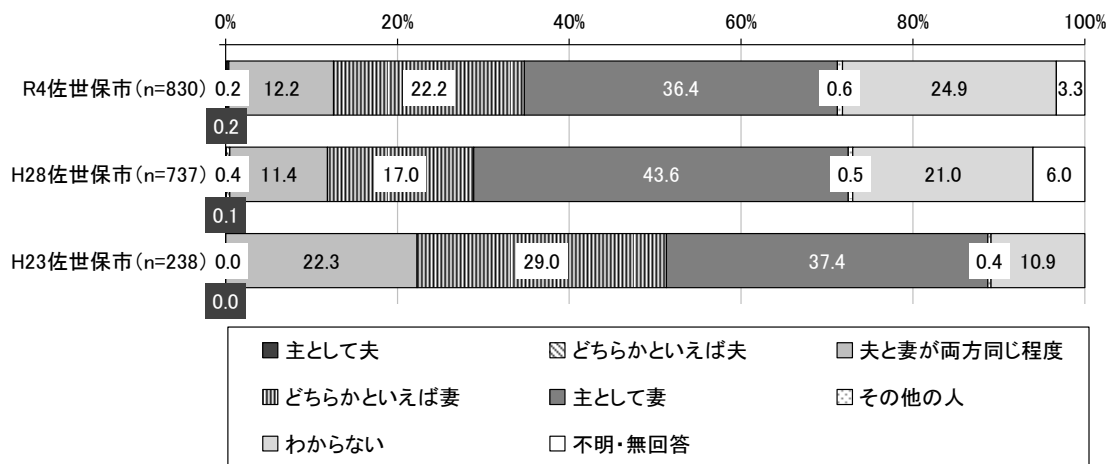
男女別にみると、女性では「主として妻」が40.0%と、男性と比べて8.1ポイント高くなっています。

性・年代別にみると、男女ともすべての年代で『妻』が高くなっています。また、男女とも60歳代では「わからない」が3割台と、他と比べて高くなっています。



育児の分担について、前回調査、前々回調査と比較すると、「夫と妻が両方同じ程度」の割合が前々回調査と比較すると減少しています。また、「わからない」の割合が今回調査では 24.9%と前回調査、前々回調査と比較して増加しています。

【前回（H28）、前々回（H23）調査比較】



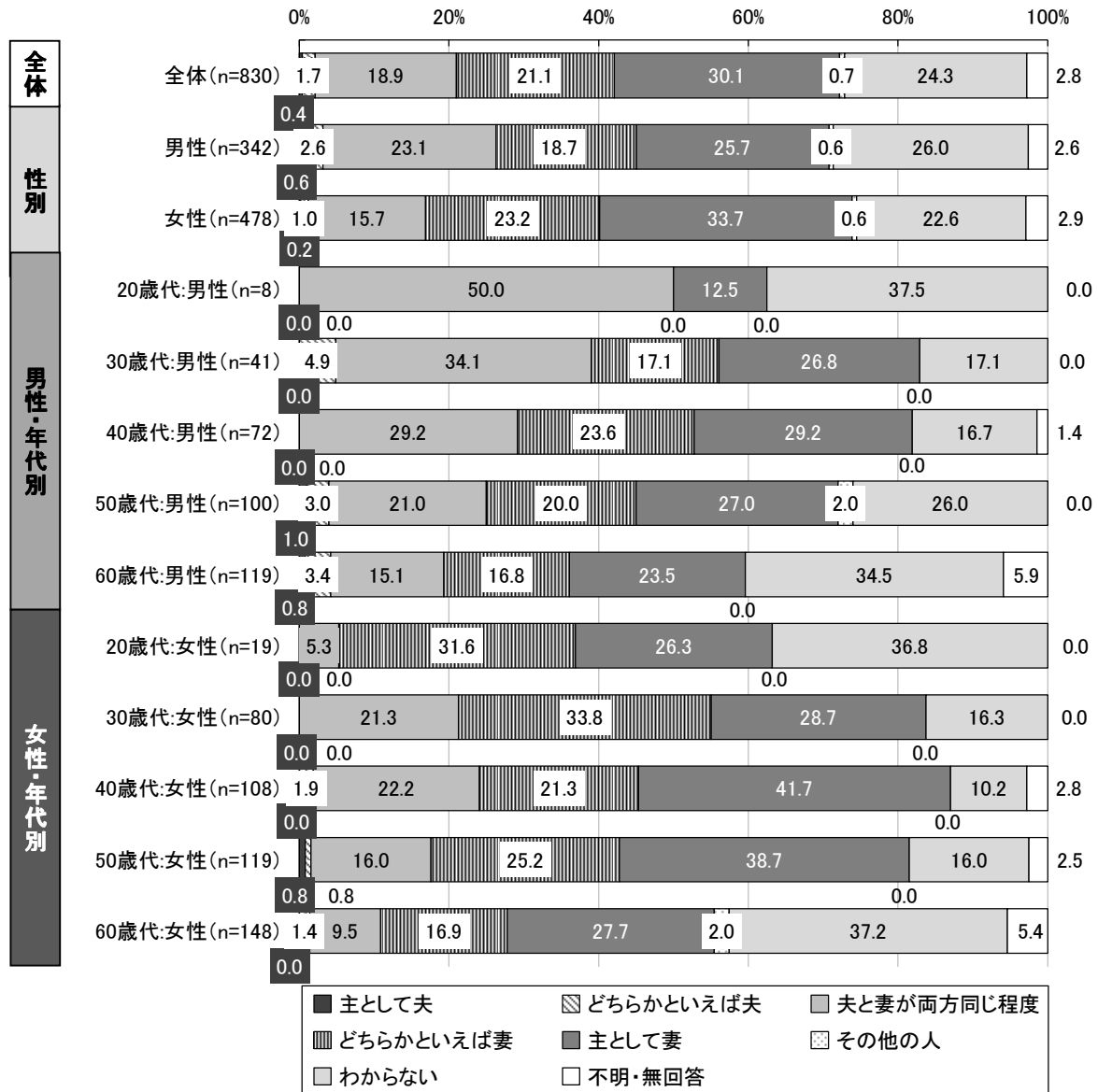
※H23 佐世保市では「不明・無回答」はなかったため、数値を記載していません。

## (7) 子どもの教育

子どもの教育の分担についてみると、全体では「主として妻」が30.1%と最も高く、次いで「わからない」が24.3%となっています。『夫』は2.1%、『妻』は51.2%となっています。

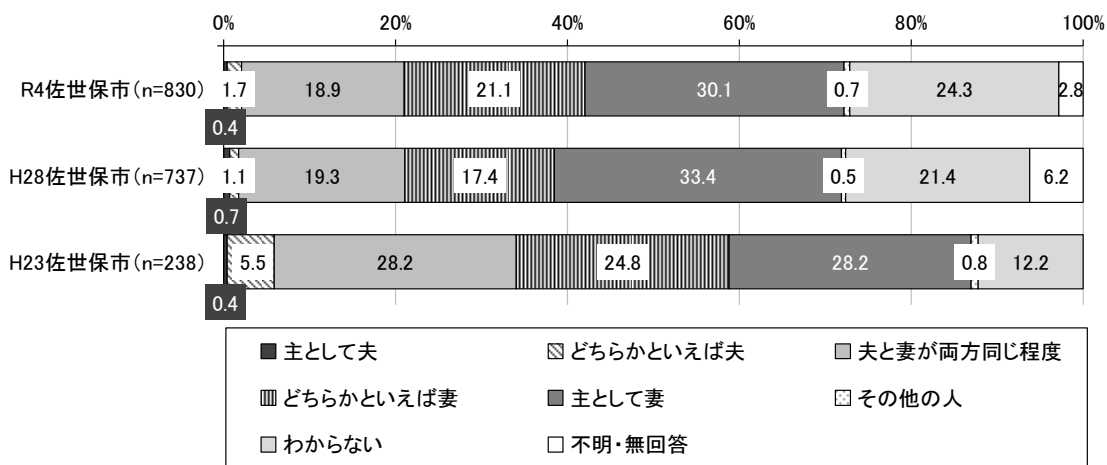
男女別にみると、女性では『妻』が56.9%と、男性と比べて12.5ポイント高くなっています。

性・年代別にみると、男女ともすべての年代で『妻』が高くなっており、特に30歳代~50歳代女性では6割台前半と高くなっています。また、30歳代男性では「夫と妻が両方同じ程度」が34.1%、20歳代女性、60歳代男女では「わからない」が3割台と、他と比べて高くなっています。



子どもの教育の分担について、前回調査、前々回調査と比較すると、「夫と妻が両方同じ程度」の割合が前々回調査と比較すると減少しています。また、「わからない」の割合が今回調査では24.3%と前回調査、前々回調査と比較して増加しています。

【前回（H28）、前々回（H23）調査比較】



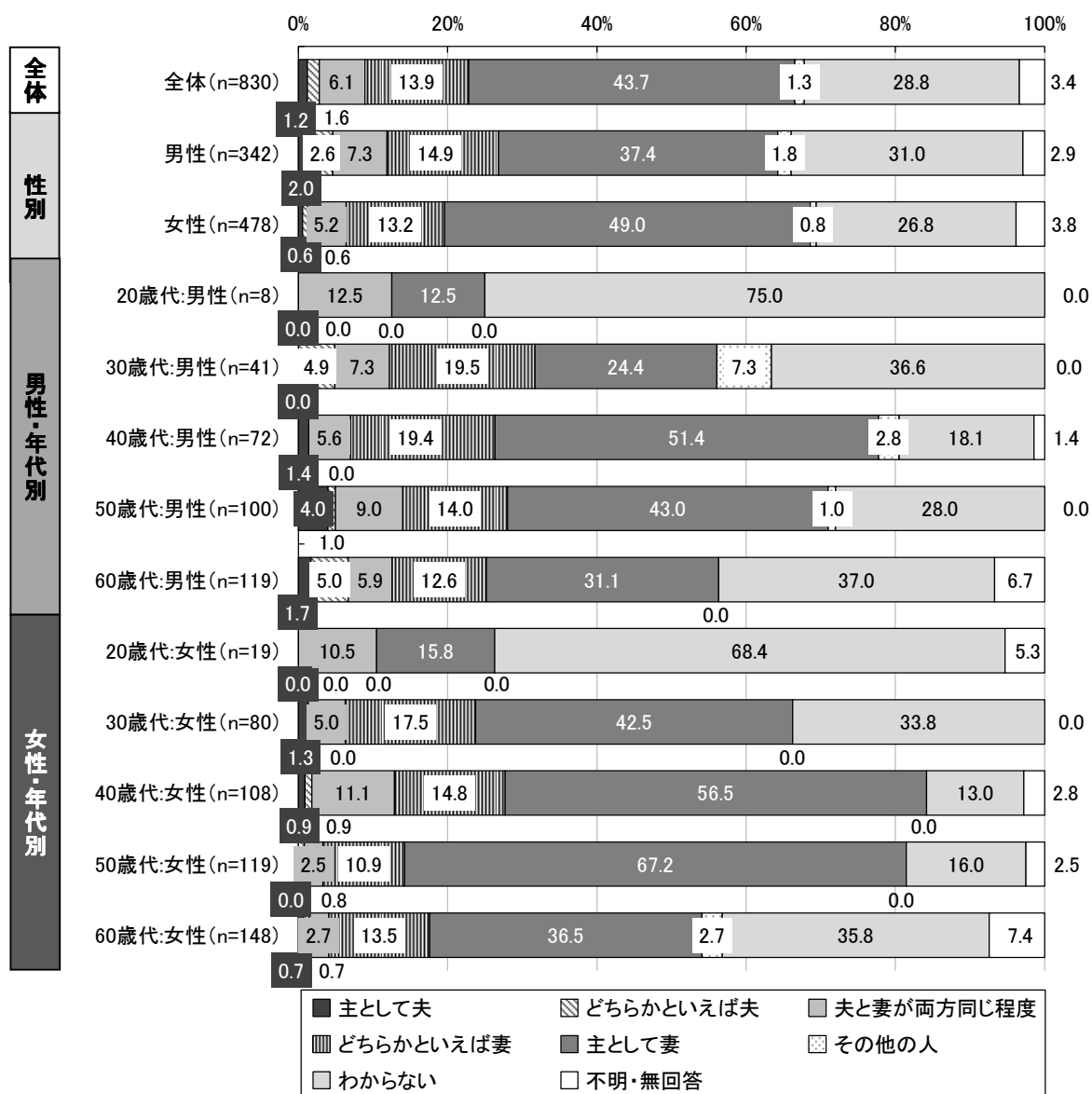
※H23 佐世保市では「不明・無回答」はなかったため、数値を記載していません。

## (8) PTA（学校行事など）への参加

PTA（学校行事など）への参加の分担についてみると、全体では「主として妻」が43.7%と最も高く、次いで「わからない」が28.8%となっています。『夫』は2.8%、『妻』は57.6%となっています。

男女別にみると、女性では『妻』が62.2%と、男性と比べて9.9ポイント高くなっています。

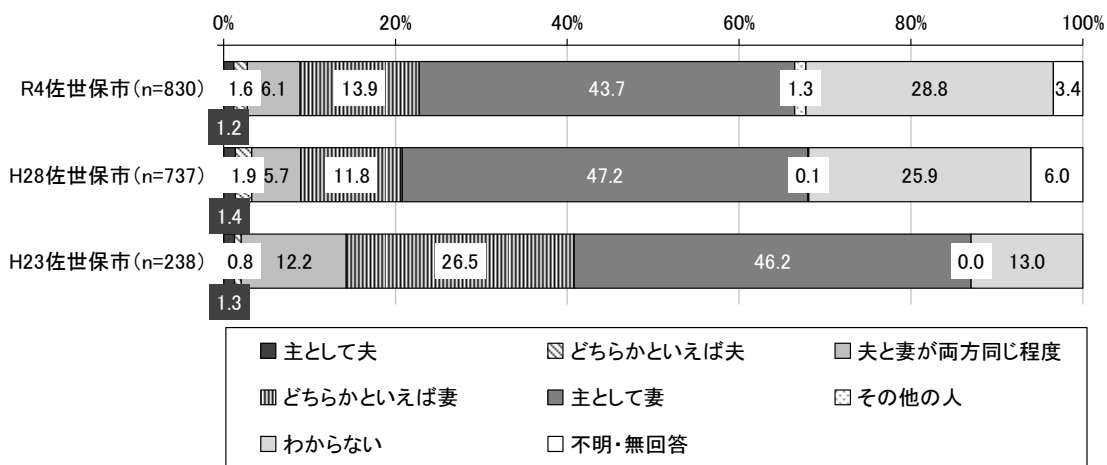
性・年代別にみると、20歳代女性では「わからない」、その他の性・年代では『妻』が高くなっており、特に40歳代の男女、50歳代女性では7割台となっています。





PTA（学校行事など）への参加の分担について、前回調査、前々回調査と比較すると、どの調査も『妻』の割合が高くなっています。また、「わからない」の割合が今回調査では 28.8%と前回調査、前々回調査と比較して増加しています。

【前回（H28）、前々回（H23）調査比較】



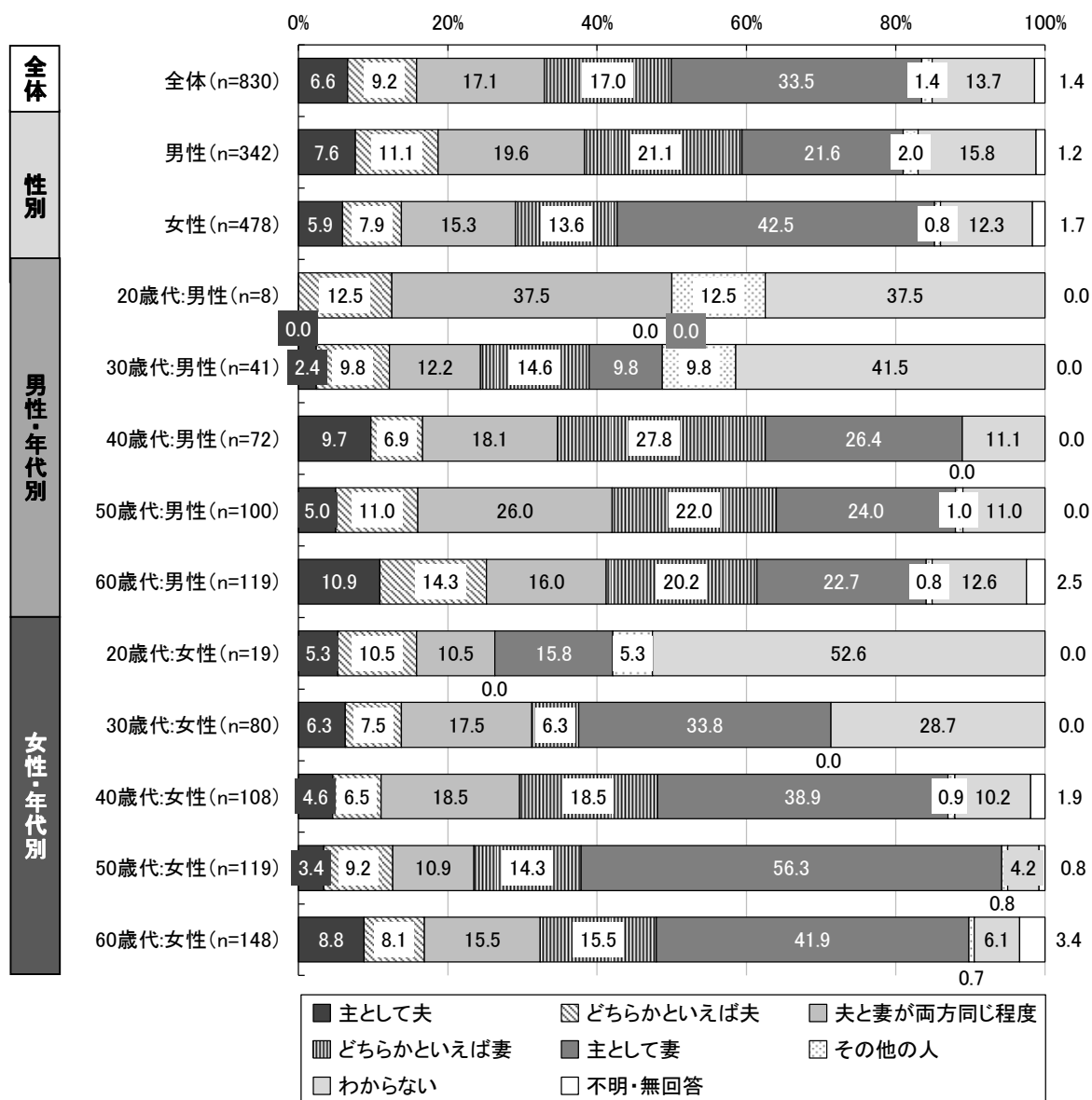
※H23 佐世保市では「不明・無回答」はなかったため、数値を記載していません。

### (9) 地域活動への参加

地域活動への参加の分担についてみると、全体では「主として妻」が33.5%と最も高く、次いで「夫と妻が両方同じ程度」が17.1%となっています。『夫』は15.8%、『妻』は50.5%となっています。

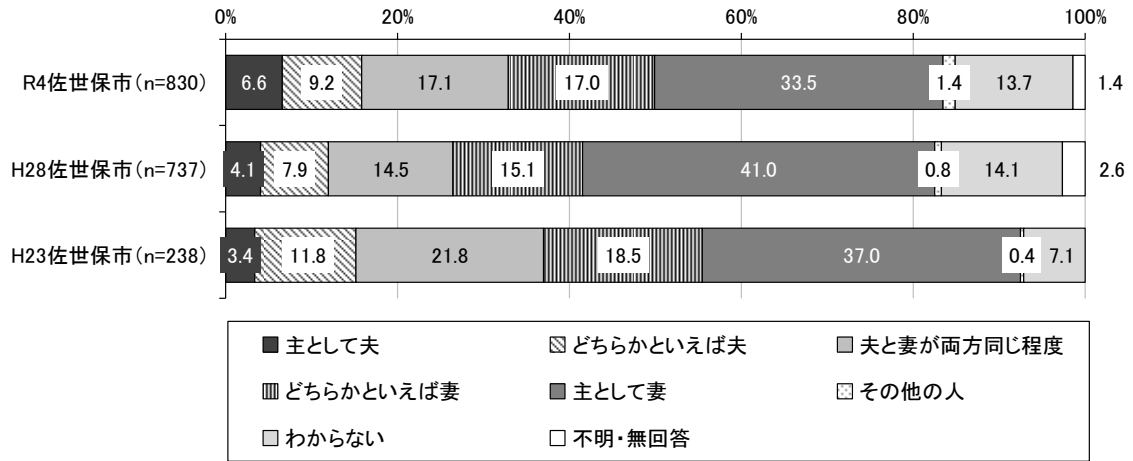
男女別にみると、女性では『妻』が56.1%と、男性と比べて13.4ポイント高くなっています。

性・年代別にみると、30歳代男性、20歳代女性では「わからない」、その他の性・年代では『妻』が高くなっており、特に50歳代女性では70.6%となっています。また、50歳代男性では「夫と妻が両方同じ程度」が26.0%と、他と比べて高くなっています。



地域活動への参加の分担について、前回調査、前々回調査と比較すると、前回調査から『夫』『夫と妻が両方同じ程度』の割合が増加し、一方『妻』の割合については減少がみられます。

【前回（H28）、前々回（H23）調査比較】



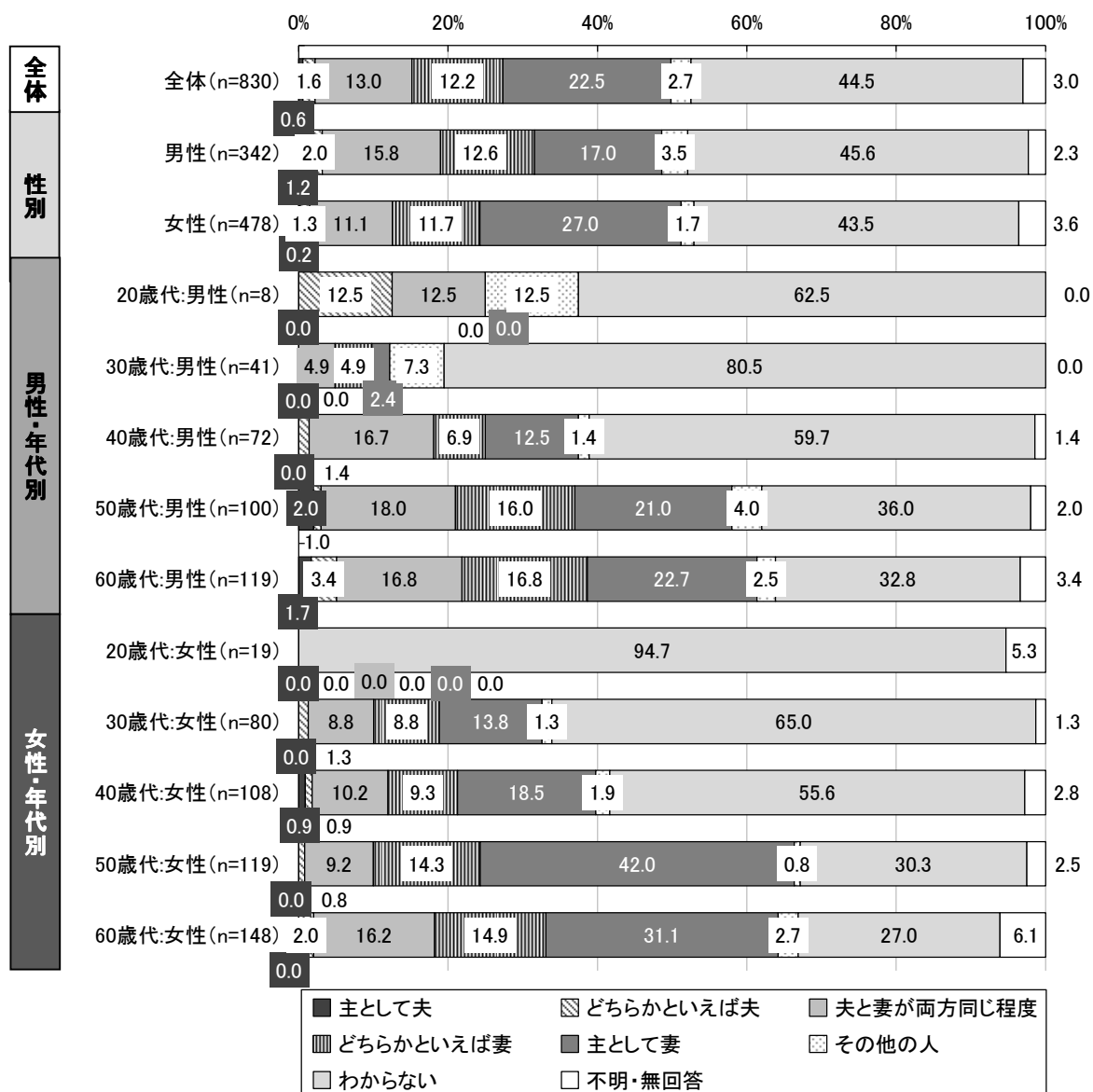
※H23 佐世保市では「不明・無回答」はなかったため、数値を記載していません。

### (10) 高齢者等の世話・介護

高齢者等の世話・介護の分担についてみると、全体では「わからない」が44.5%と最も高く、次いで「主として妻」が22.5%となっています。『夫』は2.2%、『妻』は34.7%となっています。

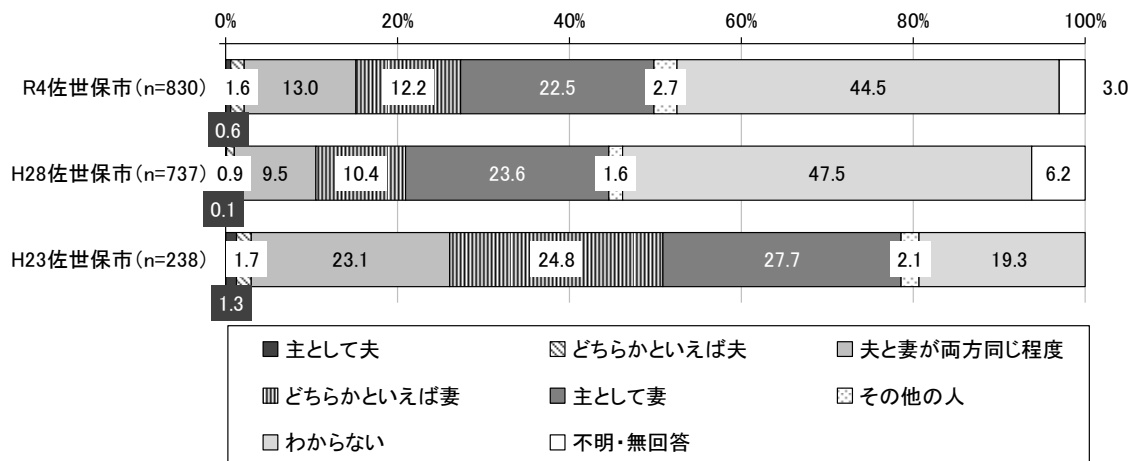
男女別にみると、女性では『妻』が38.7%と、男性と比べて9.1ポイント高くなっています。

性・年代別にみると、男女とも50歳代、60歳代では『妻』、その他の性・年代では「わからない」が高くなっており、特に50歳代女性では『妻』が56.3%となっています。



高齢者等の世話・介護の分担について、前回調査、前々回調査と比較すると、「夫と妻が両方同じ程度」が前々回調査から前回調査は減少、前回調査から今回調査は増加しています。また、今回調査と前回調査では「わからない」が4割以上となっており、前々回と比較して大きく増加しています。

【前回（H28）、前々回（H23）調査比較】



※H23 佐世保市では「不明・無回答」はなかったため、数値を記載していません。

問4 あなたは、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことについてみると、全体では「夫婦や家族間でのコミュニケーションをはかる」が47.5%と最も高く、次いで「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」が45.3%となっています。

男女別にみると、男性では「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」、女性では「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」が最も高くなっています。

性・年代別にみると、50歳代以上の男性では「夫婦や家族間でのコミュニケーションをはかる」、50歳代以上の女性では「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」、その他の性・年代では「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」が最も高くなっています。

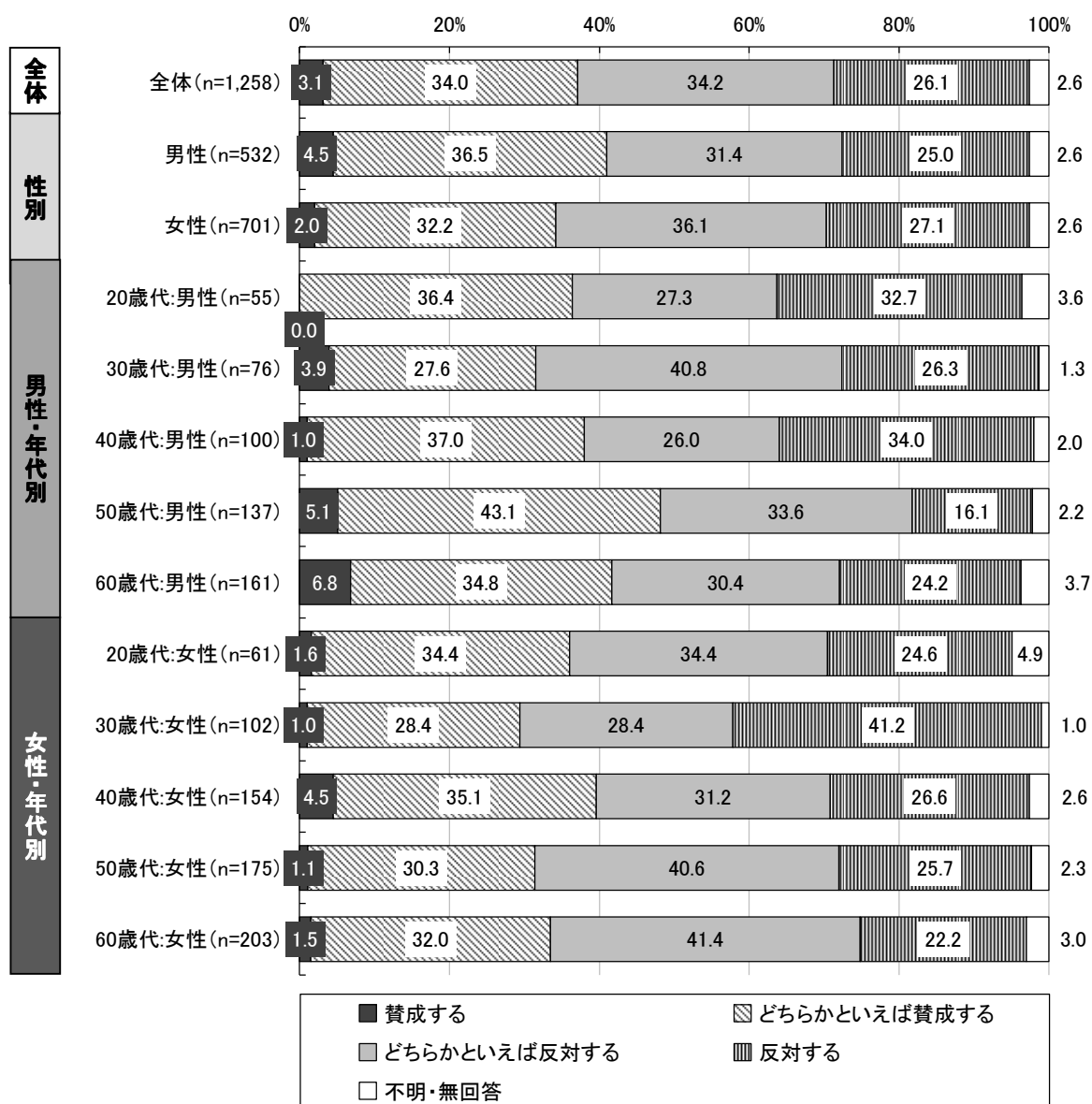
単位：%		男性が家事などに参加する抵抗感をなくす	夫婦や家族間でのコミュニケーションをはかる	夫婦の役割分担などを、まわりの人が尊重する	男性が家事、子育て、介護、地域活動を行うことへの意識を高める	労働時間短縮や休暇制度を普及する	男性が家事、子育て、介護、地域活動に関する心をとめる	その他	特になし	不明・無回答
全体 (n=1,258)		43.0	<b>47.5</b>	29.7	33.8	<b>45.3</b>	20.0	5.6	4.0	2.3
性別	男性 (n=532)	34.2	<b>48.7</b>	26.1	31.6	<b>50.2</b>	15.4	5.1	6.4	2.3
	女性 (n=701)	<b>50.2</b>	<b>46.4</b>	32.5	35.8	41.7	23.0	6.0	2.3	2.4
男性・年代別	20歳代:男性 (n=55)	34.5	<b>61.8</b>	23.6	27.3	<b>70.9</b>	12.7	3.6	0.0	1.8
	30歳代:男性 (n=76)	35.5	<b>53.9</b>	32.9	22.4	<b>55.3</b>	11.8	3.9	3.9	2.6
	40歳代:男性 (n=100)	28.0	<b>43.0</b>	25.0	39.0	<b>53.0</b>	23.0	6.0	3.0	1.0
	50歳代:男性 (n=137)	29.2	<b>48.9</b>	24.1	32.1	<b>48.2</b>	12.4	6.6	7.3	0.0
	60歳代:男性 (n=161)	<b>41.6</b>	<b>44.7</b>	25.5	32.9	<b>41.6</b>	16.1	3.7	10.6	5.0
女性・年代別	20歳代:女性 (n=61)	45.9	<b>54.1</b>	36.1	36.1	<b>57.4</b>	14.8	4.9	0.0	1.6
	30歳代:女性 (n=102)	<b>52.9</b>	<b>52.9</b>	33.3	30.4	<b>53.9</b>	14.7	6.9	0.0	1.0
	40歳代:女性 (n=154)	<b>42.9</b>	40.9	37.7	35.7	<b>46.1</b>	21.4	8.4	1.3	0.6
	50歳代:女性 (n=175)	<b>48.6</b>	<b>40.6</b>	28.0	38.9	36.0	23.4	5.7	3.4	3.4
	60歳代:女性 (n=203)	<b>56.7</b>	<b>49.8</b>	31.0	36.0	32.0	30.5	4.4	3.9	3.4

問5 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたの考えに最も近いものをお選びください。(1つに○)

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方についてみると、全体では「どちらかといえば反対する」が34.2%と最も高く、次いで「どちらかといえば賛成する」が34.0%となっています。『賛成』(「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」の合計)は37.1%、『反対』(「反対する」と「どちらかといえば反対する」の合計)は60.3%となっています。

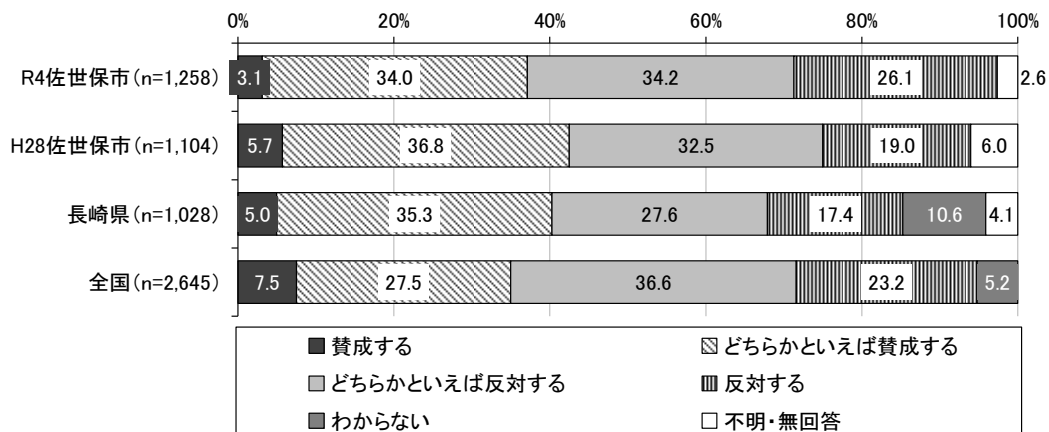
男女別にみると、どちらも『反対』が高くなっていますが、男性では『賛成』が41.0%と、女性と比べて6.8ポイント高くなっています。

性・年代別にみると、男女ともすべての年代で『反対』が高くなっていますが、20歳代、40歳代以上の男性、40歳代女性では「どちらかといえば賛成する」が最も高くなっています。



全国・長崎県・前回結果と比較すると、『反対』は全国、長崎県、前回結果より高くなっています。

【全国・長崎県・前回（H28）調査比較】



※全国・長崎県調査は令和元年度調査。

全国調査の選択肢：「賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」「反対」「わからない」。

長崎県調査の選択肢：「賛成」「どちらかと言えば賛成」「どちらかと言えば反対」「反対」「わからない」。

全国調査では「不明・無回答」はなし。



問6 あなたが、防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応となるために必要だ  
 と思うことは何ですか。(〇は3つまで)

防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応となるために必要だと思うことについてみると、全体では「避難所の設備」が83.1%と最も高く、次いで「避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」が53.3%となっています。

男女別にみると、男女とも「避難所の設備」が最も高くなっています。

性・年代別にみると、男女ともすべての年代で「避難所の設備」が最も高くなっています。

単位:%		避難所の設備 (授乳室、洗濯場など)	避難所運営の責任者に男女両方の視点が入ること	災害時の乳幼児・高齢者・障がい者、妊産婦等への対応	公的施設の備蓄品のニーズ把握、災害時に支給する際の配慮	被災者に対する相談体制	方参旧防 の画し・災 の視復興 点が入、対 ること画、 策に男女 両に男女 復	その他	特 に な い	不 明 ・ 無 回 答
全体(n=1,258)		<b>83.1</b>	<b>53.3</b>	53.0	20.2	14.7	33.5	1.1	1.6	1.4
性別	男性(n=532)	<b>80.6</b>	49.1	<b>53.2</b>	21.4	15.6	32.7	0.9	2.4	1.3
	女性(n=701)	<b>84.9</b>	<b>56.6</b>	52.4	19.1	13.8	34.7	1.3	1.0	1.3
男性・年代別	20歳代:男性(n=55)	<b>85.5</b>	43.6	<b>61.8</b>	29.1	12.7	18.2	0.0	1.8	1.8
	30歳代:男性(n=76)	<b>90.8</b>	47.4	<b>57.9</b>	25.0	3.9	35.5	1.3	0.0	0.0
	40歳代:男性(n=100)	<b>79.0</b>	<b>51.0</b>	50.0	22.0	12.0	35.0	2.0	3.0	1.0
	50歳代:男性(n=137)	<b>78.1</b>	54.0	<b>57.7</b>	21.9	19.7	29.9	1.5	1.5	0.0
	60歳代:男性(n=161)	<b>77.6</b>	46.0	<b>46.6</b>	16.8	21.1	37.3	0.0	3.7	3.1
女性・年代別	20歳代:女性(n=61)	<b>95.1</b>	37.7	<b>68.9</b>	29.5	4.9	27.9	1.6	0.0	1.6
	30歳代:女性(n=102)	<b>88.2</b>	<b>58.8</b>	55.9	21.6	11.8	27.5	0.0	1.0	0.0
	40歳代:女性(n=154)	<b>80.5</b>	<b>56.5</b>	52.6	18.8	11.7	36.4	3.2	0.6	1.3
	50歳代:女性(n=175)	<b>83.4</b>	<b>60.0</b>	46.3	20.0	16.6	30.9	1.1	1.1	1.7
	60歳代:女性(n=203)	<b>84.7</b>	<b>59.1</b>	50.2	14.3	16.7	42.4	0.5	1.5	1.0

### 3 就労及びワーク・ライフ・バランスについて

問7 女性が職業をもつことについて、あなたの考えに近いものをお選びください。(1つに○)

女性が職業をもつことについてみると、全体では「子どもができて、ずっと職業をもち続けるほうがよい」が45.3%と最も高く、次いで「子どもができたなら出産や子育てに専念するためいったん退職し、子育てが落ち着いた後に再び職業をもつ方がよい」が33.7%となっています。

男女別にみると、男女とも「子どもができて、ずっと職業をもち続けるほうがよい」が最も高くなっています。

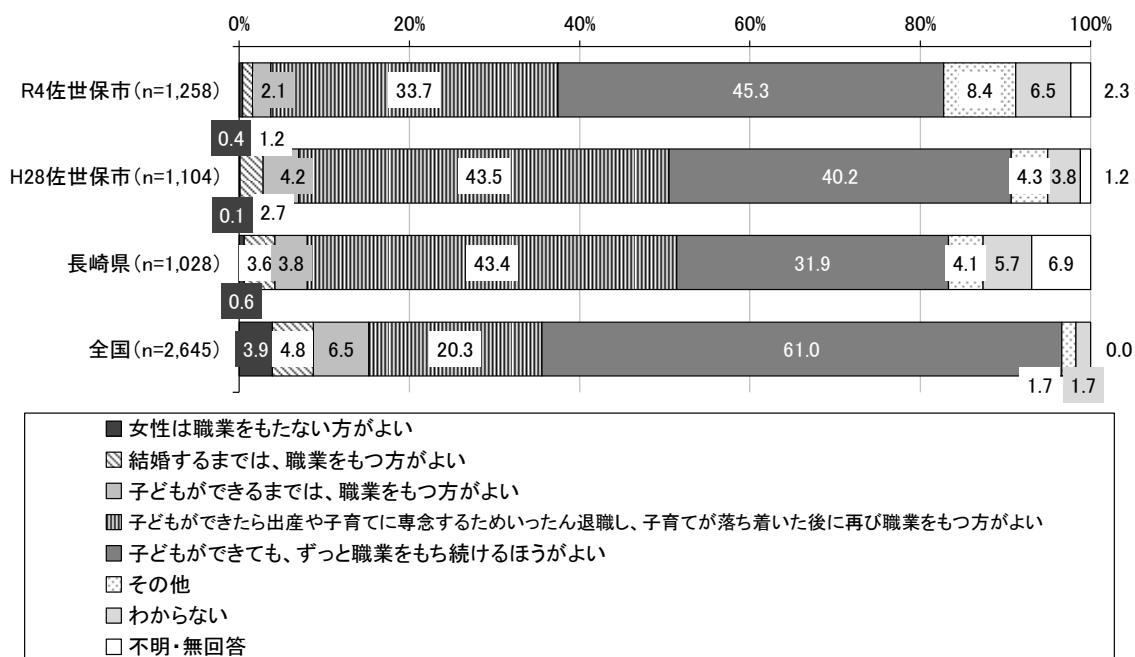
性・年代別にみると、30歳代、50歳代男性、20歳代女性では「子どもができたなら出産や子育てに専念するためいったん退職し、子育てが落ち着いた後に再び職業をもつ方がよい」、その他の性・年代では「子どもができて、ずっと職業をもち続けるほうがよい」が最も高くなっています。

単位：%		い女性 は職業を もたない 方がよ	方結 婚する までは、 職業をも つ	を子 どもが できる までは、 職業	に職 に再 び、専 念する ため に、出 産や 子育 てに 専念 する ため に、 退職 した 後	子 ども がで きた ら出 産や 子育 てに 専念 する ため に、 退職 した 後	業 子 ども がで きて も、 ずっ と職 業を もち 続け るほ うが よ	そ の 他	わ か ら な い	不 明・ 無回 答
全体(n=1,258)		0.4	1.2	2.1	<b>33.7</b>	<b>45.3</b>	8.4	6.5	2.3	
性別	男性(n=532)	0.8	1.3	2.8	<b>36.8</b>	<b>39.8</b>	8.6	7.5	2.3	
	女性(n=701)	0.1	1.1	1.6	<b>31.4</b>	<b>49.5</b>	8.3	5.7	2.3	
男性・ 年代別	20歳代:男性(n=55)	0.0	0.0	1.8	<b>34.5</b>	<b>49.1</b>	7.3	7.3	0.0	
	30歳代:男性(n=76)	0.0	2.6	0.0	<b>39.5</b>	<b>36.8</b>	11.8	7.9	1.3	
	40歳代:男性(n=100)	1.0	1.0	4.0	<b>30.0</b>	<b>45.0</b>	12.0	5.0	2.0	
	50歳代:男性(n=137)	0.0	2.2	4.4	<b>40.1</b>	<b>35.8</b>	10.2	7.3	0.0	
	60歳代:男性(n=161)	0.6	0.6	2.5	<b>38.5</b>	<b>39.1</b>	4.3	8.7	5.6	
女性・ 年代別	20歳代:女性(n=61)	0.0	0.0	1.6	<b>44.3</b>	<b>42.6</b>	3.3	6.6	1.6	
	30歳代:女性(n=102)	0.0	2.9	0.0	<b>27.5</b>	<b>51.0</b>	10.8	6.9	1.0	
	40歳代:女性(n=154)	0.0	0.6	0.6	<b>26.6</b>	<b>53.9</b>	12.3	5.2	0.6	
	50歳代:女性(n=175)	0.0	1.7	2.3	<b>23.4</b>	<b>53.1</b>	10.9	5.1	3.4	
	60歳代:女性(n=203)	0.5	0.5	2.5	<b>39.4</b>	<b>45.3</b>	3.4	5.9	2.5	

全国・長崎県・前回調査と比較すると、「子どもができて、ずっと職業をもち続けるほうがよい」《全国・長崎県：「子ども（子供）ができて、ずっと職業を続けるほうがよい」》は全国より低く、長崎県、前回調査より高くなっています。

また、前回調査では「子どもができたなら出産や子育てに専念するためいったん退職し、子育てが落ち着いた後に再び職業をもつほうがよい」の割合が最も高くなっていたが、今回調査では「子どもができて、ずっと職業をもち続けるほうがよい」が最も高くなっています。

### 【全国・長崎県・前回（H28）調査比較】



※全国・長崎県調査は令和元年度調査。

全国調査の選択肢：「女性は職業をもたない方がよい」「結婚するまでは職業をもつ方がよい」「子供ができるまでは、職業をもつ方がよい」「子供ができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」「子供ができて、ずっと職業を続ける方がよい」「その他」「わからない」。

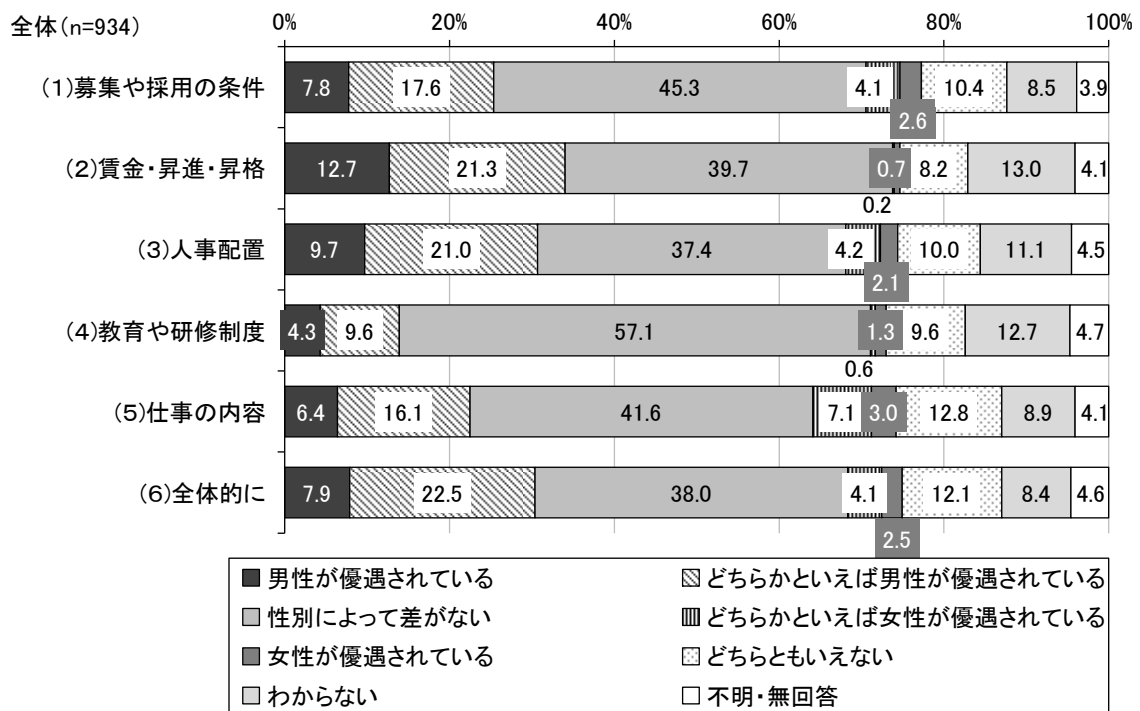
長崎県調査の選択肢：「女性は職業をもたない方がよい」「結婚するまでは、職業をもつ方がよい」「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」「子どもができたなら出産や子育てに専念するためいったん退職し、子育てが落ち着いた後、再び職業をもつ方がよい」「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」「その他」「わからない」。

全国調査では「不明・無回答」はなし。

問8は、現在、働いている方におたずねします。

問8 あなたの職場では、次にあげるそれぞれの面で、性別によって差があると思いますか。  
(それぞれ1つに○)

職場における性別によって差がある場面についてみると、すべての項目において「性別によって差がない」が最も高くなっていますが、【(2)賃金・昇進・昇格】【(3)人事配置】【(6)全体的に】では『男性優遇』(「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計)が3割以上と高くなっています。一方、『女性優遇』(「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計)は【(5)仕事の内容】では10.1%となっていますが、その他の項目では1割以下となっています。

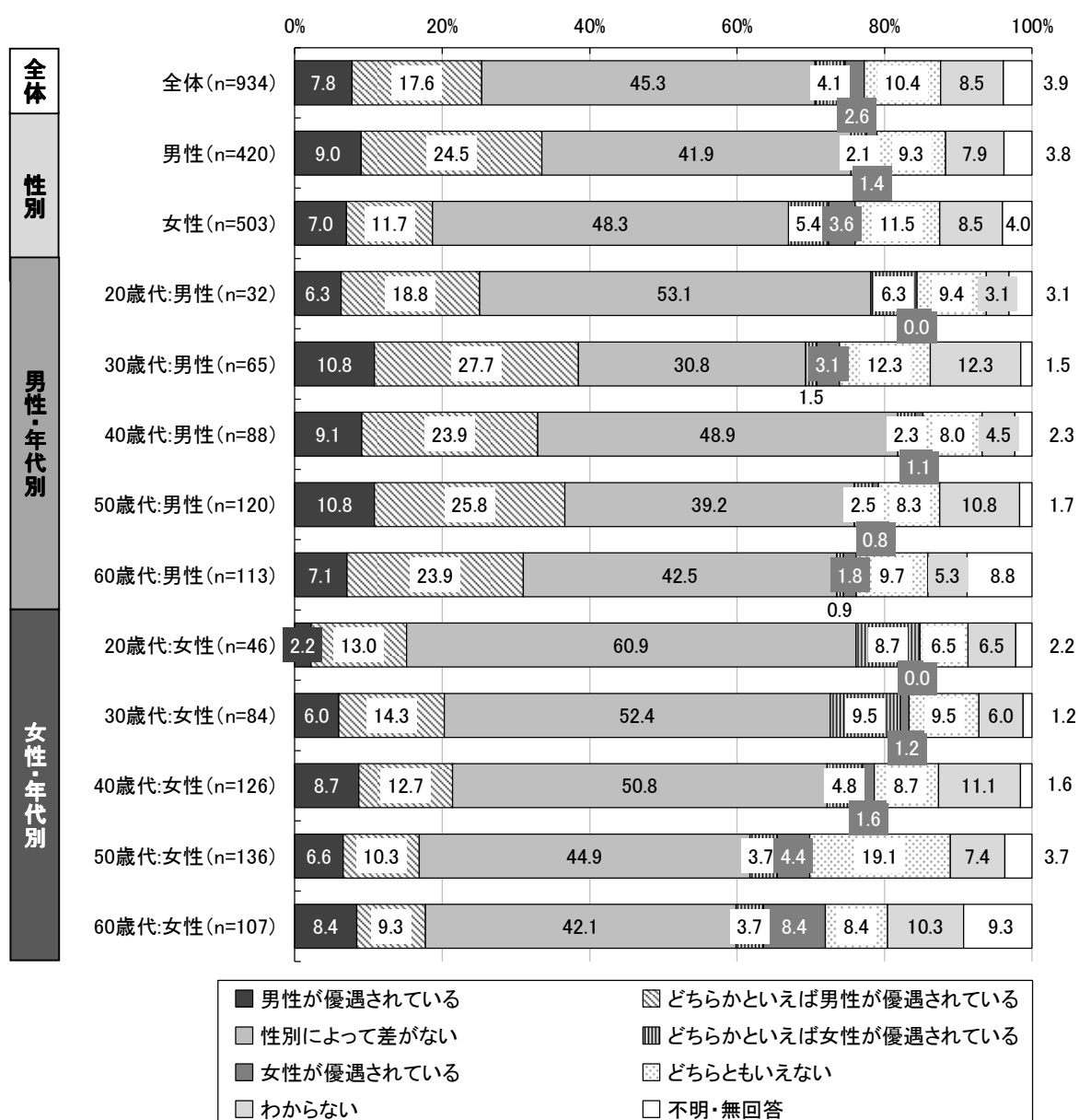


## (1) 募集や採用の条件

募集や採用の条件における性差についてみると、全体では「性別によって差がない」が45.3%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性が優遇されている」が17.6%となっています。『男性優遇』は25.4%、『女性優遇』は6.7%となっています。

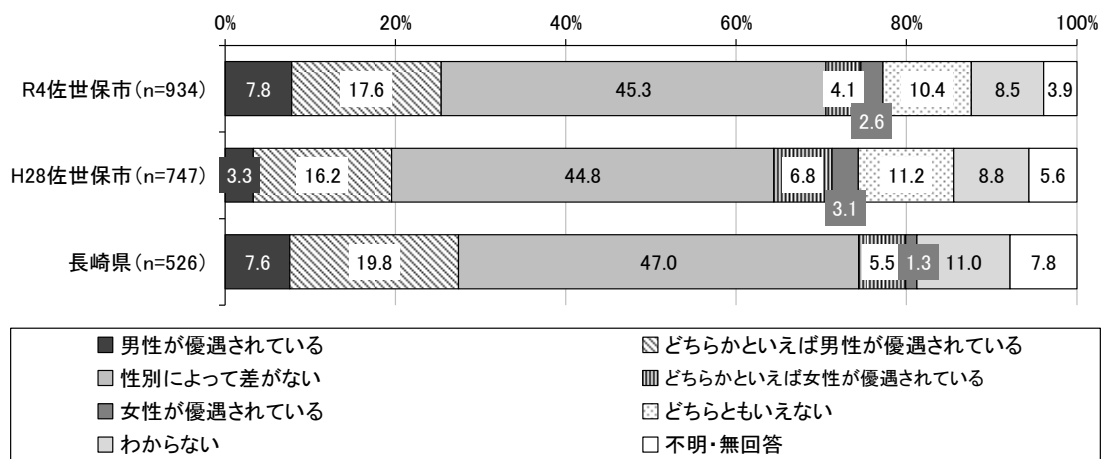
男女別にみると、男性では『男性優遇』が33.5%と、女性と比べて14.8ポイント高くなっています。

性・年代別にみると、30歳代男性では『男性優遇』、その他の性・年代では「性別によって差がない」が高くなっており、特に30歳代以上の男性では『男性優遇』が3割以上となっています。また、50歳代女性では「どちらともいえない」が19.1%と、他と比べて高くなっています。



募集や採用の条件について、長崎県調査、前回調査と比較すると、どの調査においても「性別によって差がない」が最も高くなっています。また、『男性優遇』では、前回調査と比較して高く、長崎県調査と比較して低くなっています。

【長崎県・前回（H28）調査比較】



※長崎県調査は令和元年度調査。

前回調査の選択肢：「男性が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」「性別によって差がない」「どちらかといえば女性が優遇されている」「女性が非常に優遇されている」「どちらともいえない」「わからない」「無回答」。

長崎県調査の選択肢：「男性の方が非常に優遇」「どちらかと言えば男性の方が優遇」「性別によって差はない」「どちらかと言えば女性の方が優遇」「女性の方が非常に優遇」「わからない」「無回答」。

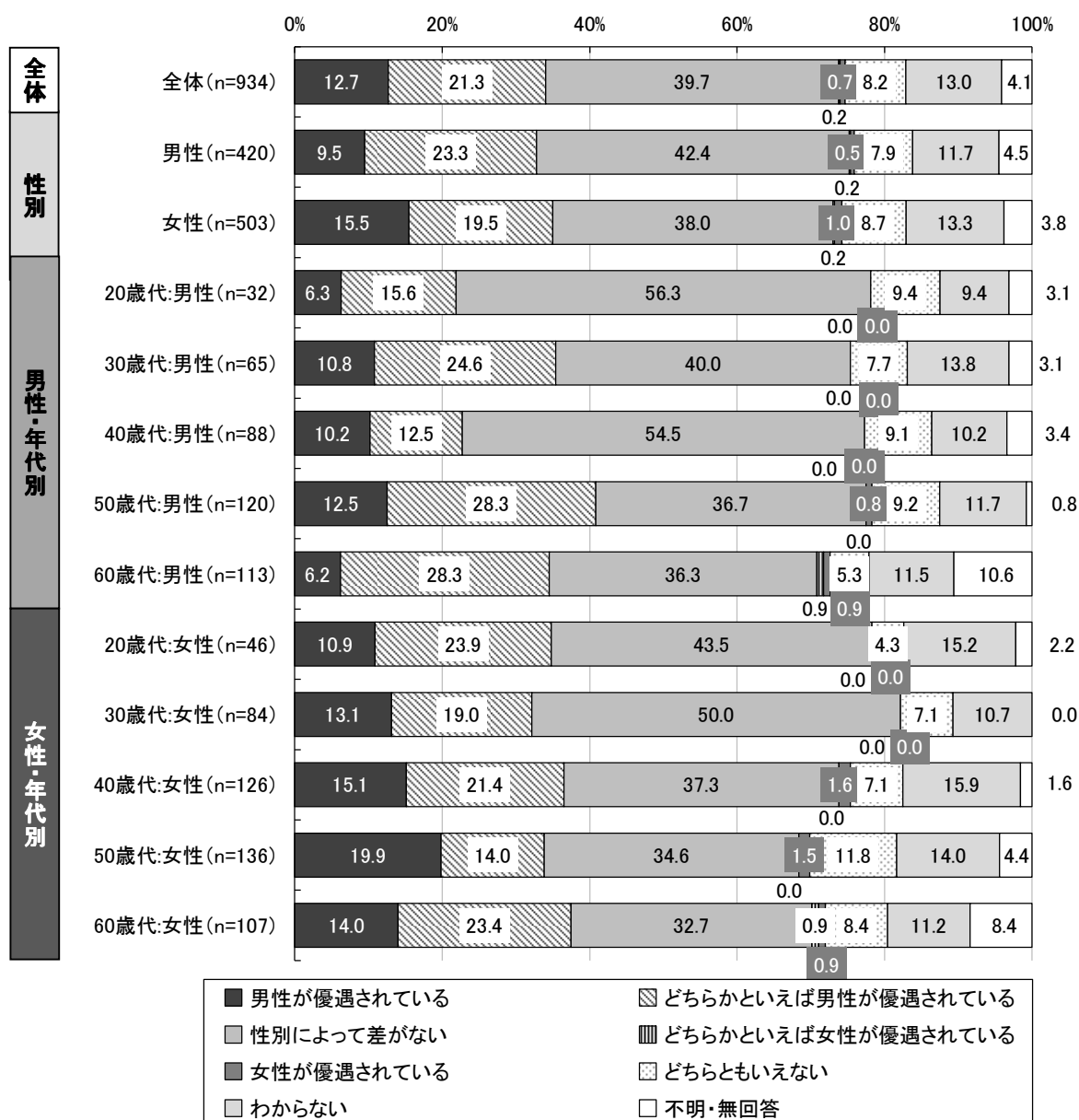
長崎県調査では「どちらともいえない」はなし。

## (2) 賃金・昇進・昇格

賃金・昇進・昇格における性差についてみると、全体では「性別によって差がない」が39.7%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性が優遇されている」が21.3%となっています。『男性優遇』は34.0%、『女性優遇』は0.9%となっています。

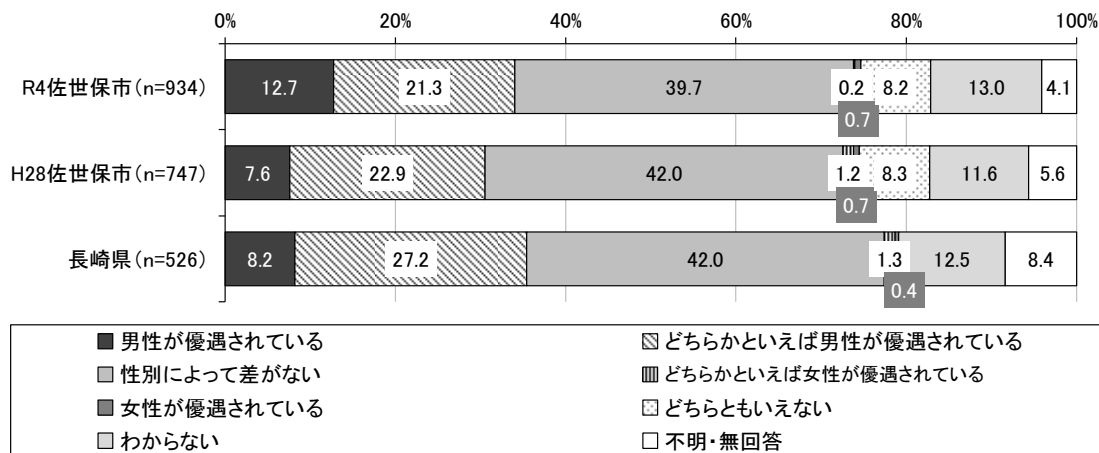
男女別にみると、女性では「男性が優遇されている」が15.5%と、男性と比べて6.0ポイント高くなっています。

性・年代別にみると、50歳代男性・60歳代女性では『男性優遇』、その他の性・年代では「性別によって差がない」が高くなっています。



賃金・昇進・昇格における性差について、長崎県調査、前回調査と比較すると、どの調査においても「性別によって差がない」が最も高くなっています。また、『男性優遇』では、前回調査と比較して高く、長崎県調査と比較して低くなっています。

【長崎県・前回（H28）調査比較】



※長崎県調査は令和元年度調査。

前回調査の選択肢：「男性が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」「性別によって差がない」「どちらかといえば女性が優遇されている」「女性が非常に優遇されている」「どちらともいえない」「わからない」「無回答」。

長崎県調査の選択肢：「男性の方が非常に優遇」「どちらかと言えば男性の方が優遇」「性別によって差はない」「どちらかと言えば女性の方が優遇」「女性の方が非常に優遇」「わからない」「無回答」。

長崎県調査では「どちらともいえない」はなし。

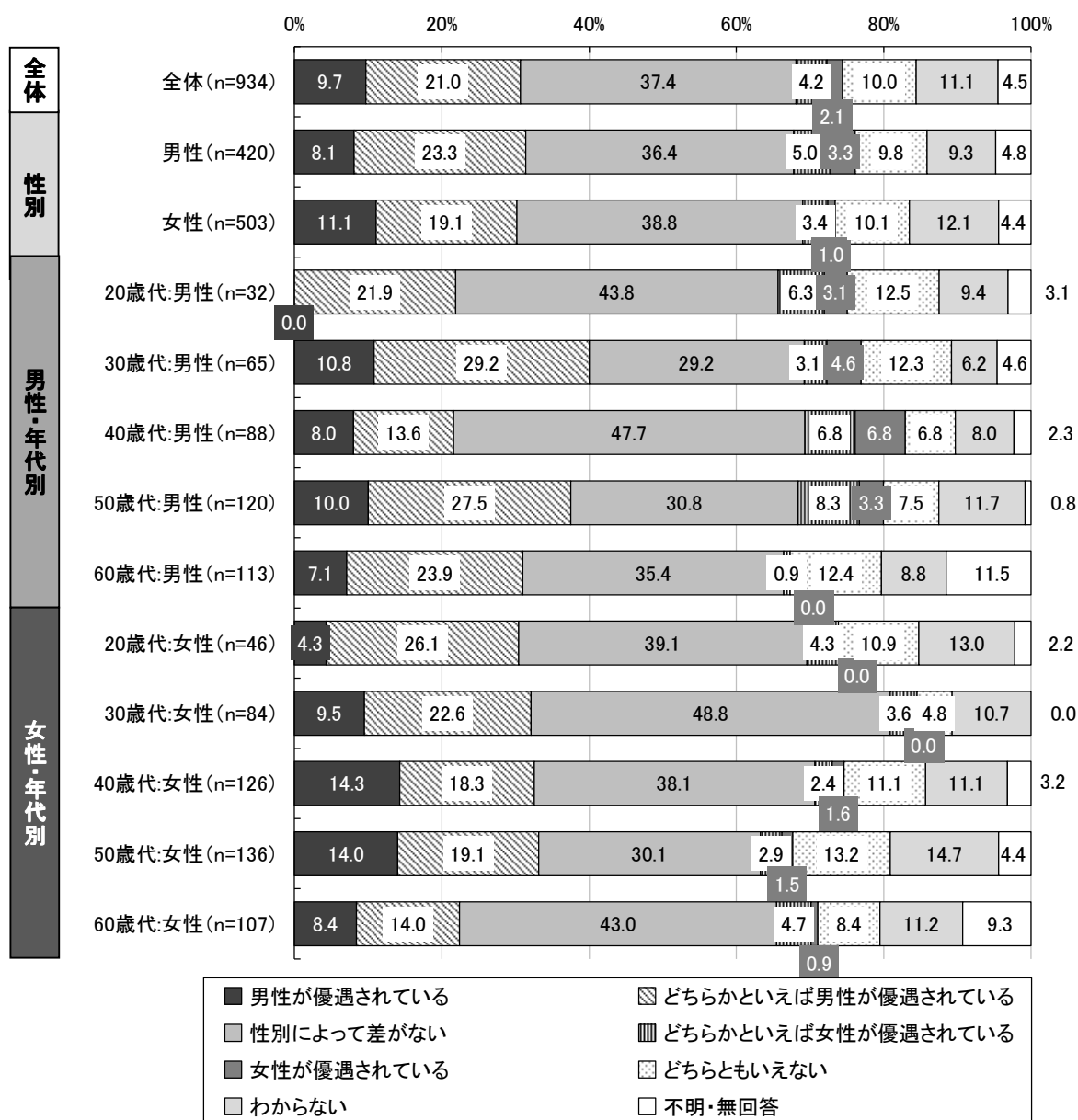


### (3) 人事配置

人事配置における性差についてみると、全体では「性別によって差がない」が37.4%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性が優遇されている」が21.0%となっています。『男性優遇』は30.7%、『女性優遇』は6.3%となっています。

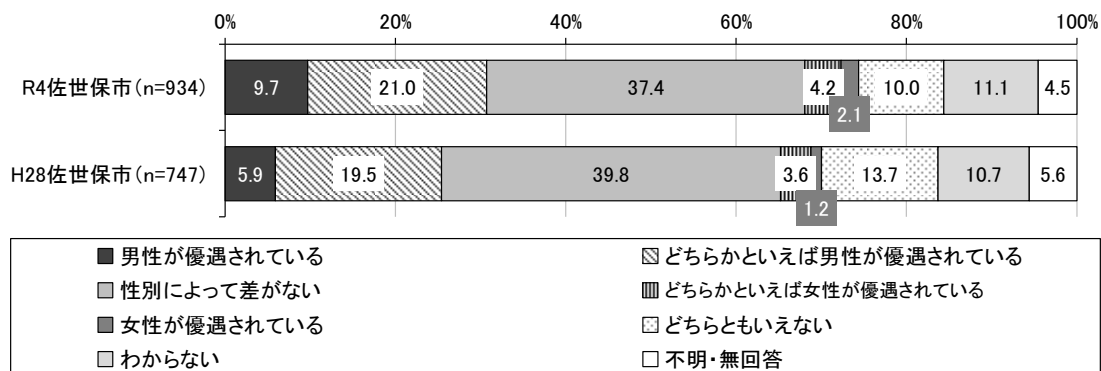
男女別にみると、大きな差はみられません。

性・年代別にみると、30歳代男性、男女とも50歳代では『男性優遇』、その他の性・年代では「性別によって差がない」が高くなっています。また、30歳代男性では「どちらかといえば男性が優遇されている」、「性別によって差がない」が29.2%と、同率となっています。



人事配置における性差について、前回調査と比較すると、どの調査においても「性別によって差がない」が最も高くなっています。また、『男性優遇』では、前回調査と比較して高くなっています。

【前回（H28）調査比較】



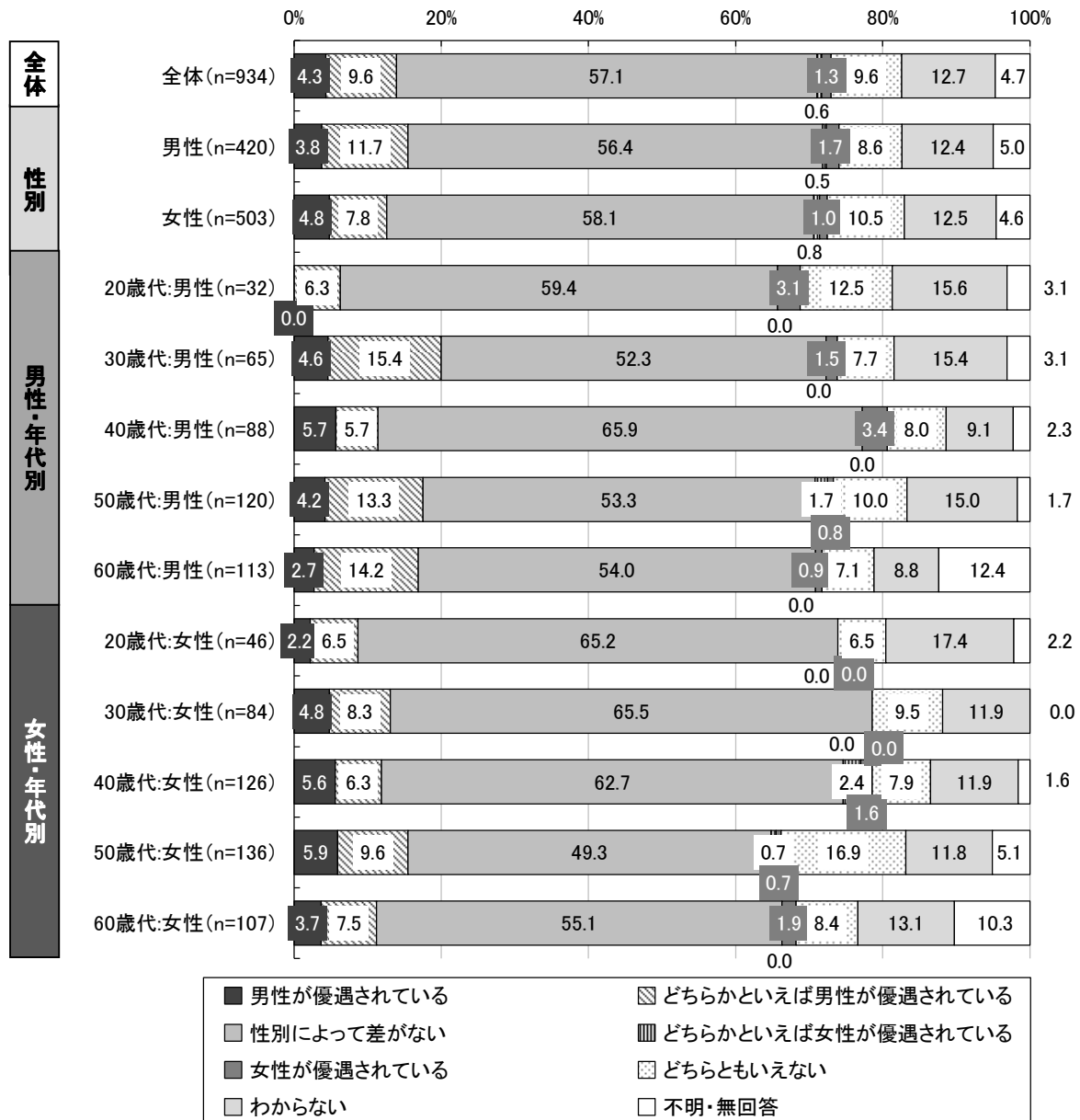
前回調査の選択肢：「男性が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」「性別によって差がない」「どちらかといえば女性が優遇されている」「女性が非常に優遇されている」「どちらともいえない」「わからない」「無回答」。

#### (4) 教育や研修制度

教育や研修制度における性差についてみると、全体では「性別によって差がない」が57.1%と最も高く、次いで「わからない」が12.7%となっています。『男性優遇』は13.9%、『女性優遇』は1.9%となっています。

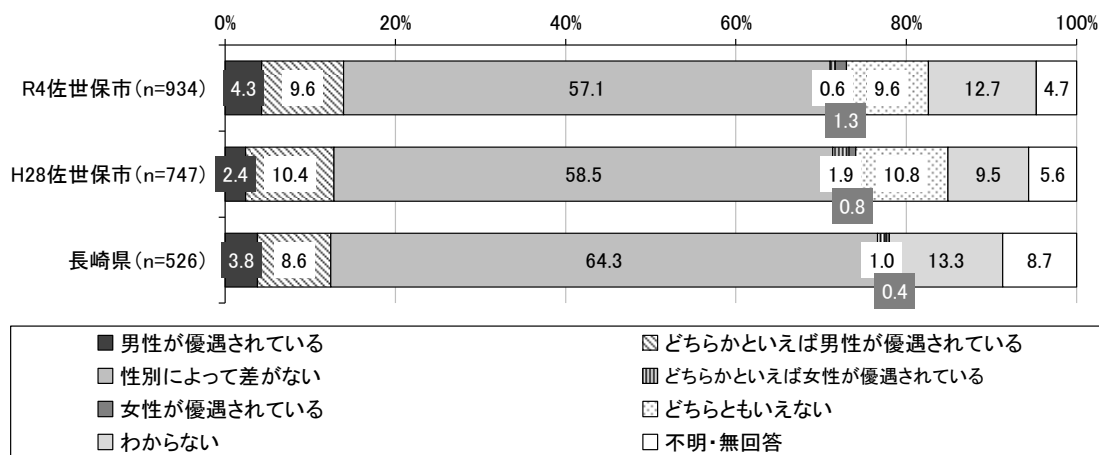
男女別にみると、男性では『男性優遇』が15.5%と、女性と比べて2.9ポイント高くなっています。

性・年代別にみると、男女ともすべての年代で「性別によって差がない」が最も高くなっています。



教育や研修制度における性差について、長崎県調査、前回調査と比較すると、どの調査においても「性別によって差がない」が最も高くなっています。また、『男性優遇』については、前回調査、長崎県調査と比較してわずかに高くなっています。

【長崎県・前回（H28）調査比較】



※長崎県調査は令和元年度調査。

前回調査の選択肢：「男性が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」「性別によって差がない」「どちらかといえば女性が優遇されている」「女性が非常に優遇されている」「どちらともいえない」「わからない」「無回答」。

長崎県調査の選択肢：「男性の方が非常に優遇」「どちらかと言えば男性の方が優遇」「性別によって差はない」「どちらかと言えば女性の方が優遇」「女性の方が非常に優遇」「わからない」「無回答」。

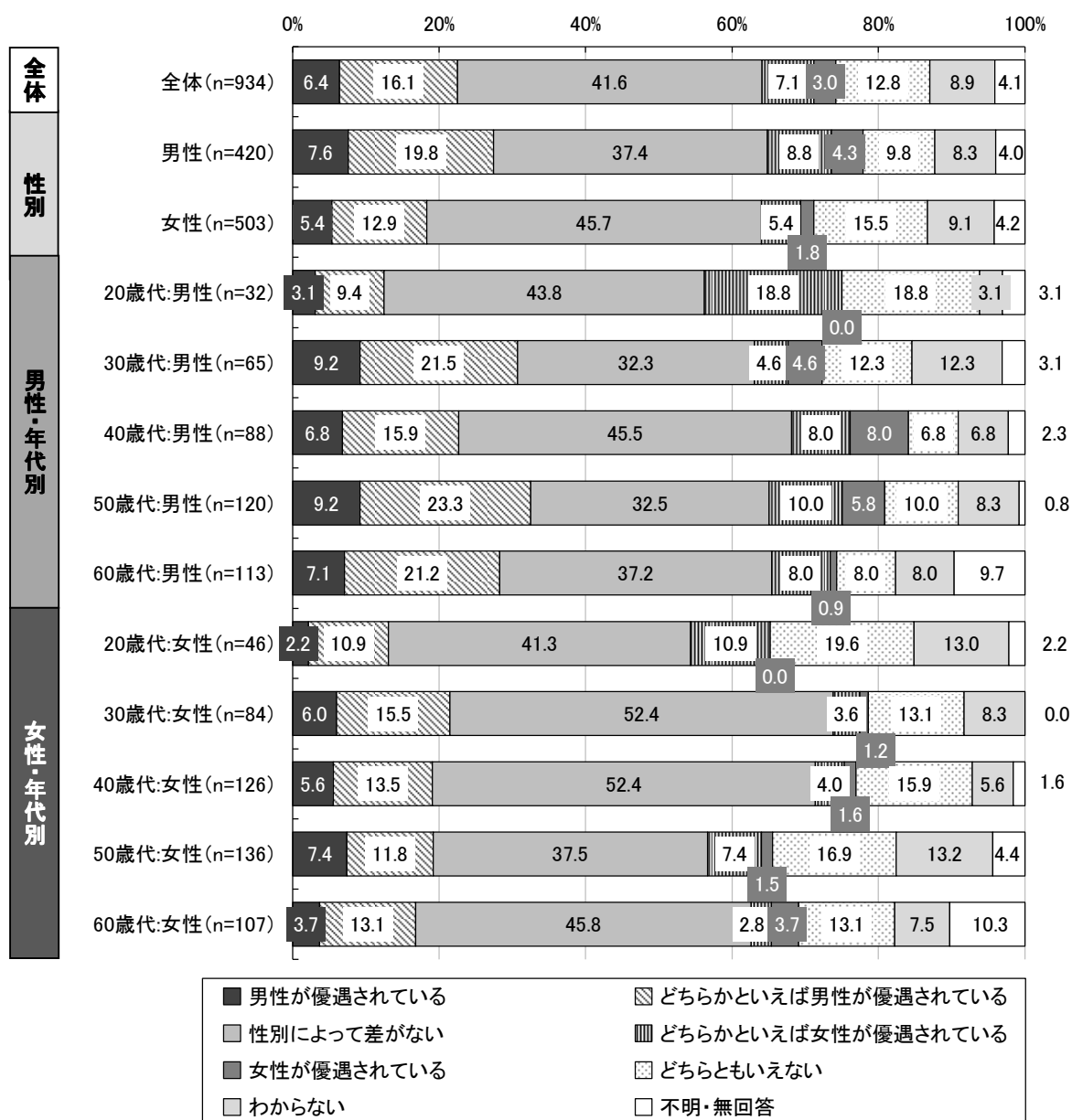
長崎県調査では「どちらともいえない」はなし。

### (5) 仕事の内容

仕事の内容における性差についてみると、全体では「性別によって差がない」が41.6%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性が優遇されている」が16.1%となっています。『男性優遇』は22.5%、『女性優遇』は10.1%となっています。

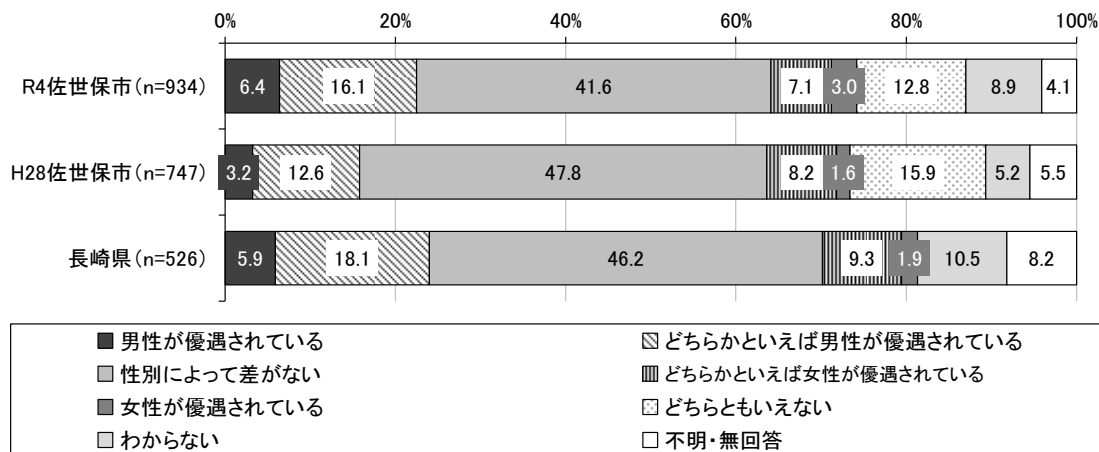
男女別にみると、男性では『男性優遇』が27.4%と、女性と比べて9.1ポイント高くなっています。

性・年代別にみると、男女ともすべての年代で「性別によって差がない」が最も高くなっていますが、50歳代男性では『男性優遇』、「性別によって差がない」が32.5%と、同率となっています。



仕事の内容における性差について、長崎県調査、前回調査と比較すると、どの調査においても「性別によって差がない」が最も高くなっています。また、『男性優遇』については、前回調査より高く、長崎県調査より低くなっています。

【長崎県・前回（H28）調査比較】



※長崎県調査は令和元年度調査。

前回調査の選択肢：「男性が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」「性別によって差がない」「どちらかといえば女性が優遇されている」「女性が非常に優遇されている」「どちらともいえない」「わからない」「無回答」。

長崎県調査の選択肢：「男性の方が非常に優遇」「どちらかと言えば男性の方が優遇」「性別によって差はない」「どちらかと言えば女性の方が優遇」「女性の方が非常に優遇」「わからない」「無回答」。

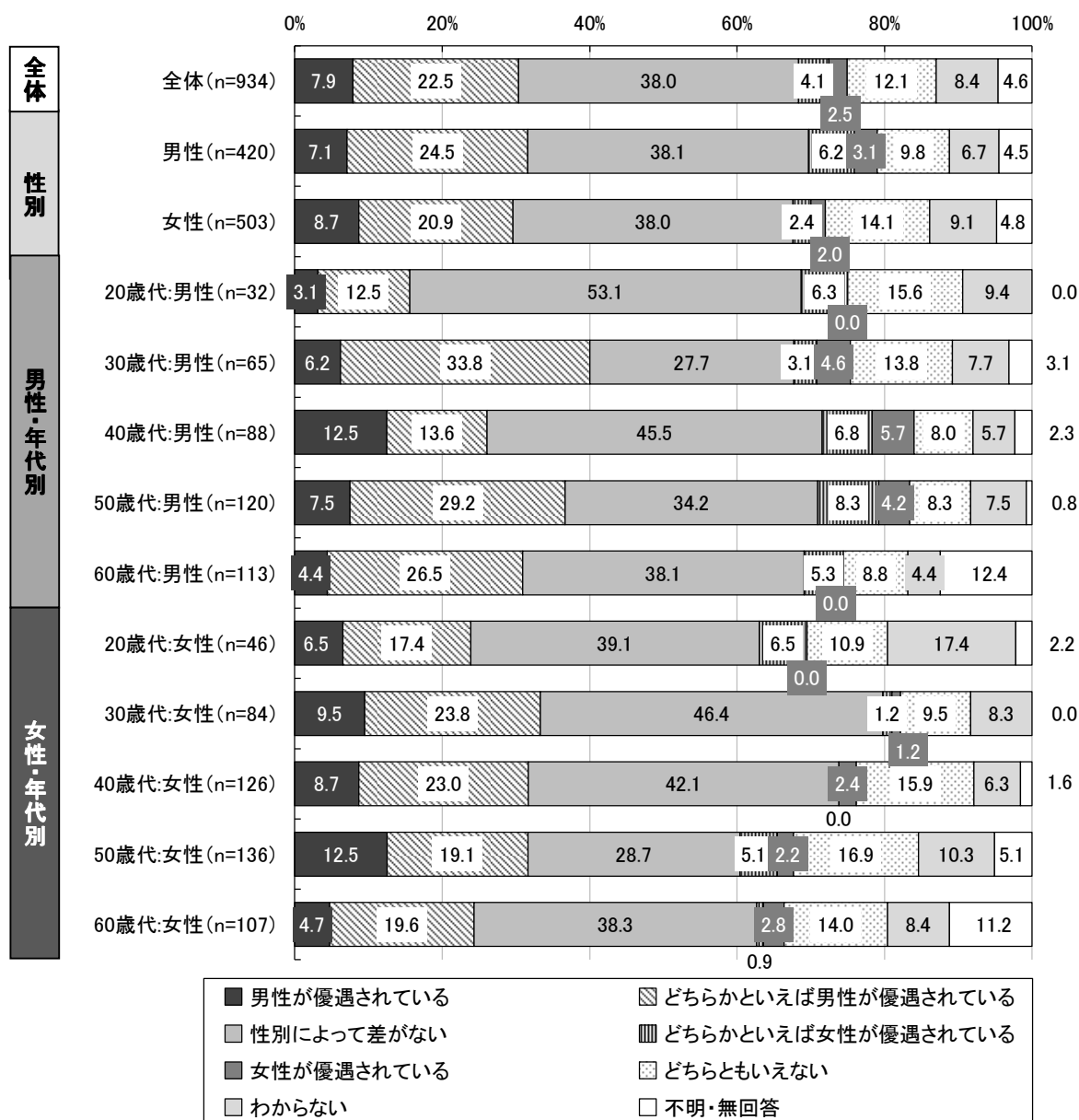
長崎県調査では「どちらともいえない」はなし。

## (6) 全体的に

全体的な職場における性差についてみると、全体では「性別によって差がない」が38.0%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性が優遇されている」が22.5%となっています。『男性優遇』は30.4%、『女性優遇』は6.6%となっています。

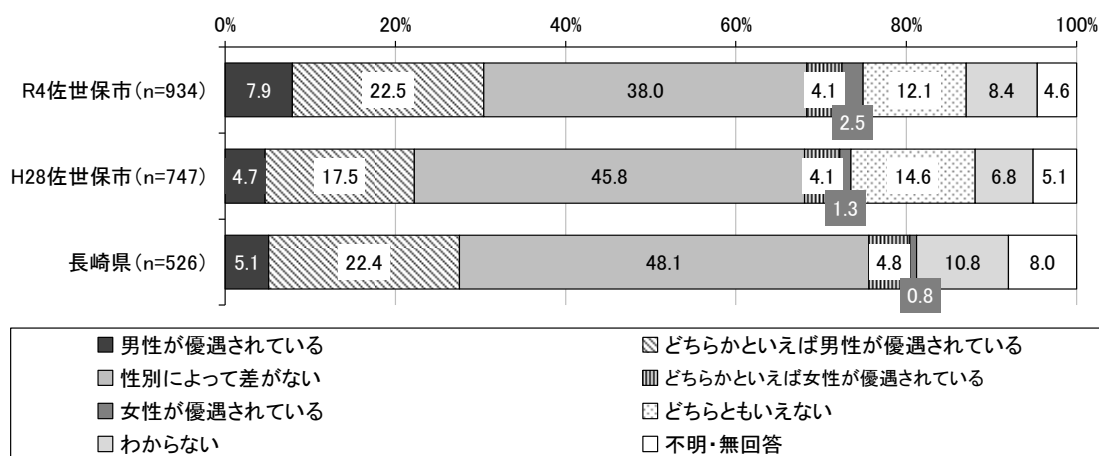
男女別にみると、大きな差はみられません。

性・年代別にみると、30歳代、50歳代男性では『男性優遇』、その他の性・年代では「性別によって差がない」が高くなっています。



全体的な職場における性差について、長崎県調査、前回調査と比較すると、どの調査においても「性別によって差がない」が最も高くなっています。また、『男性優遇』については、前回調査、長崎県調査より高くなっています。

【長崎県・前回（H28）調査比較】



※長崎県調査は令和元年度調査。

前回調査の選択肢：「男性が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」「性別によって差がない」「どちらかといえば女性が優遇されている」「女性が非常に優遇されている」「どちらともいえない」「わからない」「無回答」。

長崎県調査の選択肢：「男性の方が非常に優遇」「どちらかと言えば男性の方が優遇」「性別によって差はない」「どちらかと言えば女性の方が優遇」「女性の方が非常に優遇」「わからない」「無回答」。

長崎県調査では「どちらともいえない」はなし。



問9は、子どもがいる方におたずねします。

問9 あなたは、妊娠・出産を理由に就労形態に変化はありましたか。(1つに○)

妊娠・出産を理由とした就労形態の変化についてみると、全体では「育児休業を取得し、仕事の形態を変えずに続けて働いた」が22.4%と最も高く、次いで「育児休業なしで、仕事の形態を変えずに続けて働いた」が15.6%となっています。

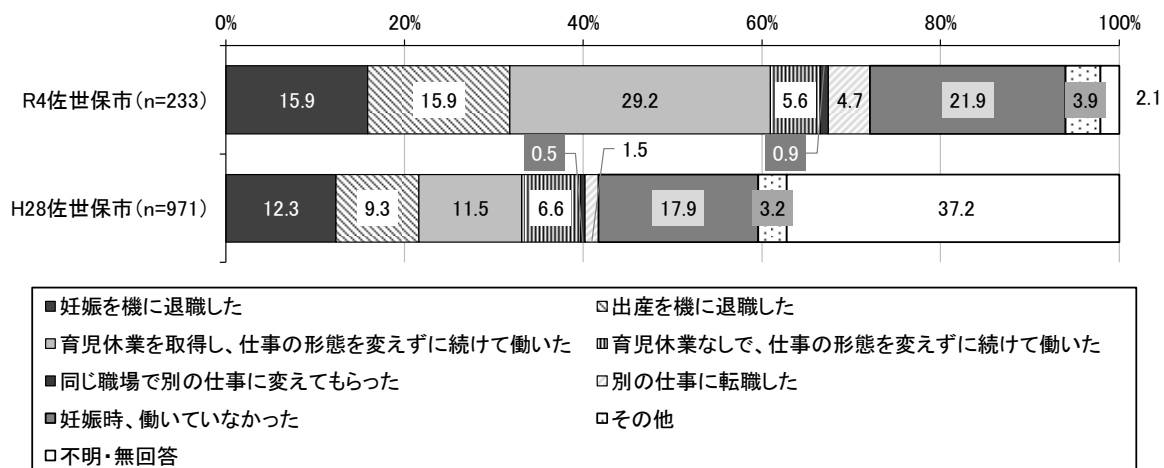
男女別にみると、男性では「育児休業なしで、仕事の形態を変えずに続けて働いた」、女性では「育児休業を取得し、仕事の形態を変えずに続けて働いた」が最も高くなっています。また、女性では「妊娠時、働いていなかった」が21.9%と、男性と比べて20.5ポイント高くなっています。

性・年代別にみると、30歳代～50歳代男性では「育児休業なしで、仕事の形態を変えずに続けて働いた」、20歳代～40歳代女性では「育児休業を取得し、仕事の形態を変えずに続けて働いた」、50歳代女性では「妊娠時、働いていなかった」が最も高くなっています。

単位：%		妊娠を機に退職した	出産を機に退職した	育児休業を取得し、仕事の形態を変えずに続けて働いた	育児休業なしで、仕事の形態を変えずに続けて働いた	同じ職場で別の仕事に変えてもらった	別の仕事に転職した	妊娠時、働いていなかった	その他	不明・無回答
全体(n=379)		11.6	10.8	<b>22.4</b>	<b>15.6</b>	1.1	3.7	14.5	4.2	16.1
性別	男性(n=143)	4.9	2.8	<b>11.2</b>	<b>32.2</b>	1.4	2.1	1.4	4.9	39.2
	女性(n=233)	15.9	15.9	<b>29.2</b>	5.6	0.9	4.7	<b>21.9</b>	3.9	2.1
男性・年代別	20歳代:男性(n=8)	0.0	0.0	0.0	<b>37.5</b>	<b>12.5</b>	0.0	0.0	12.5	37.5
	30歳代:男性(n=33)	3.0	3.0	<b>21.2</b>	<b>39.4</b>	3.0	0.0	0.0	3.0	27.3
	40歳代:男性(n=58)	6.9	3.4	<b>10.3</b>	<b>39.7</b>	0.0	0.0	1.7	5.2	32.8
	50歳代:男性(n=40)	5.0	2.5	<b>7.5</b>	<b>17.5</b>	0.0	5.0	2.5	5.0	55.0
	60歳代:男性(n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	<b>25.0</b>	0.0	0.0	75.0
女性・年代別	20歳代:女性(n=15)	<b>20.0</b>	13.3	<b>53.3</b>	0.0	0.0	6.7	6.7	0.0	0.0
	30歳代:女性(n=70)	15.7	10.0	<b>38.6</b>	2.9	1.4	7.1	<b>17.1</b>	4.3	2.9
	40歳代:女性(n=99)	12.1	21.2	<b>27.3</b>	5.1	1.0	4.0	<b>24.2</b>	5.1	0.0
	50歳代:女性(n=39)	<b>25.6</b>	10.3	12.8	7.7	0.0	2.6	<b>33.3</b>	2.6	5.1
	60歳代:女性(n=9)	11.1	<b>33.3</b>	11.1	<b>22.2</b>	0.0	0.0	11.1	0.0	11.1

妊娠・出産を理由とした就労形態の変化について、前回結果と比較すると、「育児休業を取得し、仕事の形態を変えずに続けて働いた」が17.7ポイント増加しています。

【参考：前回（H28）調査比較（女性限定設定）】



※前回調査の選択肢：「妊娠を機に退職した」「出産を機に退職した」「育児休業を取得し、仕事の形態を変えずに続けて働いた」「育児休業なしで仕事の形態を変えずに続けて働いた」「同じ職場で別の仕事に変わってもらった」「別の仕事に転職した」「妊娠時、働いていなかった」「その他」「無回答」。

※前回調査では「現在20歳未満の子ども」がいない方も含まれていますが、今回調査では、「現在20歳未満の子どもがいない方」は含まれておりません。

問10は、問9で「妊娠を機に退職した」、「出産を機に退職した」、「別の仕事に転職した」と回答された方におたずねします。

問10 それはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

妊娠・出産を機に退職した、または、別の仕事に転職した理由についてみると、全体では「子育てに十分な時間をかけたかったから」が53.5%と最も高く、次いで「職場に十分な制度や理解がなかったから」が33.3%となっています。

男女別にみると、男女とも「子育てに十分な時間をかけたかったから」が最も高くなっています。また、女性では「体力的に自信がなかったから」が25.9%と、男性と比べて18.8ポイント高くなっています。

性・年代別にみると、30歳代女性では「子育てに十分な時間をかけたかったから」、「職場に十分な制度や理解がなかったから」、40歳代、50歳代女性では「子育てに十分な時間をかけたかったから」が最も高くなっています。

単位：%		か子育てに十分な時間をかけた	か職場に十分な制度や理解がな	体力的に自信がなかったから	か家族の同意や協力が得られな	く保育所などがなかつた預かって	収世帯の収入が安定または、増	その他	不明・無回答
全体(n=99)		53.5	33.3	23.2	7.1	6.1	3.0	13.1	2.0
性別	男性(n=14)	35.7	28.6	7.1	14.3	0.0	14.3	7.1	7.1
	女性(n=85)	56.5	34.1	25.9	5.9	7.1	1.2	14.1	1.2
男性・年代別	30歳代:男性(n=2)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	40歳代:男性(n=6)	66.7	16.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	50歳代:男性(n=5)	0.0	40.0	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0
	60歳代:男性(n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
女性・年代別	20歳代:女性(n=6)	16.7	33.3	0.0	0.0	33.3	16.7	33.3	0.0
	30歳代:女性(n=23)	43.5	43.5	17.4	8.7	4.3	0.0	30.4	0.0
	40歳代:女性(n=37)	59.5	29.7	32.4	5.4	2.7	0.0	5.4	2.7
	50歳代:女性(n=15)	86.7	33.3	40.0	6.7	6.7	0.0	6.7	0.0
	60歳代:女性(n=4)	50.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0

※20歳代男性は回答者なし。

問11 あなたは、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）がとれた暮らしのために、行政に求めることは何ですか。（〇は3つまで）

仕事と生活の調和がとれた暮らしのために、行政に求めることについてみると、全体では「子育て支援・介護支援の充実」が63.2%と最も高く、次いで「企業に対するワーク・ライフ・バランスの実現に向けた具体的な取り組みの啓発」が52.8%となっています。

男女別にみると、男女とも「子育て支援・介護支援の充実」が最も高くなっています。

性・年代別にみると、男女ともすべての年代で「子育て支援・介護支援の充実」が最も高くなっています。

単位：%		及フ市 啓バに ラ対 ンす るのワ 考ー えク 方・ ラ 普イ	及フ企 啓バに ラ対 ンす るのワ 考ー えク 方・ ラ 普イ	具フ企 体・業 的バに なラ対 取リす 組のワ み実ー の現ク 啓向に 発け た	実実ワ 施市現 内積 企極 業的 の紹 介取 ・リ 表組 彰ん 等での	子 育 て 支 援 ・ 介 護 支 援 の 充 実	そ の 他	特 に な い	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=1,258)		25.4	32.3	<b>52.8</b>	17.2	<b>63.2</b>	3.1	8.1	2.8
性別	男性 (n=532)	27.8	30.5	<b>51.1</b>	17.3	<b>59.6</b>	3.9	8.8	3.4
	女性 (n=701)	24.0	33.5	<b>54.8</b>	17.1	<b>65.8</b>	2.4	7.4	2.4
男性・年代別	20歳代:男性 (n=55)	36.4	29.1	<b>58.2</b>	16.4	<b>61.8</b>	0.0	12.7	1.8
	30歳代:男性 (n=76)	30.3	31.6	<b>52.6</b>	18.4	<b>68.4</b>	5.3	7.9	3.9
	40歳代:男性 (n=100)	19.0	40.0	<b>55.0</b>	23.0	<b>61.0</b>	5.0	5.0	2.0
	50歳代:男性 (n=137)	25.5	27.0	<b>50.4</b>	15.3	<b>52.6</b>	6.6	10.2	2.9
	60歳代:男性 (n=161)	31.1	27.3	<b>47.2</b>	15.5	<b>59.6</b>	1.9	8.7	5.0
女性・年代別	20歳代:女性 (n=61)	27.9	36.1	<b>54.1</b>	19.7	<b>63.9</b>	1.6	9.8	4.9
	30歳代:女性 (n=102)	24.5	38.2	<b>56.9</b>	18.6	<b>71.6</b>	1.0	6.9	0.0
	40歳代:女性 (n=154)	23.4	38.3	<b>57.1</b>	17.5	<b>63.6</b>	6.5	3.9	1.3
	50歳代:女性 (n=175)	20.6	32.0	<b>57.1</b>	12.0	<b>57.7</b>	2.3	9.1	2.3
	60歳代:女性 (n=203)	25.6	28.6	<b>50.2</b>	19.7	<b>71.9</b>	0.5	7.9	3.9

問12 あなたは、出産や子育て等に専念するためいったん退職した女性が再就職するためには、何が効果的だと思いますか。(〇は3つまで)

出産や子育て等に専念するためいったん退職した女性が再就職するために効果的なことについてみると、全体では「労働時間の短縮やフレックスタイム制(自由勤務時間制)を導入する」が60.2%と最も高く、次いで「育児や介護のための施設やサービスを充実する」が51.8%となっています。

男女別にみると、男女とも「労働時間の短縮やフレックスタイム制(自由勤務時間制)を導入する」が最も高くなっています。

性・年代別にみると、40歳代、50歳代男性では「労働時間の短縮やフレックスタイム制(自由勤務時間制)を導入する」、「育児や介護のための施設やサービスを充実する」、60歳代女性では「育児や介護のための施設やサービスを充実する」、その他の性・年代では「労働時間の短縮やフレックスタイム制(自由勤務時間制)を導入する」が最も高くなっています。

単位：%		労働時間の短縮やフレックスタイム制(自由勤務時間制)を導入する	家族や職場など周囲の理解・協力を深める	育児や介護のための施設やサービスを充実する	就労情報の提供や技能習得の研修	採用の年齢制限の廃止や緩和を促進する	結婚・出産などによる退職者の再雇用制度を普及促進する	企業が中途採用を推進する	なつてから行う学び(社会人)	その他	特にな	不明・無回答
全体(n=1,258)		60.2	45.5	51.8	8.0	21.9	38.6	15.7	6.2	1.9	2.5	1.5
性別	男性(n=532)	56.4	43.4	52.8	5.6	17.7	41.5	18.4	4.7	2.4	3.4	2.3
	女性(n=701)	63.1	47.4	51.2	10.0	24.8	36.8	14.0	7.3	1.6	1.7	0.7
男性・年代別	20歳代:男性(n=55)	60.0	49.1	56.4	7.3	20.0	40.0	14.5	1.8	1.8	1.8	1.8
	30歳代:男性(n=76)	65.8	46.1	56.6	5.3	14.5	43.4	17.1	3.9	1.3	1.3	1.3
	40歳代:男性(n=100)	56.0	47.0	56.0	6.0	20.0	41.0	18.0	6.0	5.0	2.0	0.0
	50歳代:男性(n=137)	47.4	38.0	47.4	10.2	16.1	41.6	21.9	5.1	3.6	5.8	1.5
	60歳代:男性(n=161)	58.4	43.5	52.2	1.2	18.6	42.2	18.0	5.0	0.6	3.1	5.0
女性・年代別	20歳代:女性(n=61)	68.9	49.2	47.5	6.6	18.0	37.7	13.1	9.8	0.0	0.0	3.3
	30歳代:女性(n=102)	79.4	48.0	50.0	7.8	10.8	47.1	9.8	10.8	1.0	1.0	0.0
	40歳代:女性(n=154)	64.3	49.4	44.8	8.4	24.0	36.4	13.6	7.8	4.5	1.9	0.0
	50歳代:女性(n=175)	60.6	42.3	50.3	14.3	30.3	32.6	12.6	7.4	1.1	2.3	1.1
	60歳代:女性(n=203)	55.2	48.8	57.6	9.4	30.0	36.5	17.2	4.4	0.5	2.0	0.5

問13 あなたは、出産や子育て等により退職することなく、継続して女性が働くには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

出産や子育て等により退職することなく、継続して女性が働くために必要なことについてみると、全体では「育児休業や短時間制度などの仕事と家庭の両立ができる制度を充実する」が57.2%と最も高く、次いで「女性が働くことに対する、家族や職場など周囲の理解・協力を深める」が52.0%となっています。

男女別にみると、男女とも「育児休業や短時間制度などの仕事と家庭の両立ができる制度を充実する」が最も高くなっています。

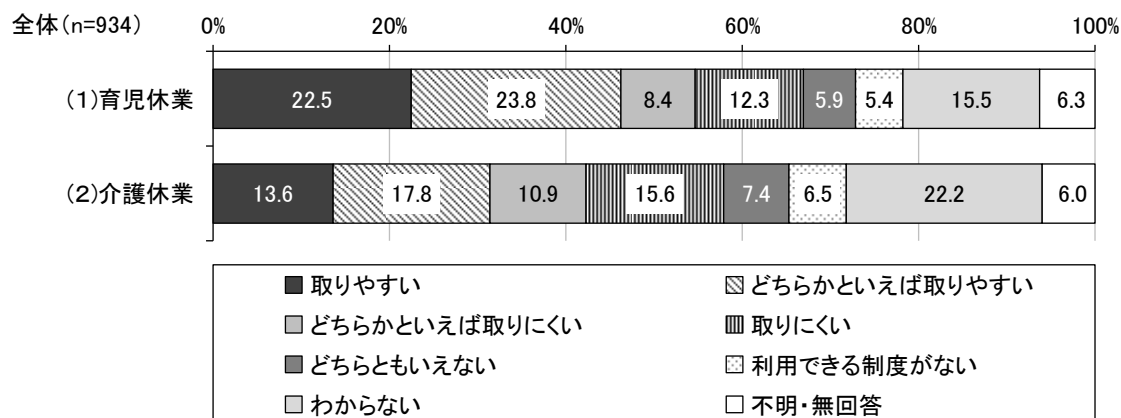
性・年代別にみると、男女とも60歳代では「女性が働くことに対する、家族や職場など周囲の理解・協力を深める」、30歳代女性では「残業や休日出勤ができないことで不利益な扱いをしない」、その他の性・年代では「育児休業や短時間制度などの仕事と家庭の両立ができる制度を充実する」が最も高くなっています。

単位：%		家族や職場など周囲の理解・協力を深める	賃金の男女格差を改める	昇進・昇格の男女格差を改める	残業や休日出勤ができないことで不利益な扱いをしないこと	女性の自己啓発の充実を図り、就業意欲を高める	女性自身の考え方を改革する	テレワークの充実を図る	育児休業や短時間制度などの仕事を充実する	男性の家事・育児・介護などへの参加を促す	育児や介護のための施設やサービスを充実する	その他	不明・無回答
全体(n=1,258)		<b>52.0</b>	16.9	10.7	51.7	5.6	5.5	10.3	<b>57.2</b>	22.7	25.7	3.1	1.8
性別	男性(n=532)	<b>51.5</b>	15.0	12.2	48.5	7.1	6.6	13.3	<b>55.8</b>	17.5	22.4	3.9	2.4
	女性(n=701)	52.5	18.3	9.6	<b>53.9</b>	4.6	4.7	8.1	<b>58.3</b>	26.5	28.1	2.6	1.3
男性・年代別	20歳代:男性(n=55)	<b>52.7</b>	18.2	12.7	<b>52.7</b>	9.1	1.8	18.2	<b>58.2</b>	14.5	21.8	3.6	1.8
	30歳代:男性(n=76)	<b>55.3</b>	9.2	9.2	52.6	6.6	6.6	17.1	<b>67.1</b>	22.4	17.1	0.0	1.3
	40歳代:男性(n=100)	<b>52.0</b>	14.0	10.0	49.0	5.0	7.0	14.0	<b>61.0</b>	19.0	19.0	8.0	1.0
	50歳代:男性(n=137)	<b>43.8</b>	12.4	12.4	<b>43.8</b>	8.8	8.8	12.4	<b>53.3</b>	17.5	25.5	5.8	1.5
	60歳代:男性(n=161)	<b>55.9</b>	19.9	14.9	<b>49.1</b>	6.2	5.6	10.6	<b>49.1</b>	15.5	24.8	1.9	4.3
女性・年代別	20歳代:女性(n=61)	49.2	26.2	16.4	<b>57.4</b>	3.3	1.6	14.8	<b>65.6</b>	18.0	21.3	0.0	1.6
	30歳代:女性(n=102)	50.0	20.6	13.7	<b>59.8</b>	4.9	2.9	9.8	<b>58.8</b>	25.5	23.5	5.9	0.0
	40歳代:女性(n=154)	48.1	15.6	9.1	<b>51.9</b>	2.6	5.8	10.4	<b>59.7</b>	29.9	26.0	4.5	1.3
	50歳代:女性(n=175)	48.6	17.7	7.4	<b>53.1</b>	4.0	6.9	6.3	<b>58.3</b>	28.6	32.6	1.7	1.7
	60歳代:女性(n=203)	<b>61.1</b>	16.7	7.9	52.2	6.9	3.9	5.4	<b>54.7</b>	25.1	30.5	1.0	1.5

問 14 は、現在、働いている方におたずねします。

問 14 あなたの職場では、有給休暇や育児・介護休業を取りやすい環境にありますか。  
 (それぞれ1つに○)

有給休暇や育児・介護休業を取りやすい環境かについてみると、【(1) 育児休業】では『取りやすい』(「取りやすい」と「どちらかといえば取りやすい」の合計)は46.3%と、【(2) 介護休業】の31.4%を上回っています。一方、【(2) 介護休業】では『取りにくい』(「取りにくい」と「どちらかといえば取りにくい」の合計)は26.5%と、【(1) 育児休業】の20.7%を上回っています。

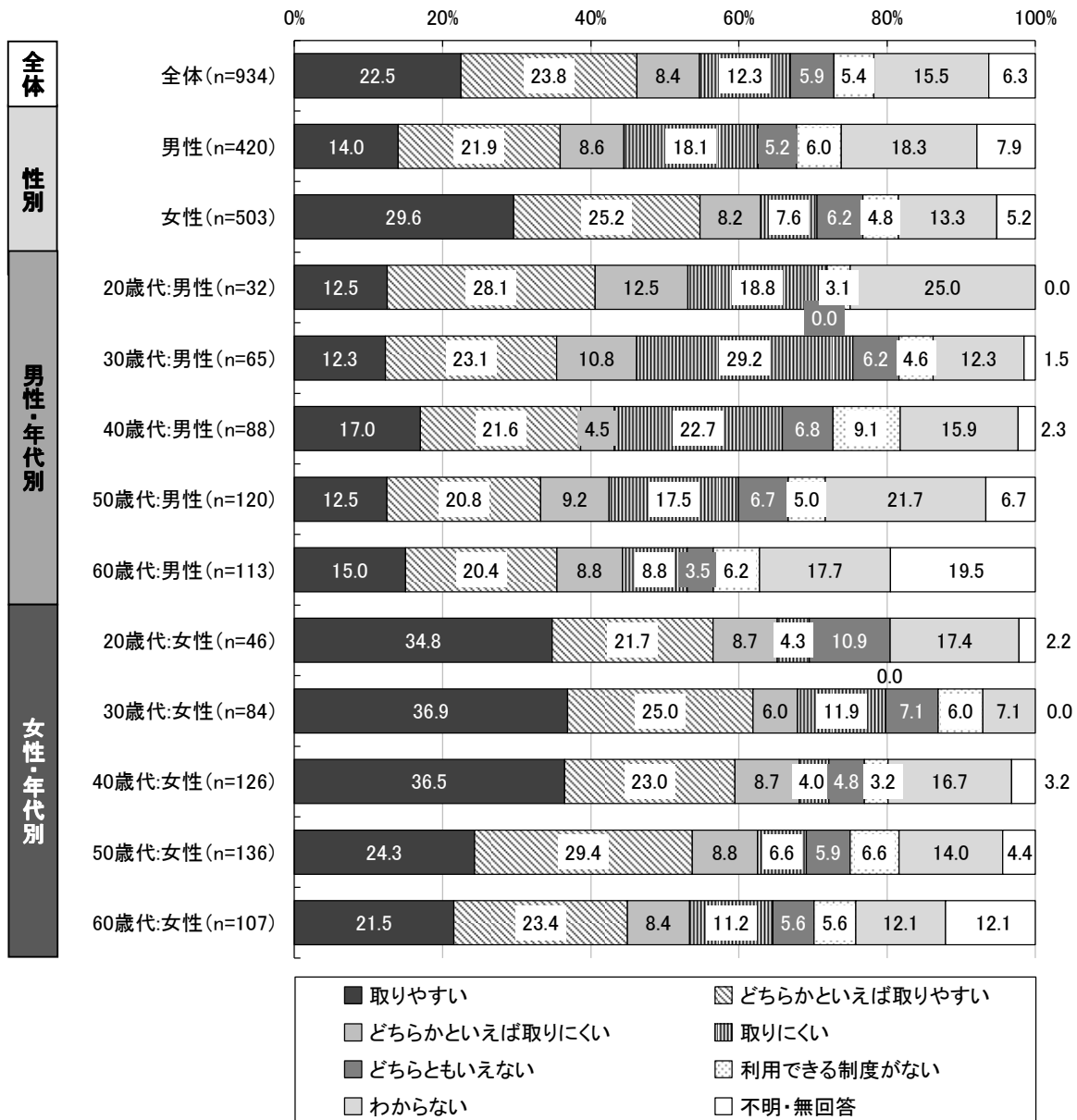


## (1) 育児休業

育児休業を取りやすい環境かについてみると、全体では「どちらかといえば取りやすい」が23.8%と最も高く、次いで「取りやすい」が22.5%となっています。『取りやすい』は46.3%、『取りにくい』は20.7%となっています。

男女別にみると、女性では『取りやすい』が54.8%と、男性と比べて18.9ポイント高くなっています。

性・年代別にみると、30歳代男性では『取りにくい』、その他の性・年代では『取りやすい』が高くなっています。



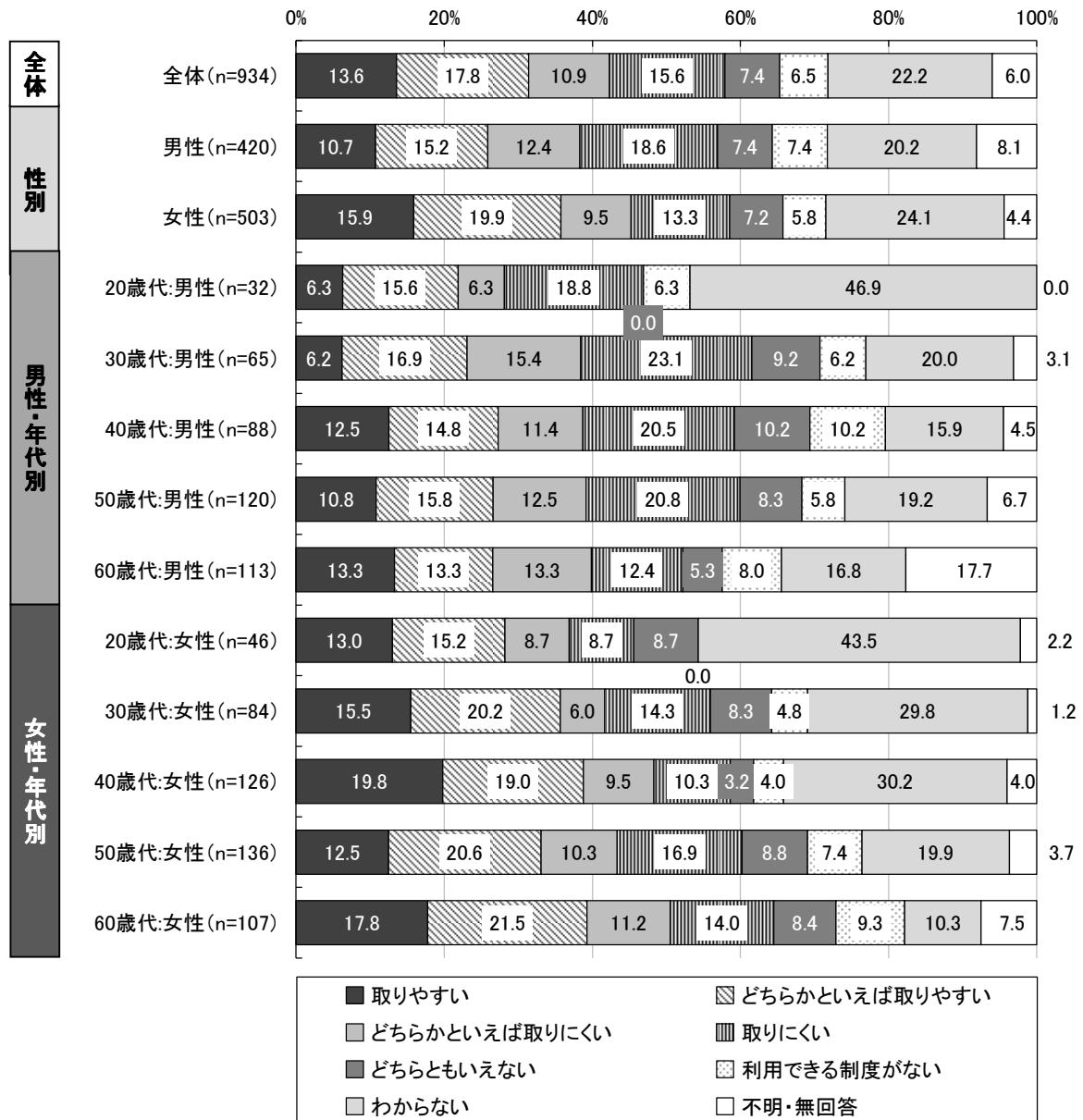


## (2) 介護休業

介護休業を取りやすい環境かについてみると、全体では「わからない」が22.2%と最も高く、次いで「どちらかといえば取りやすい」が17.8%となっています。『取りやすい』は31.4%、『取りにくい』は26.5%となっています。

男女別にみると、女性では『取りやすい』が35.8%と、男性と比べて9.9ポイント高くなっています。

性・年代別にみると、男女とも20歳代では「わからない」、30歳代~50歳代男性では『取りにくい』、30歳代以上の女性では『取りやすい』が高くなっています。



問 15 あなたは、男女ともに育児・介護休業を取りやすくするためには、何が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

男女ともに育児・介護休業を取りやすくするために必要なことについてみると、全体では「職場における育児休業・介護休業制度の整備」が46.3%と最も高く、次いで「育児休業・介護休業を取りやすい職場の雰囲気醸成」が45.3%となっています。

男女別にみると、男性では「職場における育児休業・介護休業制度の整備」、女性では「育児休業・介護休業を取りやすい職場の雰囲気醸成」が最も高くなっています。

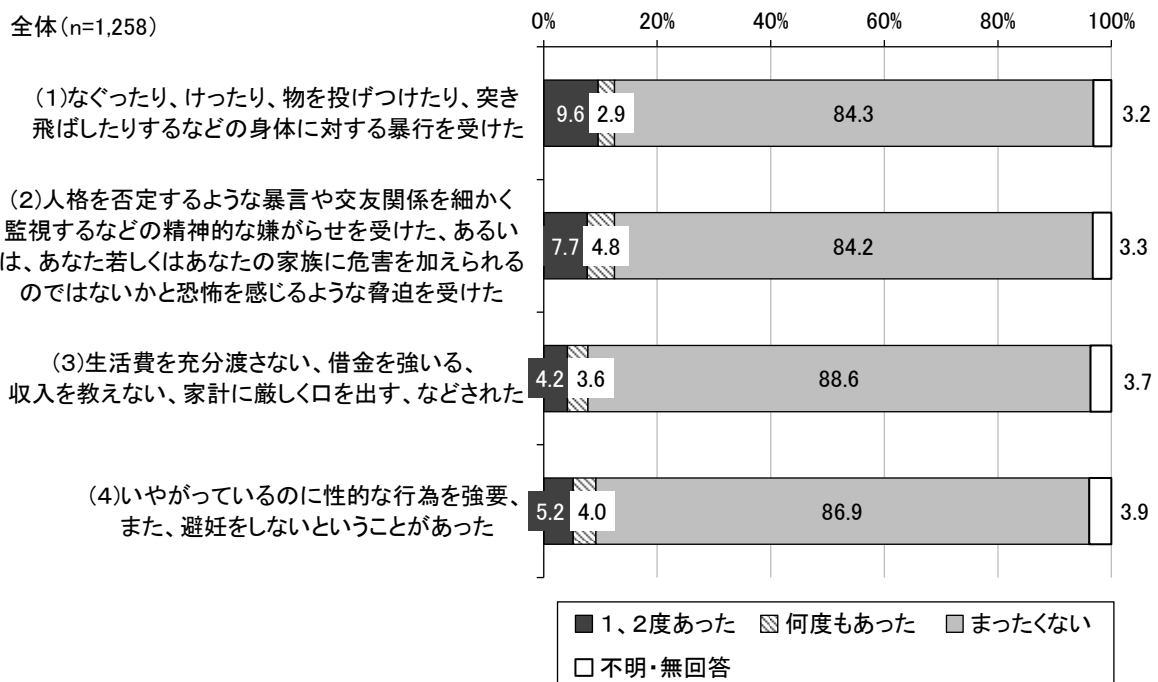
性・年代別にみると、20歳代男性、50歳代女性では「上司や同僚等の理解・協力」、20歳代女性、男女とも30歳代では「育児休業・介護休業を取りやすい職場の雰囲気醸成」、40歳代女性では「休業者をカバーできる人員体制の整備」、その他の性・年代では「職場における育児休業・介護休業制度の整備」が最も高くなっています。

単位：%		職場における育児休業・介護休業制度の整備	育児休業・介護休業を取りやすい職場の雰囲気醸成	上司や同僚等の理解・協力	賃金や昇格、復帰後の仕事の保障	育児休業・介護休業の取得がマイナスにならない人事評価制度の確立	休業者をカバーできる人員体制の整備	育児休業・介護休業取得に対する配偶者や周囲の理解	「男は仕事、女は家事・役割分担意識の固定的な性別役割分担意識の解消	「男は仕事、女は家事・役割分担意識の固定的な性別役割分担意識の解消」に引継ぎが出来る体制づくり	その他	特になし	不明・無回答
全体(n=1,258)		46.3	45.3	45.0	21.7	20.9	42.8	7.0	14.3	13.8	1.8	2.0	2.4
性別	男性(n=532)	48.1	40.8	43.6	21.4	19.7	39.8	5.8	12.2	13.2	2.8	3.0	3.2
	女性(n=701)	44.7	49.1	45.4	22.3	22.0	45.4	7.8	15.5	14.4	1.0	1.3	1.6
男性・年代別	20歳代:男性(n=55)	45.5	43.6	47.3	30.9	23.6	36.4	5.5	18.2	12.7	0.0	0.0	5.5
	30歳代:男性(n=76)	43.4	55.3	51.3	23.7	17.1	39.5	9.2	17.1	17.1	0.0	0.0	0.0
	40歳代:男性(n=100)	53.0	41.0	49.0	17.0	19.0	49.0	4.0	9.0	9.0	6.0	1.0	0.0
	50歳代:男性(n=137)	41.6	38.7	38.7	22.6	20.4	38.0	3.6	8.8	16.1	5.1	4.4	2.2
	60歳代:男性(n=161)	54.7	35.4	40.4	19.3	19.9	37.9	7.5	12.4	11.8	0.6	5.0	6.2
女性・年代別	20歳代:女性(n=61)	47.5	60.7	44.3	23.0	23.0	37.7	6.6	18.0	18.0	0.0	1.6	1.6
	30歳代:女性(n=102)	40.2	61.8	47.1	26.5	25.5	49.0	5.9	13.7	8.8	1.0	0.0	0.0
	40歳代:女性(n=154)	39.0	45.5	46.1	24.0	19.5	54.5	6.5	15.6	16.9	1.9	1.3	1.3
	50歳代:女性(n=175)	46.9	47.4	48.0	19.4	22.3	44.0	7.4	13.7	13.1	0.0	2.3	1.7
	60歳代:女性(n=203)	48.8	42.9	41.4	21.2	21.2	40.9	10.8	16.7	15.3	1.5	1.0	2.5

## 4 人権（DVなど）に関することについて

問16 あなたは、これまでに配偶者や恋人等親密な関係にあるパートナーから、次のようなことをされたことがありますか。（それぞれ1つに○）

DV経験の有無についてみると、すべての項目において「まったくない」が最も高くなっていますが、【(1)なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた】【(2)人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなた若しくはあなたの家族に危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた】では『あった』（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）が1割台となっています。

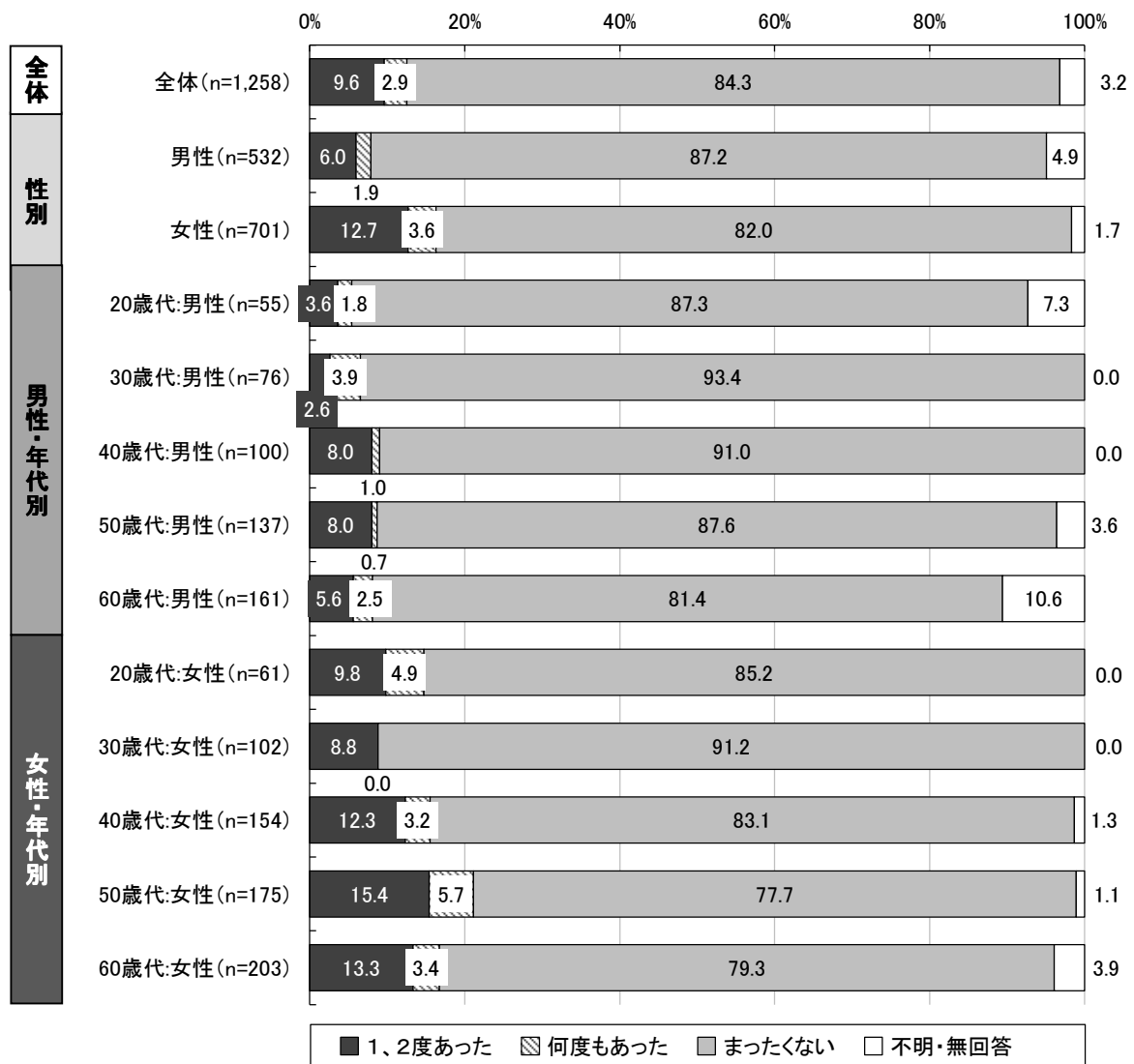


(1) なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた

身体的DVの経験についてみると、全体では「まったくない」が84.3%と最も高く、次いで「1、2度あった」が9.6%となっています。『あった』は12.5%となっています。

男女別にみると、女性では『あった』が16.3%と、男性と比べて8.4ポイント高くなっています。

性・年代別にみると、20歳代、40歳代以上の女性では『あった』が1割以上となっており、特に50歳代女性では21.1%と高くなっています。

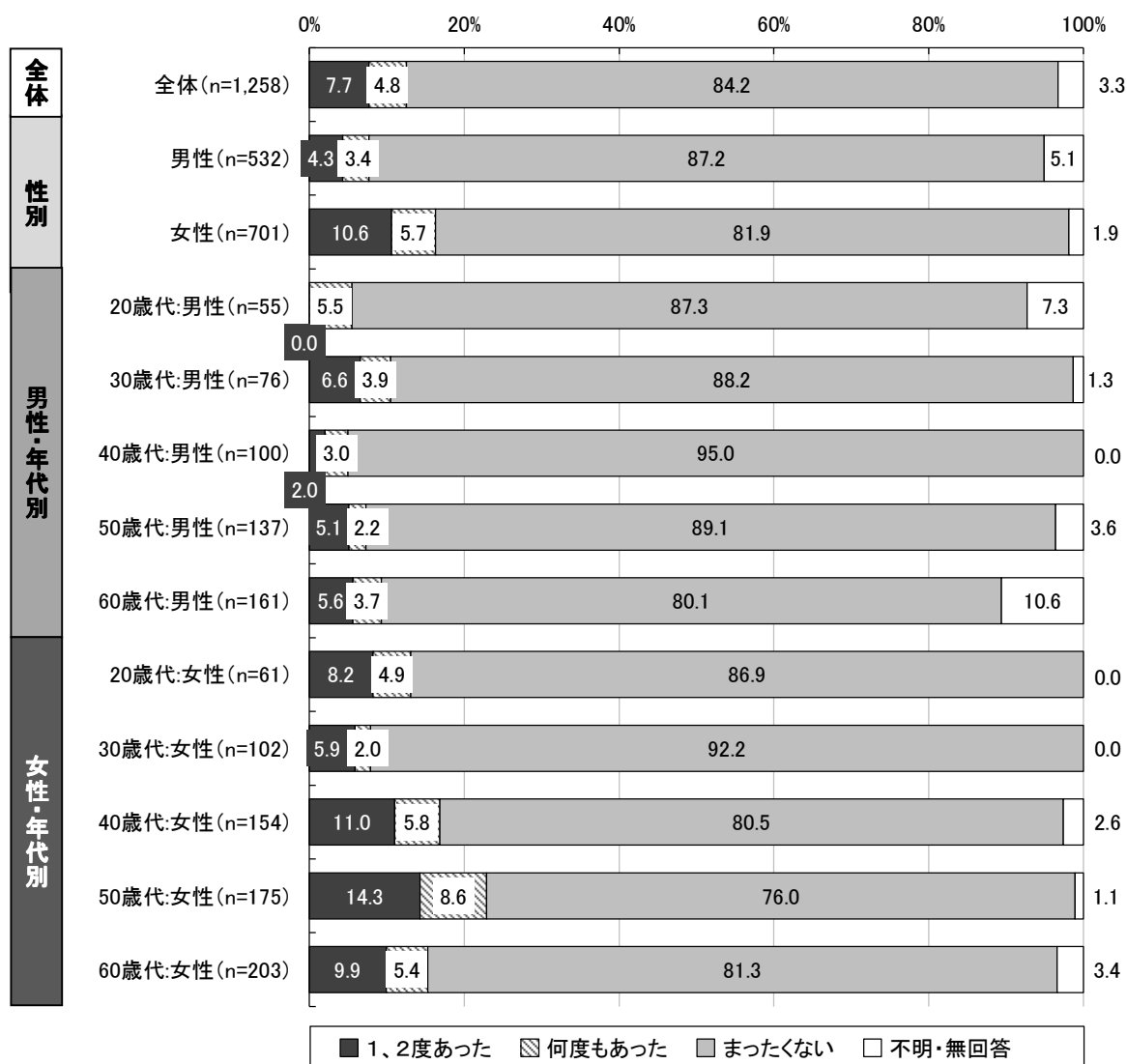


(2) 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなた若しくはあなたの家族に危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた

精神的DVの経験についてみると、全体では「まったくない」が84.2%と最も高く、次いで「1、2度あった」が7.7%となっています。『あった』は12.5%となっています。

男女別にみると、女性では『あった』が16.3%と、男性と比べて8.6ポイント高くなっています。

性・年代別にみると、30歳代男性、20歳代、40歳代以上の女性では『あった』が1割以上となっており、特に50歳代女性では22.9%と高くなっています。

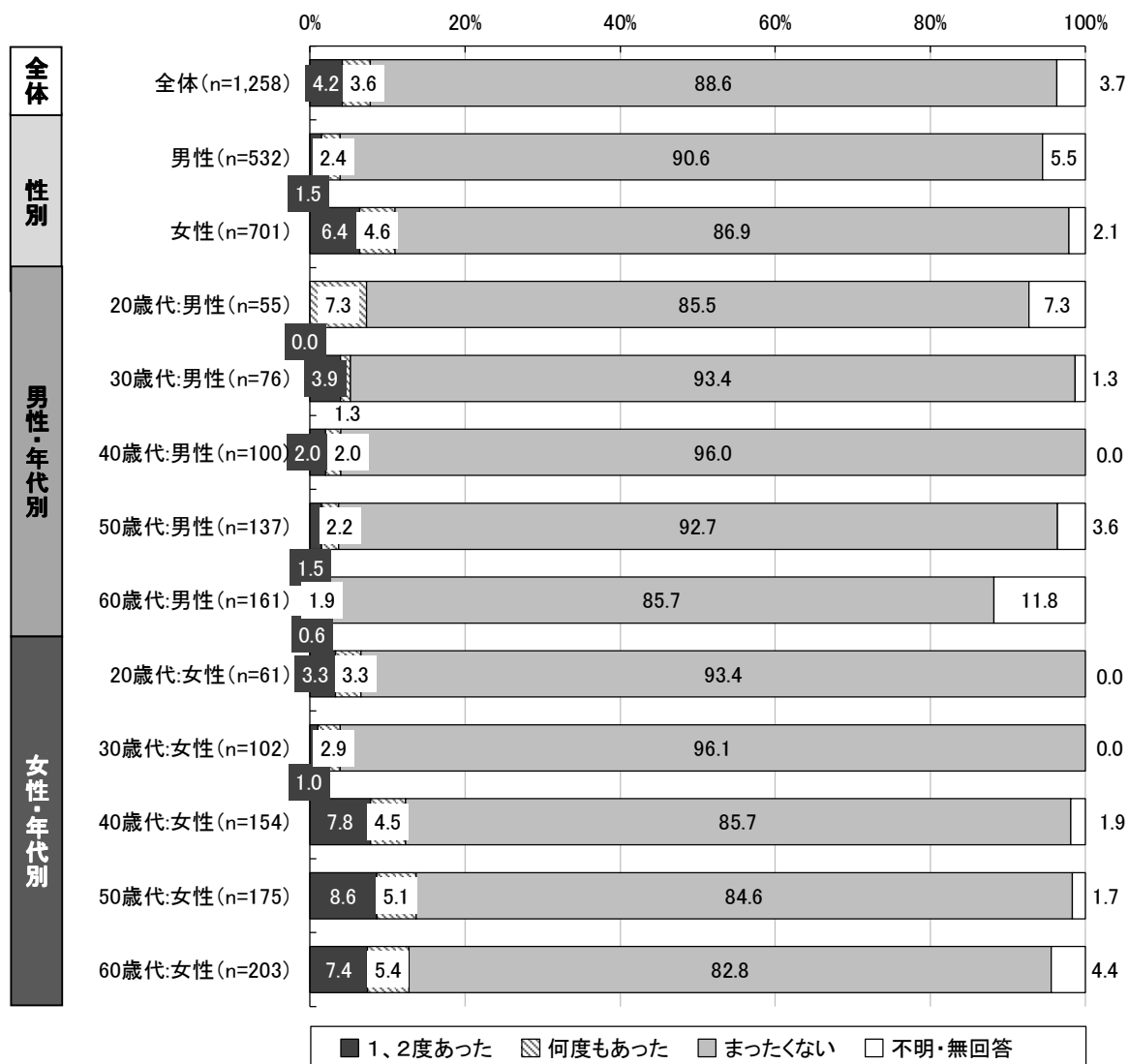


(3) 生活費を充分渡さない、借金を強いる、収入を教えない、家計に厳しく口を出す、  
 などされた

金銭的DVの経験についてみると、全体では「まったくない」が88.6%と最も高く、次いで「1、  
 2度あった」が4.2%となっています。『あった』は7.8%となっています。

男女別にみると、女性では『あった』が11.0%と、男性と比べて7.1ポイント高くなっています。  
 す。

性・年代別にみると、40歳代以上の女性では『あった』が1割以上となっています。

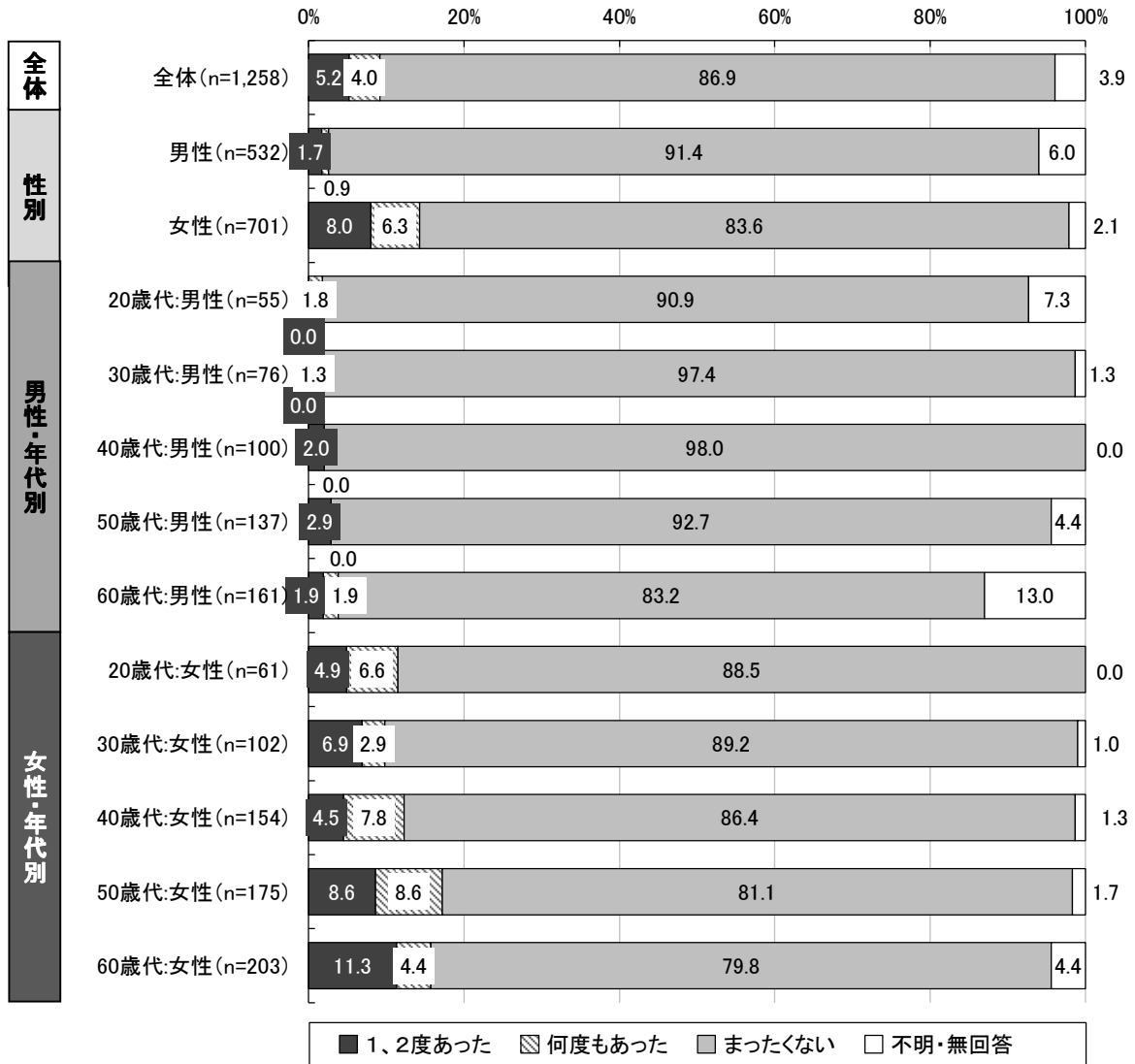


(4) いやがっているのに性的な行為を強要、また、避妊をしないということがあった

性的DVの経験についてみると、全体では「まったくない」が86.9%と最も高く、次いで「1、2度あった」が5.2%となっています。『あった』は9.2%となっています。

男女別にみると、女性では『あった』が14.3%と、男性と比べて11.7ポイント高くなっています。

性・年代別にみると、20歳代、40歳代以上の女性では『あった』が1割以上となっています。



問 16 で1つでも「1、2度あった」または「何度もあった」と回答された方におたずねします。

問 17 それらの行為について、誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。

(あてはまるものすべてに○)

DV被害を誰かに打ち明けたり相談したりしたかについてみると、全体では「どこ（誰）にも相談しなかった」が55.5%と最も高く、次いで「友人・知人に相談した」が24.2%となっています。

男女別にみると、男女とも「どこ（誰）にも相談しなかった」が最も高くなっています。

性・年代別にみると、30歳代男性では「どこ（誰）にも相談しなかった」、「友人・知人に相談した」、20歳代女性では「友人・知人に相談した」、その他の性・年代では「どこ（誰）にも相談しなかった」が最も高くなっています。

単位：%		た ど こ （ 誰 ） に も 相 談 し な か っ た	警 察 に 連 絡 ・ 相 談 し た	公 的 な 相 談 窓 口 や 電 話 相 談 に	民 間 の 機 関 （ 弁 護 士 等 ） に 相 談 し た	医 師 ・ カ ウ ン セ ラ ー に 相 談 し た	家 族 ・ 親 族 に 相 談 し た	友 人 ・ 知 人 に 相 談 し た	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=256)		55.5	3.9	3.1	2.0	2.3	22.7	24.2	2.0	3.1
性別	男性 (n=66)	60.6	3.0	1.5	0.0	1.5	15.2	19.7	3.0	6.1
	女性 (n=187)	53.5	3.7	3.7	2.7	2.7	25.1	26.2	1.6	2.1
男性・年代別	20歳代:男性 (n=4)	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0
	30歳代:男性 (n=10)	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	50.0	0.0	10.0
	40歳代:男性 (n=13)	61.5	0.0	0.0	0.0	0.0	23.1	15.4	0.0	0.0
	50歳代:男性 (n=17)	64.7	0.0	0.0	0.0	5.9	5.9	17.6	5.9	5.9
	60歳代:男性 (n=22)	63.6	4.5	0.0	0.0	0.0	13.6	9.1	4.5	9.1
女性・年代別	20歳代:女性 (n=12)	41.7	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	58.3	0.0	0.0
	30歳代:女性 (n=20)	55.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.0	25.0	0.0	5.0
	40歳代:女性 (n=38)	47.4	5.3	7.9	5.3	7.9	26.3	28.9	0.0	0.0
	50歳代:女性 (n=58)	50.0	5.2	6.9	1.7	3.4	25.9	25.9	1.7	0.0
	60歳代:女性 (n=57)	63.2	3.5	0.0	3.5	0.0	21.1	19.3	3.5	5.3



問 17で「どこ（誰）にも相談しなかった」と回答された方におたずねします。

問 18 どこ（誰）にも相談しなかったのは、なぜですか。（あてはまるものすべてに○）

どこ（誰）にも相談しなかった理由についてみると、全体では「相談しても無駄だと思ったから」が 42.3%と最も高く、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」が 31.7%となっています。

男女別にみると、男性では「相談するほどのことではないと思ったから」、女性では「相談しても無駄だと思ったから」が最も高くなっています。

性・年代別にみると、50歳代男性では「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」、「自分にも悪いところがあると思ったから」、「相談するほどのことではないと思ったから」、60歳代男性では「相談しても無駄だと思ったから」、「相談するほどのことではないと思ったから」、30歳代以上の女性では「相談しても無駄だと思ったから」が最も高くなっています。

単位：%		わからなかつたから	公共の相談機関を知らなかつたから	恥ずかしくて誰にも言えなかつたから	相談しても無駄だと思ったから	相談したことがわると、思つたから	相談したことがわると、思つたから	子どもに危害が及ぶと思つたから	他人を巻き込みたくなかつたから	自分にも悪いところがあると思つたから	相談するほどのことではないと思つたから	その他	不明・無回答
全体(n=142)		14.8	7.7	16.2	<b>42.3</b>	5.6	3.5	16.9	18.3	<b>31.7</b>	7.0	1.4	
性別	男性(n=40)	10.0	10.0	7.5	<b>27.5</b>	2.5	0.0	12.5	<b>27.5</b>	<b>40.0</b>	10.0	2.5	
	女性(n=100)	17.0	6.0	20.0	<b>49.0</b>	7.0	5.0	18.0	14.0	<b>29.0</b>	6.0	1.0	
男性・年代別	20歳代:男性(n=2)	<b>50.0</b>	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	<b>100.0</b>	<b>50.0</b>	0.0	0.0	0.0	
	30歳代:男性(n=5)	0.0	0.0	0.0	<b>40.0</b>	0.0	0.0	0.0	<b>40.0</b>	<b>60.0</b>	20.0	0.0	
	40歳代:男性(n=8)	0.0	0.0	0.0	<b>25.0</b>	0.0	0.0	0.0	<b>25.0</b>	<b>62.5</b>	12.5	0.0	
	50歳代:男性(n=11)	9.1	9.1	<b>27.3</b>	18.2	0.0	0.0	18.2	<b>27.3</b>	<b>27.3</b>	18.2	0.0	
	60歳代:男性(n=14)	14.3	21.4	0.0	<b>35.7</b>	7.1	0.0	7.1	21.4	<b>35.7</b>	0.0	7.1	
女性・年代別	20歳代:女性(n=5)	0.0	0.0	0.0	<b>80.0</b>	0.0	0.0	<b>20.0</b>	<b>20.0</b>	<b>20.0</b>	0.0	0.0	
	30歳代:女性(n=11)	9.1	0.0	27.3	<b>63.6</b>	0.0	0.0	27.3	27.3	<b>54.5</b>	9.1	0.0	
	40歳代:女性(n=18)	11.1	0.0	11.1	<b>50.0</b>	0.0	11.1	5.6	5.6	<b>33.3</b>	5.6	0.0	
	50歳代:女性(n=29)	<b>24.1</b>	13.8	17.2	<b>44.8</b>	13.8	6.9	20.7	17.2	17.2	10.3	0.0	
	60歳代:女性(n=36)	19.4	5.6	25.0	<b>44.4</b>	8.3	2.8	19.4	11.1	<b>30.6</b>	2.8	2.8	

問19 DV（ドメスティック・バイオレンス）を防ぐため、どのような取り組みがもっとも重要だと思いますか。（1つに○）

DVを防ぐために重要な取り組みについてみると、全体では「被害者が家庭内のことを打ち明けられる相談体制を整備する」が20.0%と最も高く、次いで「被害者が援助を求めやすくするため、情報提供体制を充実させる」が19.2%となっています。

男女別にみると、男性では「被害者が援助を求めやすくするため、情報提供体制を充実させる」、女性では「被害者が家庭内のことを打ち明けられる相談体制を整備する」が最も高くなっています。

性・年代別にみると、男女とも30歳代では「被害者自身がDVを受けていると認識できる仕組みづくり」、男女とも40歳代、50歳代女性では「被害者が家庭内のことを打ち明けられる相談体制を整備する」、その他の性・年代では「被害者が援助を求めやすくするため、情報提供体制を充実させる」が最も高くなっています。

単位：%		被害者が援助を求めやすくするため、情報提供体制を充実させる	V家庭ついでに学校における人権やDV	被害者が家庭内のことを打ち明けられる相談体制を整備する	加害者に対するカウンセリング	被害者から逃げるための一時保護施設を設ける	被害者自身がDVを受けていると認識できる仕組みづくり	特に対応する必要はない	その他	不明・無回答
全体 (n=1,258)		19.2	12.3	20.0	5.8	12.0	12.0	1.4	2.4	14.9
性別	男性 (n=532)	21.1	11.5	19.4	5.6	11.3	10.5	1.5	2.8	16.4
	女性 (n=701)	18.0	13.0	20.5	5.8	12.7	13.3	1.1	2.1	13.4
男性・年代別	20歳代:男性 (n=55)	20.0	7.3	18.2	7.3	10.9	12.7	1.8	0.0	21.8
	30歳代:男性 (n=76)	17.1	13.2	17.1	5.3	17.1	22.4	0.0	0.0	7.9
	40歳代:男性 (n=100)	21.0	11.0	24.0	5.0	13.0	10.0	1.0	5.0	10.0
	50歳代:男性 (n=137)	22.6	11.7	16.8	7.3	8.0	9.5	2.2	4.4	17.5
	60歳代:男性 (n=161)	22.4	12.4	19.3	4.3	10.6	5.6	1.9	2.5	21.1
女性・年代別	20歳代:女性 (n=61)	16.4	14.8	11.5	8.2	14.8	11.5	0.0	1.6	21.3
	30歳代:女性 (n=102)	18.6	6.9	15.7	2.9	17.6	22.5	0.0	2.0	13.7
	40歳代:女性 (n=154)	14.9	13.0	17.5	9.1	12.3	16.9	1.3	1.9	13.0
	50歳代:女性 (n=175)	14.9	12.6	26.9	4.6	12.6	14.3	2.3	1.1	10.9
	60歳代:女性 (n=203)	23.2	15.8	22.2	4.9	10.3	5.9	1.0	3.4	13.3

## 5 女性の活躍推進・男女共同参画社会づくりについて

問 20 あなたは、男女共同参画社会の形成のため、女性が企画や方針を決定していくような場をはじめ、社会のあらゆる分野にもっと参画していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。(〇は3つまで)

---

社会のあらゆる分野で女性の参画を促進するために重要なことについてみると、全体では「男性・女性両方の意識を高め、偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改善する」が47.7%と最も高く、次いで「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識を改める」が36.2%となっています。

男女別にみると、男女とも「男性・女性両方の意識を高め、偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改善する」が最も高くなっています。

性・年代別にみると、男女ともすべての年代で「男性・女性両方の意識を高め、偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改善する」が最も高くなっています。

---

単位：%		家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識を改める	男性優位の組織運営を改める	女性に対して、家族の支援・協力が得られるようにする	女性の能力を向上させる機会を増やす	女性の活動を支援するネットワークをつくる	女性の参画を積極的に進めようと考える人（男女）を増やす	男性・女性両方の意識を高め、偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改善する	法律、制度を見直す	女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスを充実させる	一定の割合で女性を登用するようにする
全体 (n=1,258)		<b>36.2</b>	22.7	21.7	14.5	8.8	11.4	<b>47.7</b>	14.6	21.5	8.7
性別	男性 (n=532)	<b>35.9</b>	20.5	21.6	12.4	9.0	10.9	<b>45.7</b>	17.1	16.7	8.3
	女性 (n=701)	<b>36.5</b>	25.0	21.7	15.5	8.6	12.0	<b>49.9</b>	12.8	24.7	8.6
男性・年代別	20歳代:男性 (n=55)	<b>36.4</b>	20.0	16.4	7.3	14.5	7.3	<b>38.2</b>	18.2	25.5	5.5
	30歳代:男性 (n=76)	<b>36.8</b>	13.2	32.9	11.8	15.8	15.8	<b>44.7</b>	19.7	10.5	7.9
	40歳代:男性 (n=100)	<b>34.0</b>	19.0	18.0	11.0	6.0	12.0	<b>48.0</b>	20.0	17.0	9.0
	50歳代:男性 (n=137)	<b>36.5</b>	16.8	18.2	13.1	8.8	10.2	<b>44.5</b>	17.5	19.7	7.3
	60歳代:男性 (n=161)	<b>36.0</b>	28.6	23.6	14.3	6.2	9.9	<b>49.1</b>	13.0	14.3	9.3
女性・年代別	20歳代:女性 (n=61)	<b>37.7</b>	21.3	19.7	16.4	8.2	9.8	<b>52.5</b>	21.3	24.6	13.1
	30歳代:女性 (n=102)	<b>38.2</b>	23.5	23.5	11.8	9.8	9.8	<b>46.1</b>	22.5	30.4	7.8
	40歳代:女性 (n=154)	<b>35.7</b>	24.7	22.1	11.0	9.7	14.3	<b>46.1</b>	10.4	24.7	9.1
	50歳代:女性 (n=175)	<b>37.1</b>	28.0	21.1	16.0	8.6	10.3	<b>50.9</b>	12.6	26.9	6.3
	60歳代:女性 (n=203)	<b>35.5</b>	23.6	20.7	20.2	7.4	13.8	<b>53.2</b>	7.9	20.2	8.9

単位：%		性意思比率を増やす	その他	特にな	わからない	不明・無回答
全体 (n=1,258)		12.8	1.7	2.5	4.8	3.8
性別	男性 (n=532)	12.8	2.1	3.0	5.5	4.5
	女性 (n=701)	12.8	1.4	2.3	4.4	2.9
男性・年代別	20歳代:男性 (n=55)	10.9	0.0	0.0	16.4	3.6
	30歳代:男性 (n=76)	17.1	1.3	3.9	0.0	3.9
	40歳代:男性 (n=100)	13.0	4.0	2.0	3.0	5.0
	50歳代:男性 (n=137)	13.1	2.2	5.1	7.3	1.5
	60歳代:男性 (n=161)	11.2	1.2	1.9	4.3	7.5
女性・年代別	20歳代:女性 (n=61)	24.6	1.6	0.0	0.0	1.6
	30歳代:女性 (n=102)	7.8	1.0	2.0	3.9	1.0
	40歳代:女性 (n=154)	20.1	1.3	2.6	3.2	3.2
	50歳代:女性 (n=175)	8.6	2.9	2.3	4.0	1.7
	60歳代:女性 (n=203)	10.3	0.5	3.0	6.9	4.9

問 21 女性活躍推進・男女共同参画社会の実現を目指して、佐世保市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇は3つまで)

---

女性活躍推進・男女共同参画社会の実現のために、佐世保市が力を入れていくべきことについてみると、全体では「子育てや介護の負担を軽くするため、それぞれに関する施設や制度を充実させる」が47.5%と最も高く、次いで「長時間労働の見直しなど、仕事以外の時間を確保できるような取り組みを進める」が31.7%となっています。

男女別にみると、男女とも「子育てや介護の負担を軽くするため、それぞれに関する施設や制度を充実させる」が最も高くなっています。

性・年代別にみると、20歳代男性では「長時間労働の見直しなど、仕事以外の時間を確保できるような取り組みを進める」、その他の性・年代では「子育てや介護の負担を軽くするため、それぞれに関する施設や制度を充実させる」が最も高くなっています。

---

単位：%		共同参画の意識啓発を行う	地域や企業に対し、様々な機会を利用して女性活躍や男女	地域や企業に対し、様々な機会を利用して女性活躍や男女	啓発を行う	フブランを描けるための意識	や男女共同参画を促すための意識	小さい頃から学校で女性活躍	用する	佐世保市の各種審議会、委員会などへ女性の委員を多く登	啓発を行う	地域生活へ参画するよう意識	男性に対して、育児や介護、	啓発を行う	女性に対して、積極的な社会	参画や就労継続のための意識	設や制度を充実させる	子育てや介護の負担を軽くす	るため、それぞれに関する施	くりに進めやすくなる環境づく	ポランテアなどの地域活動	うな取り組みを進める	長時間労働の見直しなど、仕	事と家庭の両立など、様々な	問題に対する相談体制を充実	させる	子育てや介護、地域活動、仕	事と家庭の両立など、様々な	問題に対する相談体制を充実	させる	女性などの組織づくりを進	める		
全体(n=1,258)		20.6	28.4	19.1	19.2	7.6	<b>47.5</b>	5.2	<b>31.7</b>	21.1	8.3																							
性別	男性(n=532)	25.4	21.8	21.6	14.3	7.7	<b>41.7</b>	5.3	<b>32.9</b>	20.5	8.3																							
	女性(n=701)	17.1	<b>33.7</b>	17.1	23.1	7.3	<b>52.1</b>	5.0	30.7	22.0	8.3																							
男性・年代別	20歳代:男性(n=55)	18.2	14.5	10.9	18.2	3.6	<b>47.3</b>	5.5	<b>58.2</b>	30.9	3.6																							
	30歳代:男性(n=76)	23.7	26.3	22.4	15.8	9.2	<b>48.7</b>	2.6	<b>40.8</b>	21.1	10.5																							
	40歳代:男性(n=100)	26.0	20.0	18.0	12.0	6.0	<b>40.0</b>	3.0	<b>38.0</b>	20.0	7.0																							
	50歳代:男性(n=137)	22.6	24.1	21.2	9.5	10.2	<b>40.1</b>	8.0	<b>25.5</b>	20.4	11.7																							
	60歳代:男性(n=161)	<b>30.4</b>	21.7	27.3	17.4	7.5	<b>39.8</b>	5.6	24.2	17.4	6.8																							
女性・年代別	20歳代:女性(n=61)	14.8	26.2	18.0	24.6	8.2	<b>57.4</b>	3.3	<b>37.7</b>	27.9	11.5																							
	30歳代:女性(n=102)	15.7	37.3	17.6	21.6	5.9	<b>52.9</b>	3.9	<b>48.0</b>	15.7	5.9																							
	40歳代:女性(n=154)	13.6	35.7	20.1	22.1	11.0	<b>46.8</b>	2.6	<b>39.6</b>	14.9	8.4																							
	50歳代:女性(n=175)	20.6	<b>33.7</b>	13.7	25.1	6.9	<b>50.3</b>	5.7	24.6	24.6	9.1																							
	60歳代:女性(n=203)	18.7	<b>32.5</b>	17.7	21.7	4.9	<b>55.2</b>	5.9	18.7	26.1	7.9																							

単位：%		実被害者に対するDVの根絶を充	セクハラやDVの根絶を充	を介する	事業主等への育児休業周知や	その他	不明・無回答
全体(n=1,258)		9.0	17.2	2.6	5.7		
性別	男性(n=532)	12.0	16.4	4.9	6.4		
	女性(n=701)	6.6	17.5	1.0	5.0		
男性・年代別	20歳代:男性(n=55)	12.7	12.7	1.8	7.3		
	30歳代:男性(n=76)	7.9	18.4	3.9	3.9		
	40歳代:男性(n=100)	8.0	17.0	7.0	5.0		
	50歳代:男性(n=137)	15.3	16.8	5.8	3.6		
	60歳代:男性(n=161)	13.7	16.1	4.3	9.9		
女性・年代別	20歳代:女性(n=61)	8.2	13.1	1.6	1.6		
	30歳代:女性(n=102)	10.8	20.6	0.0	2.0		
	40歳代:女性(n=154)	5.2	17.5	0.6	5.8		
	50歳代:女性(n=175)	6.3	18.9	0.6	3.4		
	60歳代:女性(n=203)	5.4	16.3	2.0	8.4		

問 22 多様性を生かした社会づくりに向けて、佐世保市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇は3つまで)

多様性を生かした社会づくりに向けて、佐世保市が力を入れていくべきことについてみると、全体では「多様性の理解促進のための人権教育・啓発の充実」が44.8%と最も高く、次いで「外国人、障がいのある人、性的少数者の正しい理解に向けた啓発活動の推進」が39.1%となっています。

男女別にみると、男女とも「多様性の理解促進のための人権教育・啓発の充実」が最も高くなっています。

性・年代別にみると、男女とも20歳代、30歳代男性では「外国人、障がいのある人、性的少数者の正しい理解に向けた啓発活動の推進」、その他の性・年代では「多様性の理解促進のための人権教育・啓発の充実」が最も高くなっています。

単位：%		国際交流活動の充実	外国人に関する相談窓口の充実	性的少数者に配慮した職員の窓口対応の充実	性的少数者に関する相談窓口の充実	外国人、障がいのある人、性的少数者の正しい理解に向けた啓発活動の推進	多様性の理解促進のための人権教育・啓発の充実	その他	特になし	わからない	不明・無回答
全体(n=1,258)		33.6	17.3	13.8	12.6	<b>39.1</b>	<b>44.8</b>	2.9	5.1	15.1	4.6
性別	男性(n=532)	33.3	21.8	15.6	13.3	<b>39.3</b>	<b>42.5</b>	3.4	5.8	12.0	5.5
	女性(n=701)	34.2	13.6	12.3	11.6	<b>38.9</b>	<b>46.8</b>	2.4	4.6	17.5	3.9
男性・年代別	20歳代:男性(n=55)	25.5	<b>29.1</b>	21.8	12.7	<b>38.2</b>	<b>29.1</b>	1.8	5.5	21.8	3.6
	30歳代:男性(n=76)	34.2	22.4	11.8	14.5	<b>48.7</b>	<b>44.7</b>	5.3	7.9	9.2	3.9
	40歳代:男性(n=100)	<b>36.0</b>	23.0	11.0	14.0	31.0	<b>48.0</b>	5.0	7.0	6.0	5.0
	50歳代:男性(n=137)	35.0	19.0	16.8	8.8	<b>42.3</b>	<b>43.8</b>	4.4	5.1	13.9	2.9
	60歳代:男性(n=161)	32.9	21.1	17.4	16.8	<b>37.9</b>	<b>41.6</b>	1.2	5.0	11.8	8.7
女性・年代別	20歳代:女性(n=61)	37.7	14.8	14.8	18.0	<b>45.9</b>	<b>39.3</b>	3.3	8.2	16.4	1.6
	30歳代:女性(n=102)	<b>36.3</b>	13.7	13.7	13.7	35.3	<b>44.1</b>	6.9	4.9	17.6	2.0
	40歳代:女性(n=154)	26.0	11.0	14.9	11.7	<b>36.4</b>	<b>50.0</b>	1.9	5.2	17.5	3.2
	50歳代:女性(n=175)	35.4	17.7	10.3	5.7	<b>38.9</b>	<b>42.3</b>	1.1	2.9	20.6	2.3
	60歳代:女性(n=203)	36.9	11.3	10.3	13.3	<b>41.4</b>	<b>51.7</b>	1.5	4.4	15.8	7.4

問 23 コロナ禍における生活についておたずねします。(あてはまるものすべてに○)

---

コロナ禍における生活についてみると、全体では「人とのつながりが希薄になった」が 54.4%と最も高く、次いで「家族との時間が増えた」が 23.3%となっています。

男女別にみると、男女とも「人とのつながりが希薄になった」が最も高くなっています。

性・年代別にみると、男女ともすべての年代で「人とのつながりが希薄になった」が最も高くなっています。次いで、40 歳代男性では「収入が減った」、「家族との時間が増えた」、50 歳代以上の男性では「収入が減った」、50 歳代女性では「心身に不調をきたした」、その他の性・年代では「家族との時間が増えた」となっています。

---



単位：%		退職や休業など就業面で変化があった	仕事量が増えた	収入が減った	収入が増えた	心身に不調をきたした	人とのつながりが希薄になった	DV（ドメスティック・バイオレンス）の被害を受けた（頻度が増えた）	家族との時間が増えた	自己啓発をすることができた	生理用品の購入を控えた
全体(n=1,258)		13.1	11.7	20.1	0.8	14.8	<b>54.4</b>	0.2	<b>23.3</b>	6.2	0.2
性別	男性(n=532)	13.9	11.5	<b>24.8</b>	0.8	13.2	<b>51.1</b>	0.0	21.6	8.1	0.0
	女性(n=701)	12.3	12.0	16.3	0.9	16.1	<b>56.9</b>	0.4	<b>24.5</b>	5.0	0.3
男性・年代別	20歳代:男性(n=55)	14.5	9.1	20.0	0.0	21.8	<b>45.5</b>	0.0	<b>23.6</b>	5.5	0.0
	30歳代:男性(n=76)	14.5	22.4	22.4	1.3	23.7	<b>57.9</b>	0.0	<b>32.9</b>	7.9	0.0
	40歳代:男性(n=100)	21.0	16.0	<b>25.0</b>	1.0	13.0	<b>50.0</b>	0.0	<b>25.0</b>	9.0	0.0
	50歳代:男性(n=137)	8.8	10.9	<b>29.2</b>	0.0	10.2	<b>51.8</b>	0.0	17.5	8.8	0.0
	60歳代:男性(n=161)	13.7	5.0	<b>23.6</b>	1.2	8.1	<b>49.7</b>	0.0	16.8	7.5	0.0
女性・年代別	20歳代:女性(n=61)	16.4	11.5	21.3	0.0	16.4	<b>59.0</b>	0.0	<b>39.3</b>	3.3	0.0
	30歳代:女性(n=102)	15.7	14.7	17.6	2.9	16.7	<b>63.7</b>	0.0	<b>39.2</b>	2.0	0.0
	40歳代:女性(n=154)	14.9	14.3	18.2	0.6	16.9	<b>44.2</b>	0.6	<b>26.6</b>	6.5	0.6
	50歳代:女性(n=175)	10.3	14.3	12.6	1.1	<b>20.0</b>	<b>62.9</b>	1.1	13.7	4.6	0.6
	60歳代:女性(n=203)	8.9	7.4	15.3	0.0	11.8	<b>56.7</b>	0.0	20.7	6.4	0.0

単位：%		え生理用品以外の購入を控	その他	特にな	わからない	不明・無回答
全体(n=1,258)		2.7	6.4	16.9	1.7	1.5
性別	男性(n=532)	1.1	4.9	17.5	2.3	2.4
	女性(n=701)	3.9	7.7	16.4	1.3	0.7
男性・年代別	20歳代:男性(n=55)	1.8	1.8	20.0	0.0	1.8
	30歳代:男性(n=76)	1.3	11.8	9.2	1.3	0.0
	40歳代:男性(n=100)	4.0	3.0	15.0	1.0	1.0
	50歳代:男性(n=137)	0.0	7.3	16.1	2.9	2.2
	60歳代:男性(n=161)	0.0	1.9	23.0	3.7	5.0
女性・年代別	20歳代:女性(n=61)	4.9	3.3	11.5	1.6	0.0
	30歳代:女性(n=102)	2.9	7.8	10.8	0.0	0.0
	40歳代:女性(n=154)	7.8	11.0	18.2	0.6	0.0
	50歳代:女性(n=175)	1.7	9.7	13.1	2.3	1.1
	60歳代:女性(n=203)	3.0	4.9	<b>22.7</b>	1.5	1.5

## 集計表

問1 あなたご自身について、お答えください。

① あなたの性別をお選びください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	男性	532	42.3	42.8
2	女性	701	55.7	56.4
3	わからない、答えたくない	9	0.7	0.7
	不明・無回答	16	1.3	

② あなたの年代をお選びください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	20歳代	120	9.5	9.7
2	30歳代	180	14.3	14.5
3	40歳代	258	20.5	20.8
4	50歳代	313	24.9	25.2
5	60歳代	369	29.3	29.8
	不明・無回答	18	1.4	

③ あなたは結婚（事実婚を含む）していますか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	結婚している（パートナーと暮らしている人も含む）	830	66.0	66.6
2	離別・死別	145	11.5	11.6
3	未婚	271	21.5	21.7
	不明・無回答	12	1.0	

④ あなたの家族構成をお選びください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	ひとり暮らし	159	12.6	12.8
2	夫婦のみ	307	24.4	24.7
3	三世代世帯（親と子と孫）	95	7.6	7.7
4	二世代世帯（親と子）	649	51.6	52.3
5	その他	31	2.5	2.5
	不明・無回答	17	1.4	

⑤ あなたには20歳未満のお子さんがいらっしゃいますか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	はい	379	30.1	30.4
2	いいえ	866	68.8	69.6
	不明・無回答	13	1.0	

⑥ 一番下のお子さんは次のどれにあてはまりますか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	未就学児	140	36.9	37.0
2	小学生	90	23.7	23.8
3	中学生・高校生・大学生（短大生、専修学校生等も含む）	118	31.1	31.2
4	社会人	29	7.7	7.7
5	その他	1	0.3	0.3
	不明・無回答	1	0.3	

⑦ あなたの現在のお仕事の状況についてお選びください。

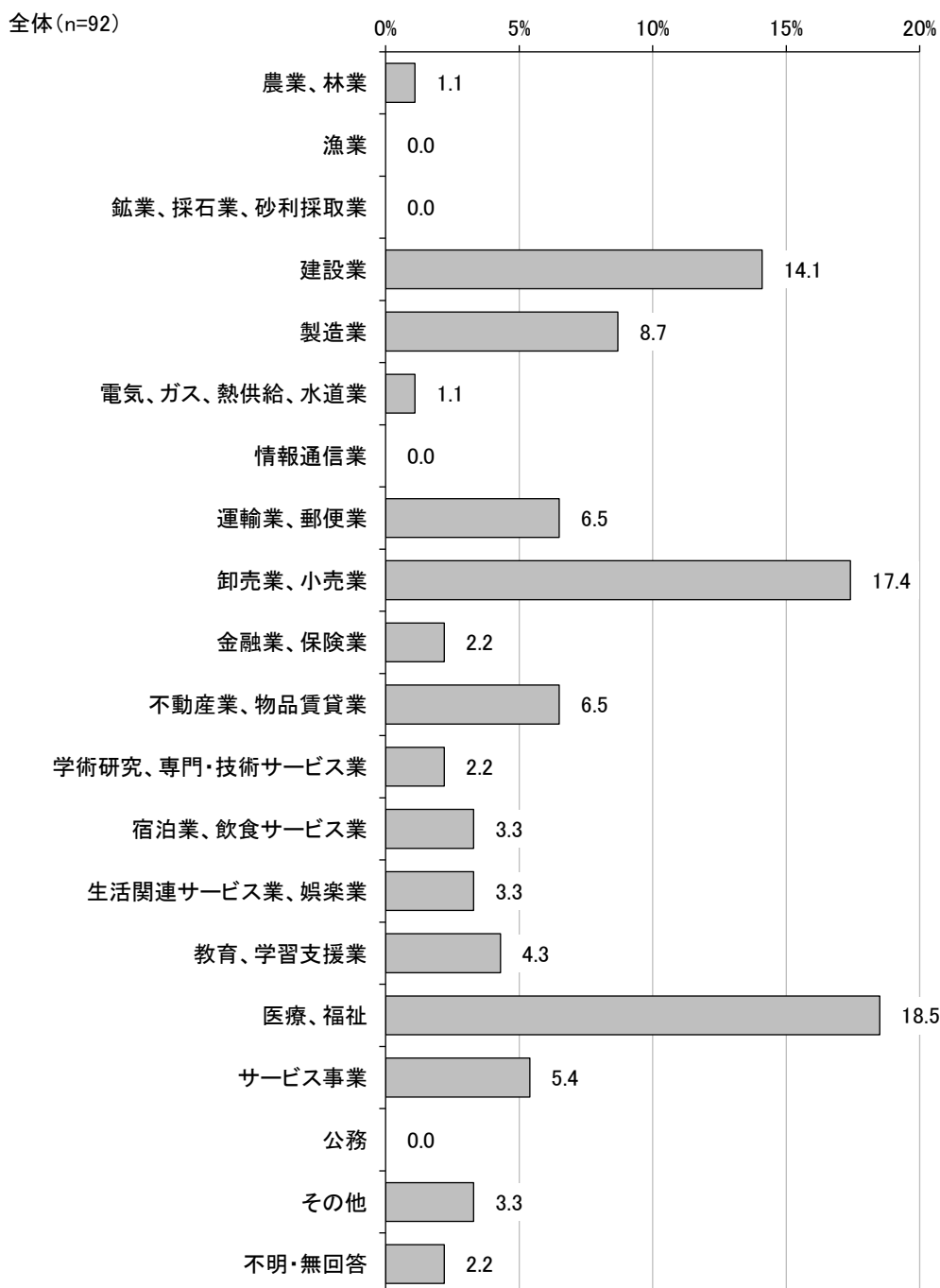
No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	自営業主	57	4.5	4.6
2	家族従業員	29	2.3	2.3
3	会社・団体役員	183	14.5	14.8
4	正規（フルタイム）	376	29.9	30.4
5	非正規（フルタイム）	46	3.7	3.7
6	パート・アルバイト等	243	19.3	19.7
7	学生	9	0.7	0.7
8	家事専業	116	9.2	9.4
9	無職	124	9.9	10.0
10	その他	53	4.2	4.3
	不明・無回答	22	1.7	

### Ⅲ 事業所実態調査結果

#### 1 事業所について

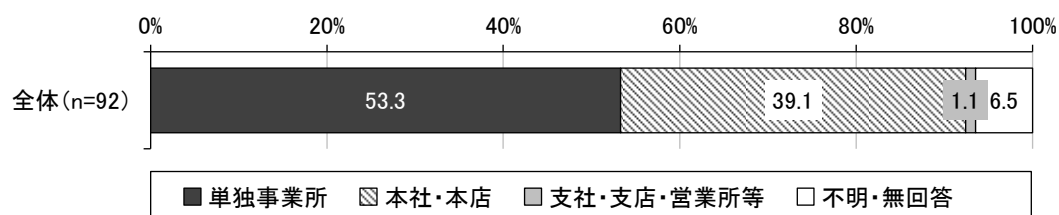
問1 事業所の主たる業種についてお答えください。(1つに○)

事業所の主たる業種についてみると、「医療・福祉」が18.5%と最も高く、次いで「卸売業、小売業」が17.4%となっています。



## 問2 事業所区分について、お答えください。(1つに○)

事業所区分についてみると、「単独事業所」が53.3%と最も高く、次いで「本社・本店」が39.1%となっています。



## 問3 貴事業所の従業員数を雇用形態別にご記入ください。(数字で記入)

回答事業所の従業員数についてみると、男女とも「正規従業員」が最も高くなっています。

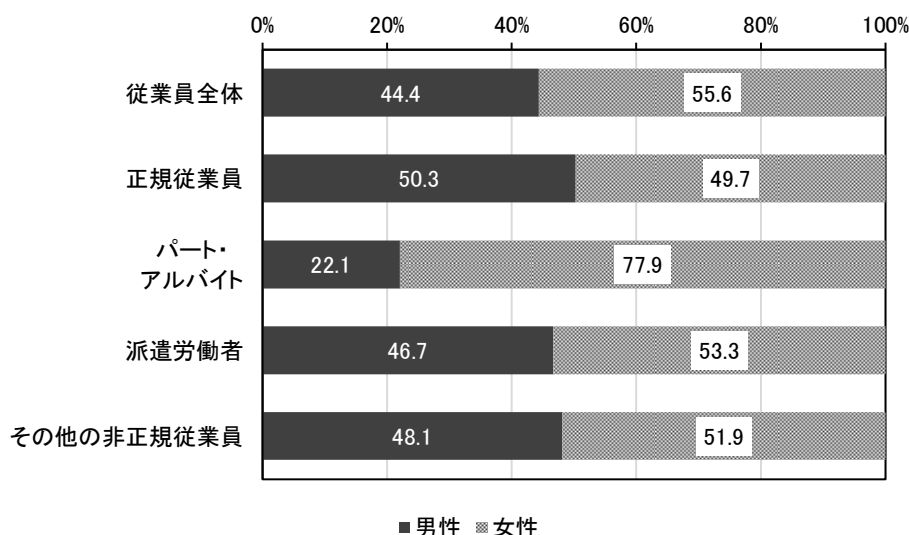
また、従業員の雇用形態別の男女比をみると、男性の「パート・アルバイト」の割合が22.1%に対して、女性が77.9%となっており差がみられます。

【回答事業所の合計従業員数】

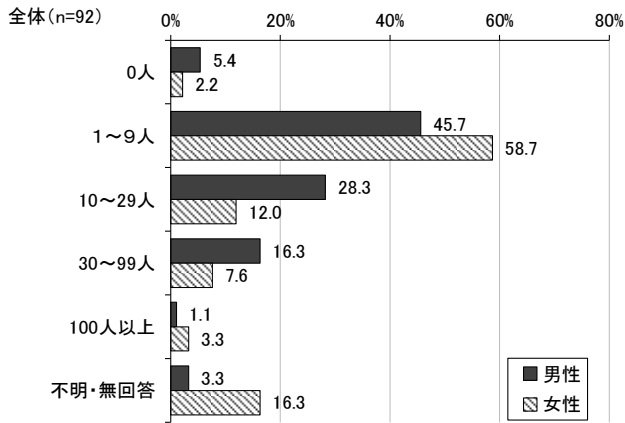
(単位：人)

	正規従業員	パート・アルバイト	派遣労働者	その他の非正規従業員	従業員全体
男性	1,435	176	28	117	1,756
女性	1,419	622	32	126	2,199
男女計	2,854	798	60	243	3,955

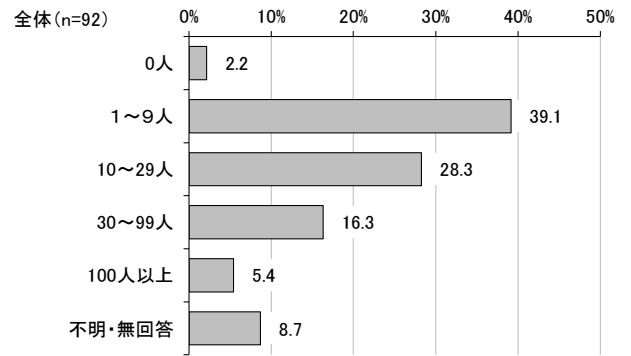
【雇用形態別男女比】



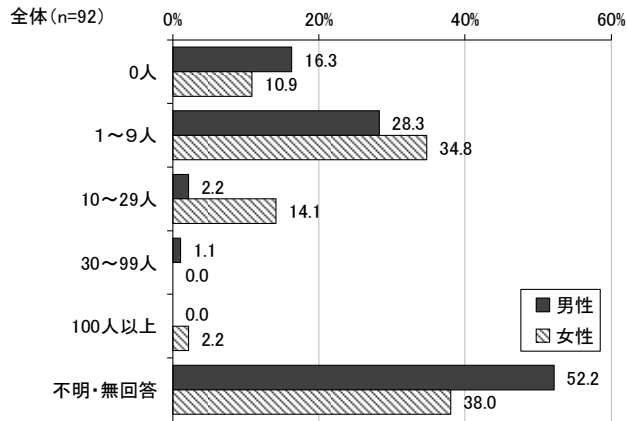
### 【正規従業員】



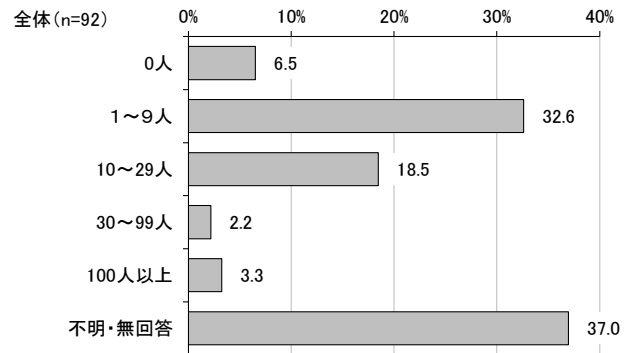
### 【正規従業員・男女計】



### 【パート・アルバイト】

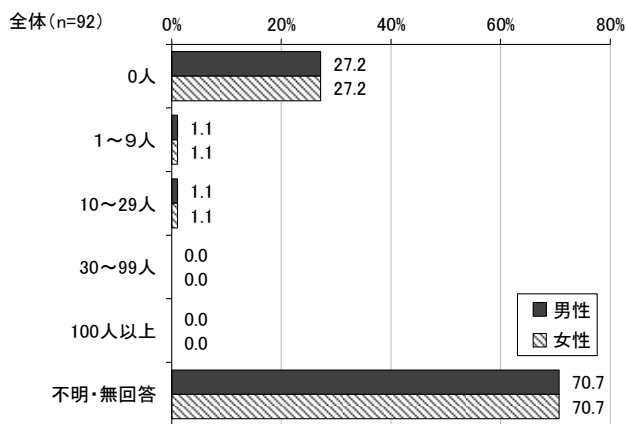


### 【パート・アルバイト・男女計】

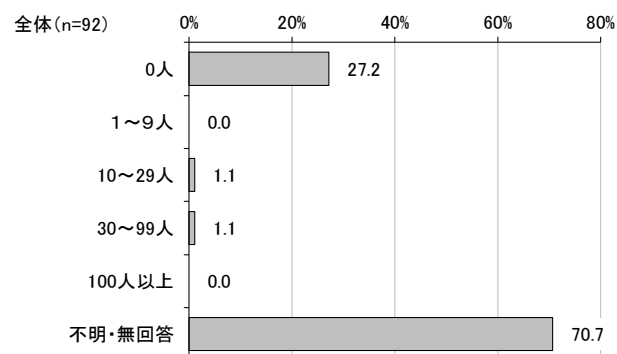


派遣労働者の従業員数についてみると、男女とも「0人」が最も高くなっています。  
 派遣労働者の男女計についてみると、「0人」が27.2%と最も高くなっています。  
 その他の非正規従業員数についてみると、男女とも「0人」が最も高くなっています。  
 その他の非正規従業員の男女計についてみると、「0人」が21.7%と最も高くなっています。

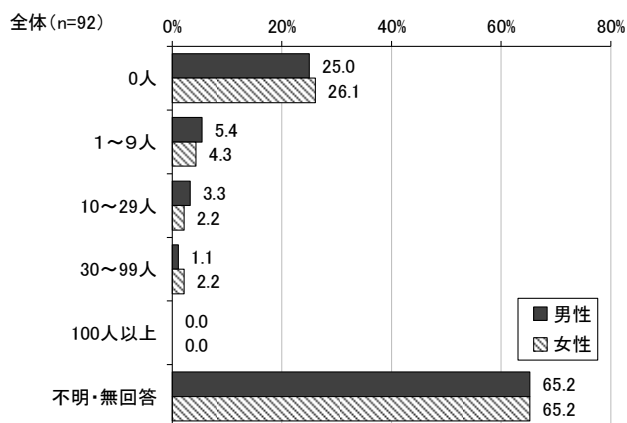
【派遣労働者】



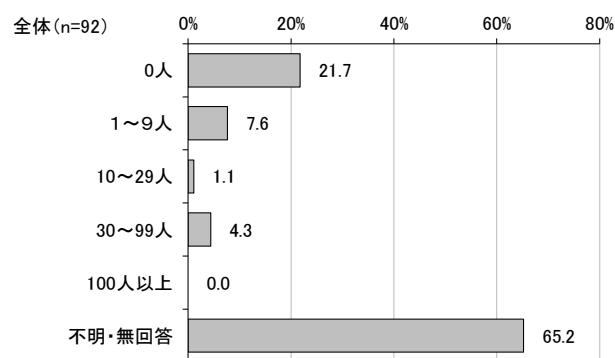
【派遣労働者・男女計】



【その他の非正規従業員】



【その他の非正規従業員・男女計】



●雇用形態の区分

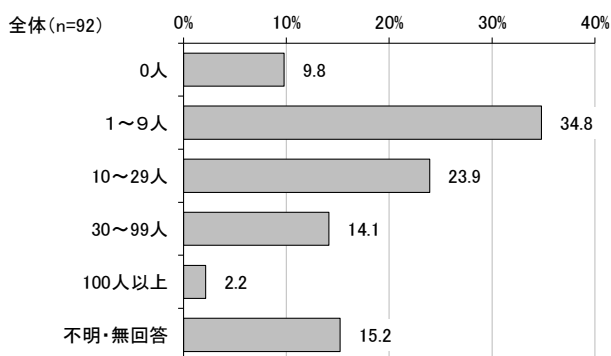
- 正規従業員 …特に雇用期間を定めず雇われている者
- パート・アルバイト …正規従業員より1週間の所定労働時間が短い者（雇用期間の定めの有無は問わない）
- 派遣労働者 …労働者派遣法に基づく、派遣元事業主から派遣された者
- その他の非正規従業員…契約社員や臨時社員など上記以外

男性従業員の合計についてみると、「1～9人」が 34.8%と最も高く、次いで「10～29人」が 23.9%となっています。

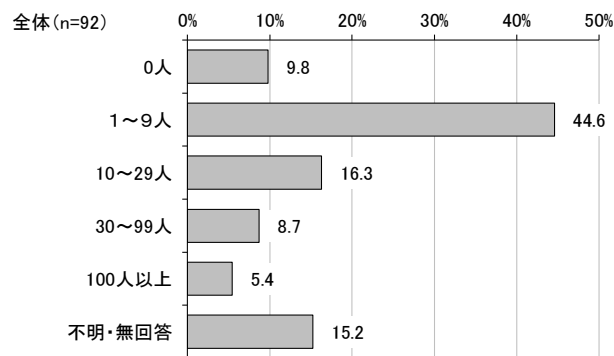
女性従業員の合計についてみると、「1～9人」が 44.6%と最も高く、次いで「10～29人」が 16.3%となっています。

すべての従業員合計についてみると、「1～9人」が 31.5%と最も高く、次いで「10～29人」が 27.2%となっています。

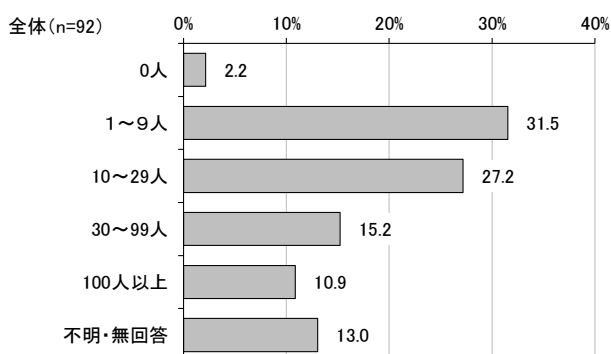
### 【男性合計】



### 【女性合計】



### 【従業員合計】





問4 貴事業所における管理職の人数と、女性管理職の割合を記入してください。

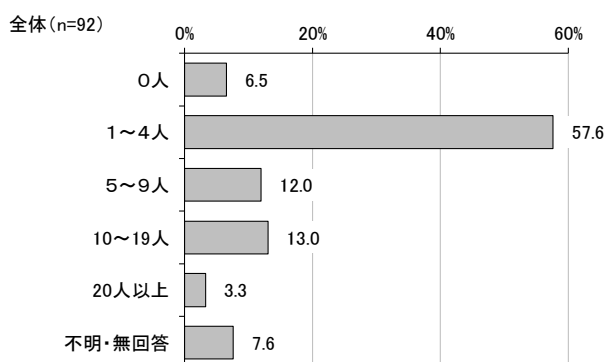
(数字で記入)

事業所における管理職の合計人数についてみると、「1～4人」が57.6%と最も高く、次いで「10～19人」が13.0%となっています。

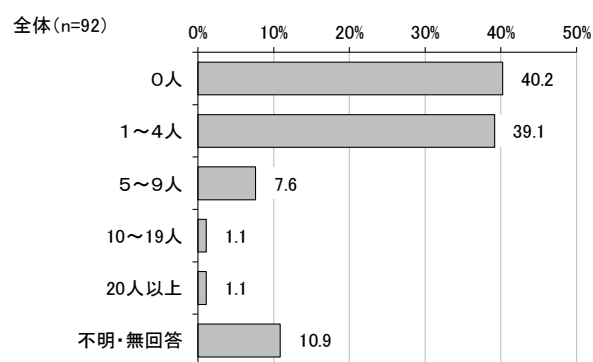
うち、女性管理職の人数についてみると、「0人」が40.2%と最も高く、次いで「1～4人」が39.1%となっています。

女性管理職の割合についてみると、「0%」が41.3%と最も高く、次いで「60%未満」が13.0%となっています。

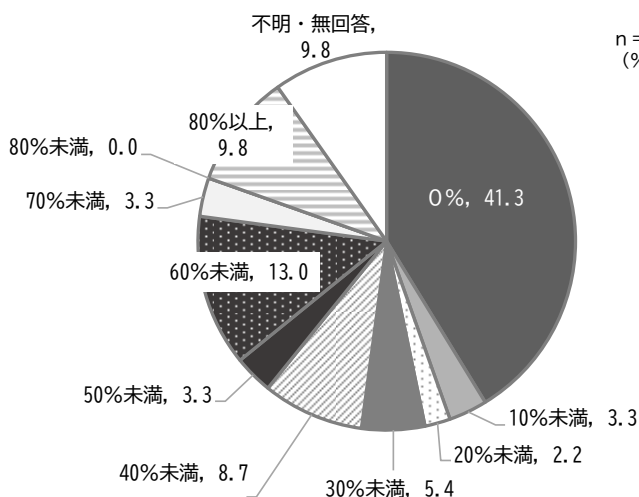
【管理職 合計人数】



【うち、女性管理職】



【女性管理職比率】

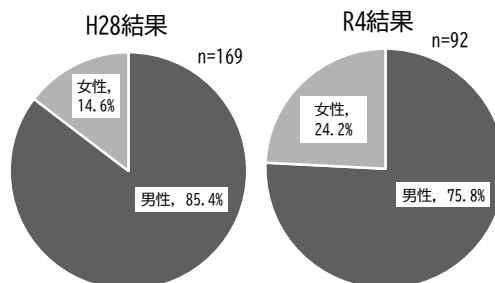


《参考》

【事業所における管理職総数と管理職比率の平均】

単位：人 (%)

	H28 (前回) 結果 (n=169)	R4 (今回) 結果 (n=92)
男性	1,912 (85.4)	336 (75.8)
女性	327 (14.6)	107 (24.2)
男女計	2,239 (100.0)	443 (100.0)



女性管理職比率\*：女性管理職数を管理職合計人数で割った割合

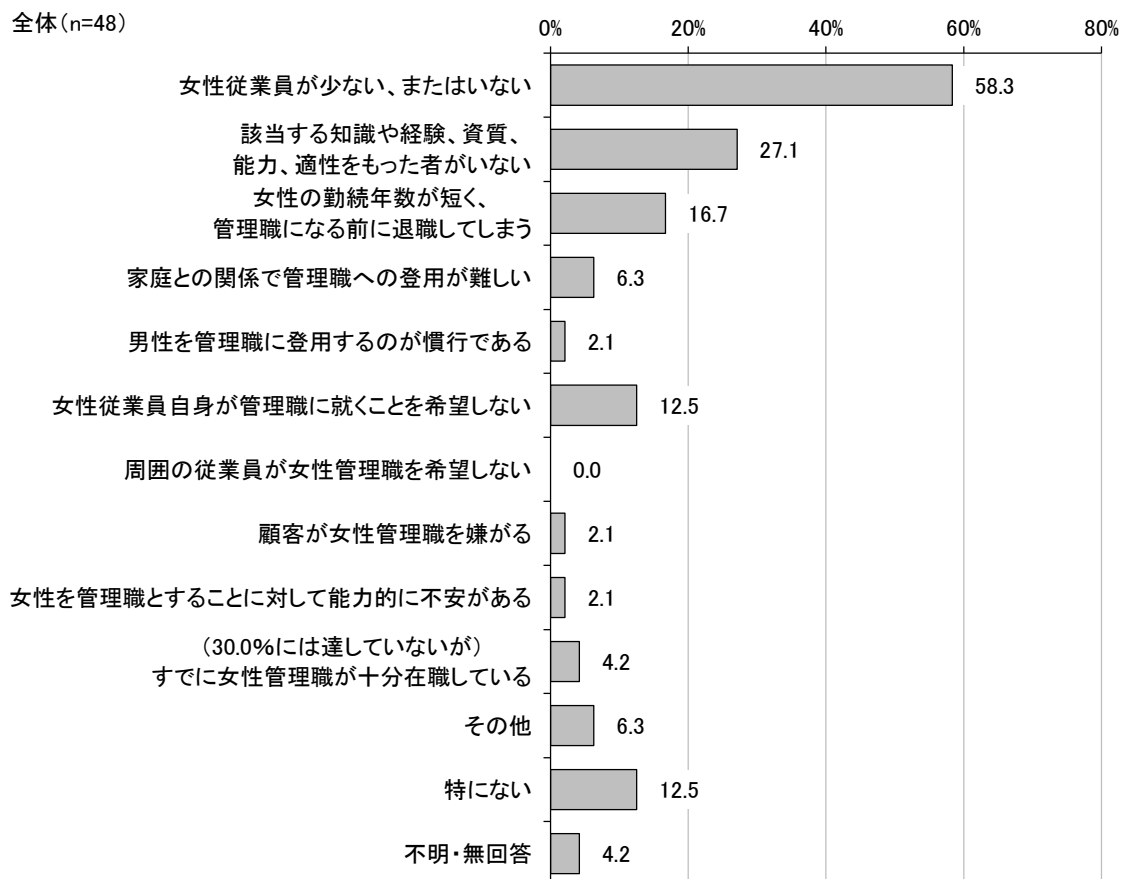
●女性管理職について

国では、「指導的地位に占める女性の割合が2020年代の可能な限り早期に30%程度となるよう目指して取組を進める。」という目標が掲げられている。

問4で、女性管理職の割合が「30.0%未満」の事業所におたずねします。

問5 貴事業所において、女性管理職が少ない（または、いない）のは、どのような理由からですか。（あてはまるものすべてに○）

女性管理職が少ない（いない）理由についてみると、「女性従業員が少ない、またはいない」が58.3%と最も高く、次いで「該当する知識や経験、資質、能力、適性をもった者がいない」が27.1%となっています。

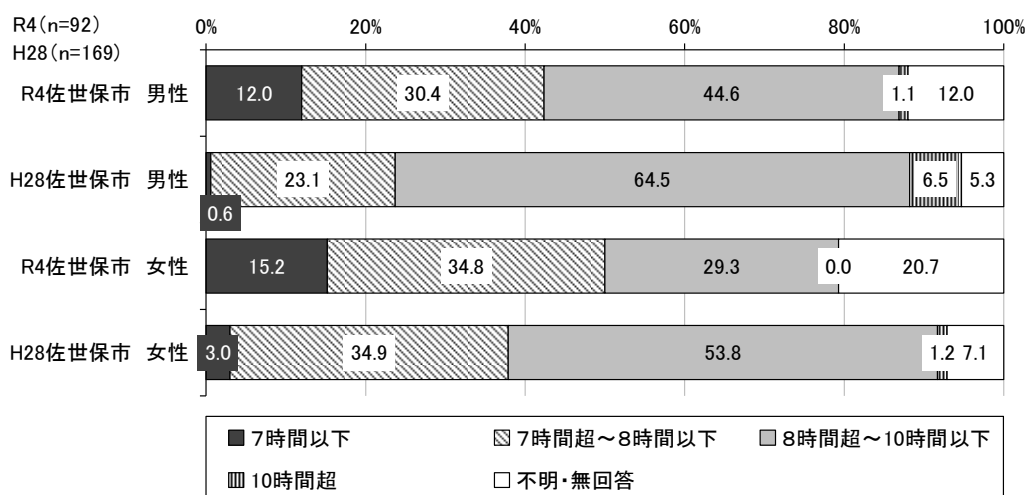


問6 貴事業所の正社員について、昨年1年間の1日の平均総労働時間(残業時間も含む)をお選びください。(男女それぞれ1つに○)

正社員の昨年1年間の1日の平均総労働時間についてみると、男性では「8時間超～10時間以下」が44.6%、女性では「7時間超～8時間以下」が34.8%と最も高くなっています。

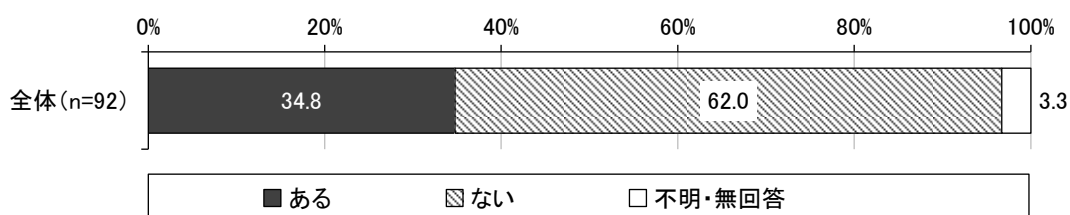
前回調査と比較すると、今回調査で、男性では「7時間以下」「7時間超～8時間以下」で割合が高くなっており、「8時間超～10時間以下」「10時間超」で低くなっています。女性では「7時間以下」で割合が高くなっており、「8時間超～10時間以下」で特に割合が低くなっています。

【前回 (H28) 調査比較】



問7 貴事業所では、残業時間削減のために取り組んでいる施策はありますか。ある場合は具体的な内容をお答えください。(1つに○)

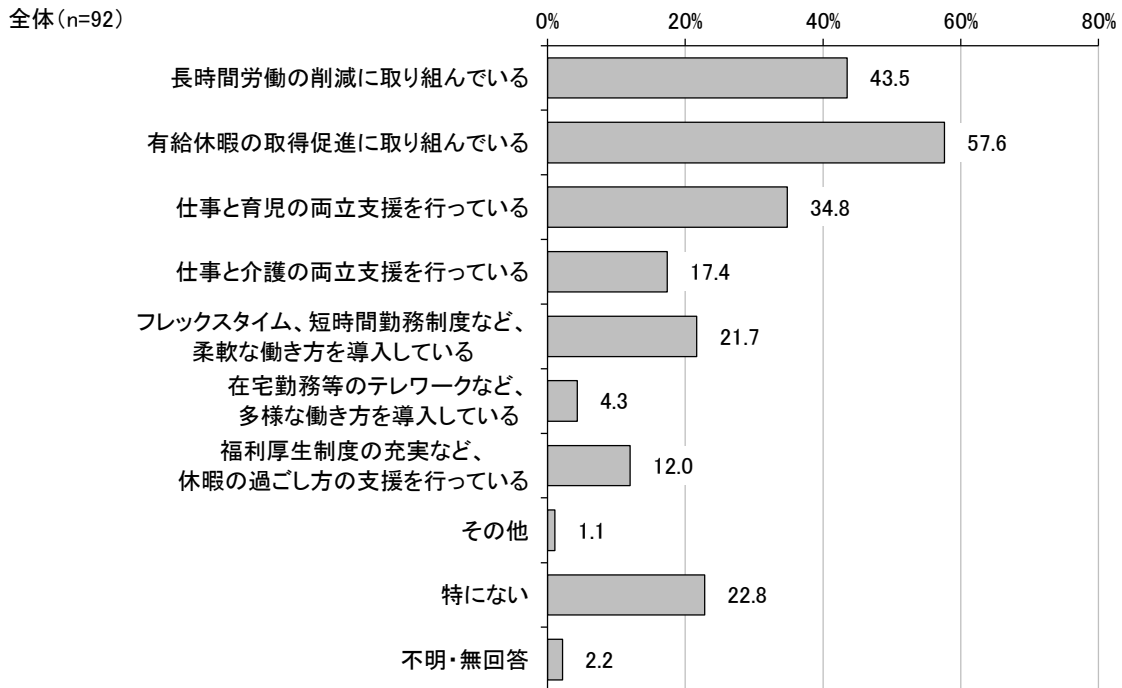
残業時間削減のために取り組んでいる施策についてみると、「ない」が62.0%と、「ある」の34.8%を上回っています。



## 2 ワーク・ライフ・バランス、育児・介護両立支援について

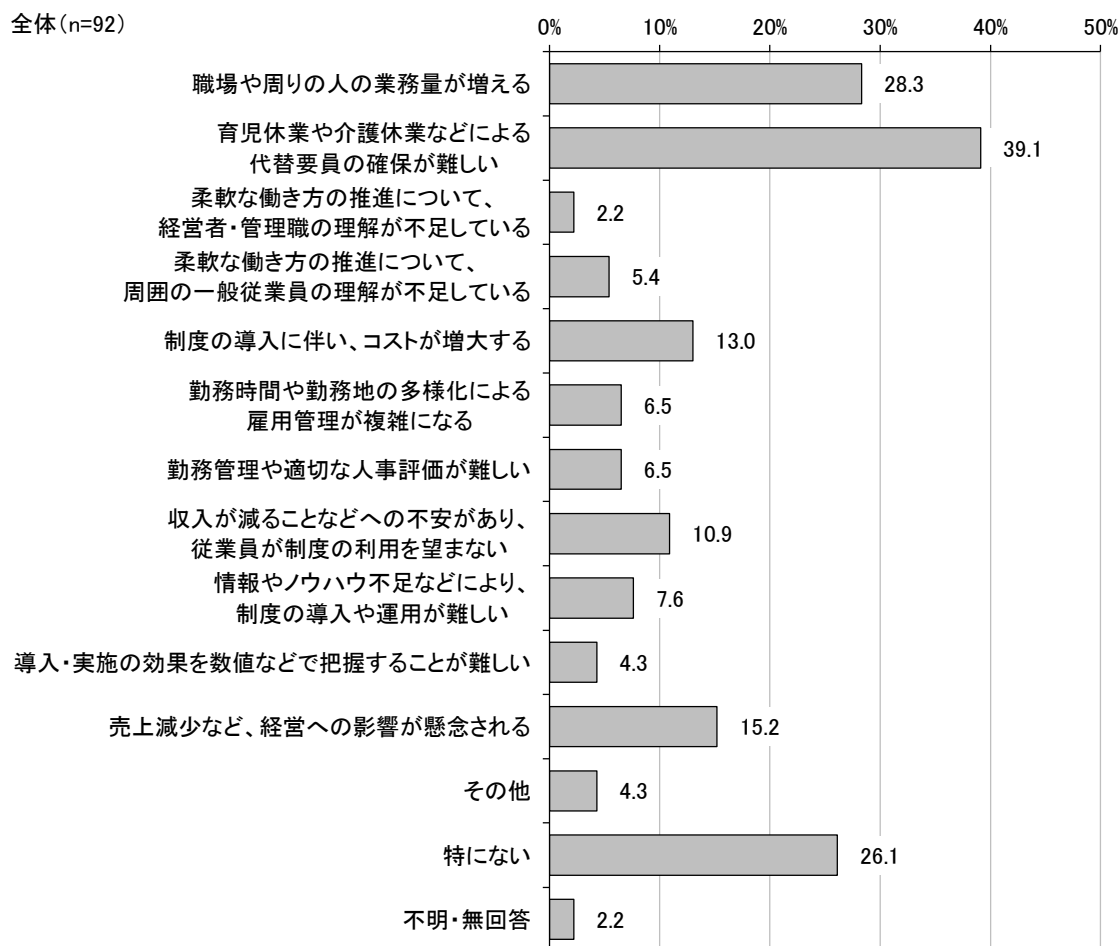
問8 貴事業所では、ワーク・ライフ・バランス実現のための取り組みを行っていますか。  
(あてはまるものすべてに○)

ワーク・ライフ・バランス実現のための取り組みについてみると、「有給休暇の取得促進に取り組んでいる」が57.6%と最も高く、次いで「長時間労働の削減に取り組んでいる」が43.5%となっています。



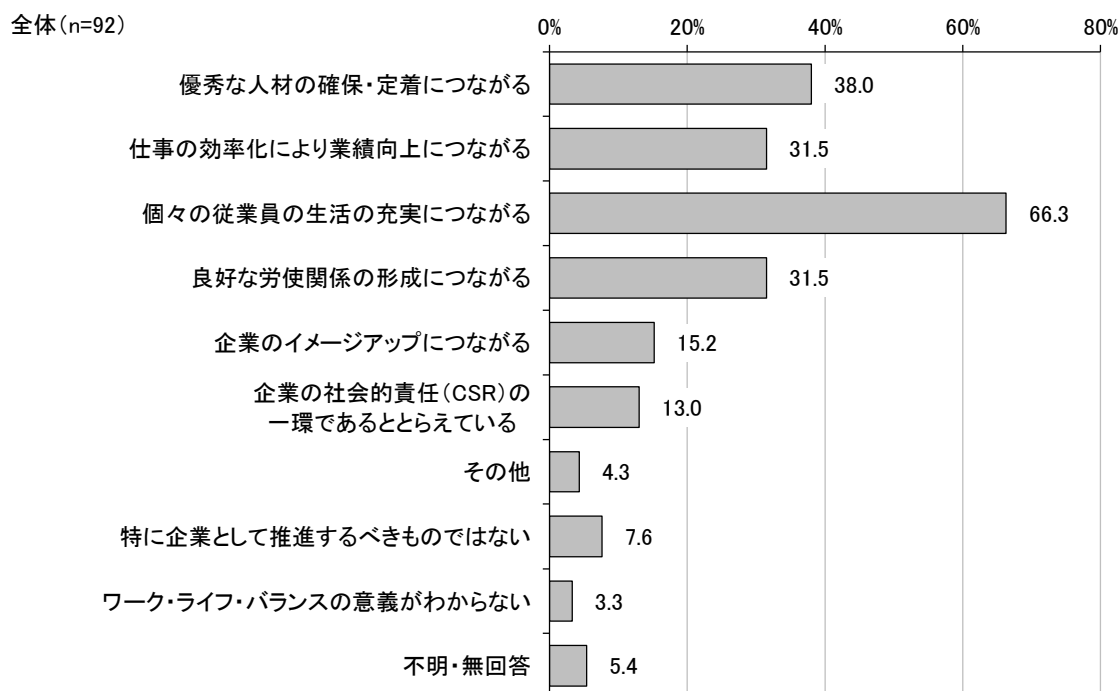
問9 貴事業所において、ワーク・ライフ・バランスを実現するにあたり、特に課題だと思うのは、どのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

ワーク・ライフ・バランスを実現するにあたっての課題についてみると、「育児休業や介護休業などによる代替要員の確保が難しい」が39.1%と最も高く、次いで「職場や周りの人の業務量が増える」が28.3%となっています。



問10 企業としてワーク・ライフ・バランスの推進に取り組むことに、どのようなメリットがあると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

ワーク・ライフ・バランスの推進に取り組むことによるメリットについてみると、「個々の従業員の生活の充実につながる」が66.3%と最も高く、次いで「優秀な人材の確保・定着につながる」が38.0%となっています。

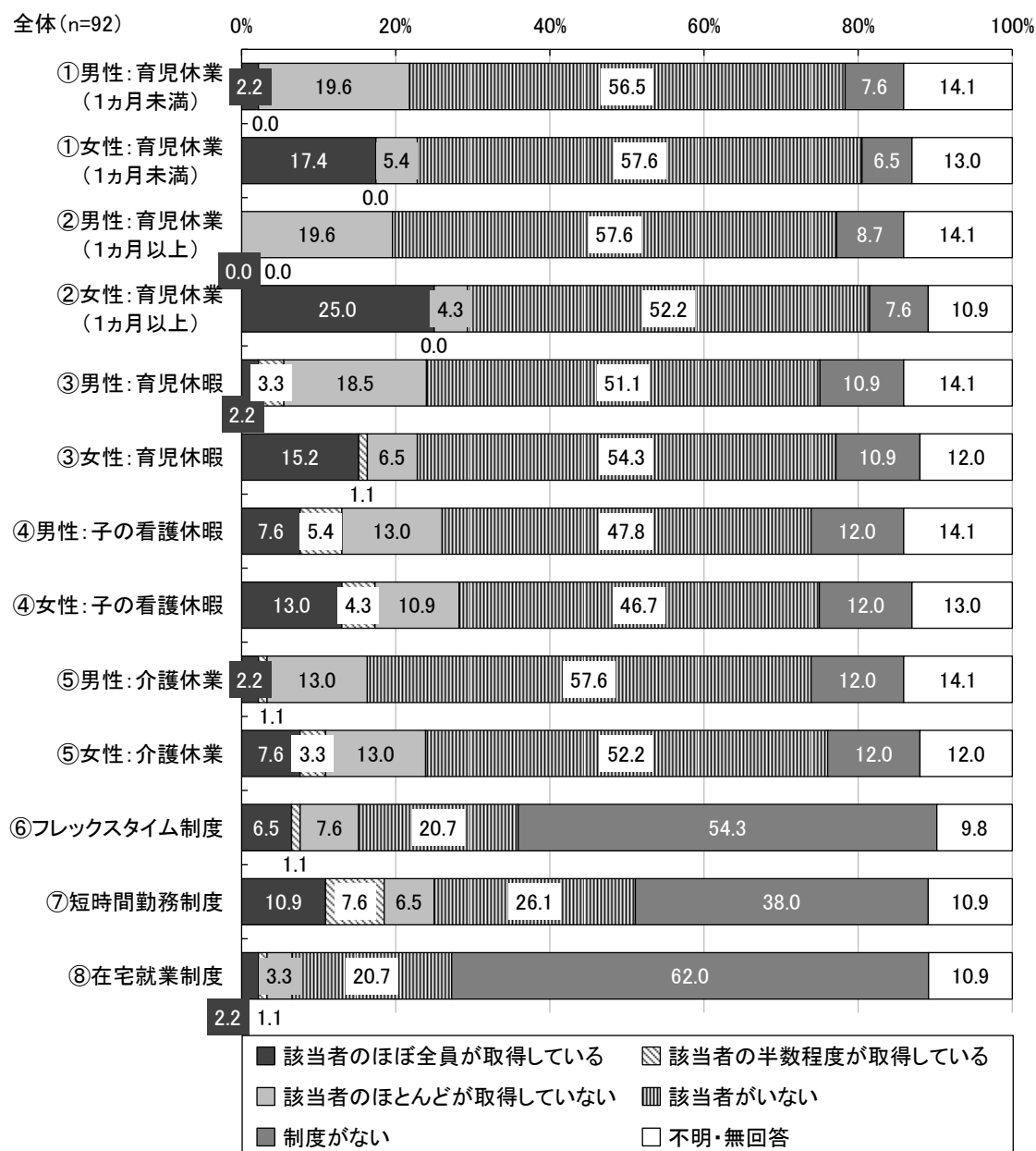


問 11 貴事業所では、次の休暇制度・勤務制度について、どの程度取得されていますか。

(①～⑧について、それぞれ〇は1つ)

休暇制度・勤務制度の取得状況についてみると、【⑥フレックスタイム制度】【⑦短時間勤務制度】【⑧在宅就業制度】では「制度がない」、その他の項目では「該当者がいない」が最も高くなっています。

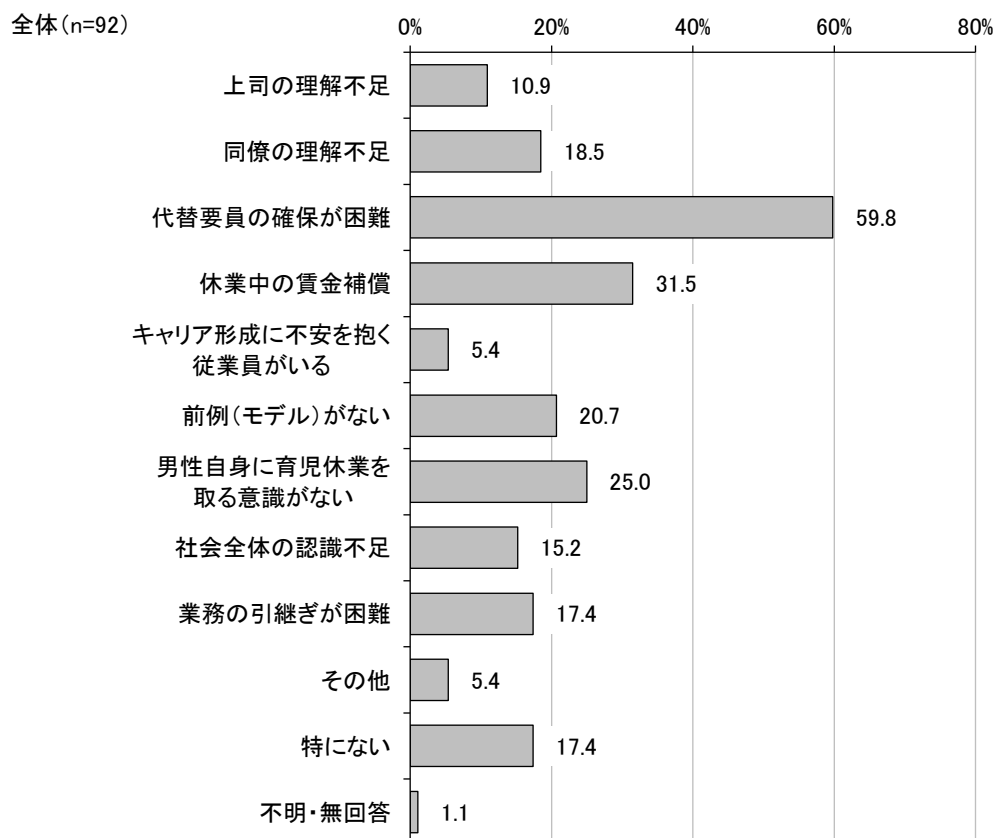
女性では【①育児休業（1ヵ月未満）】【②育児休業（1ヵ月以上）】【③育児休暇】【④子の看護休暇】で「該当者のほぼ全員が取得している」が高くなっているのに対し、男性では同じ項目で「該当者のほとんどが取得していない」が高くなっています。



問 12 男性従業員が育児休業を取得するにあたっての課題は何だと思えますか。

(あてはまるものすべてに○)

男性従業員が育児休業を取得するにあたっての課題についてみると、「代替要員の確保が困難」が59.8%と最も高く、次いで「休業中の賃金補償」が31.5%となっています。

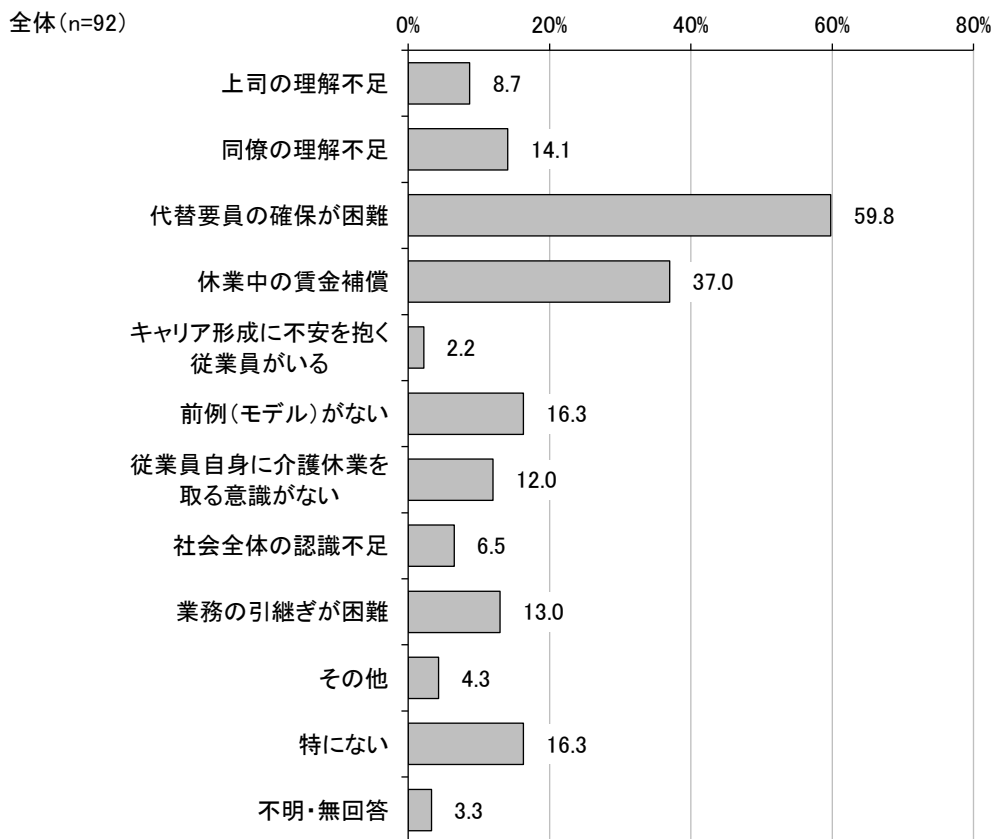




問 13 従業員が介護休業を取得するにあたっての課題は何だと思えますか。

(あてはまるものすべてに○)

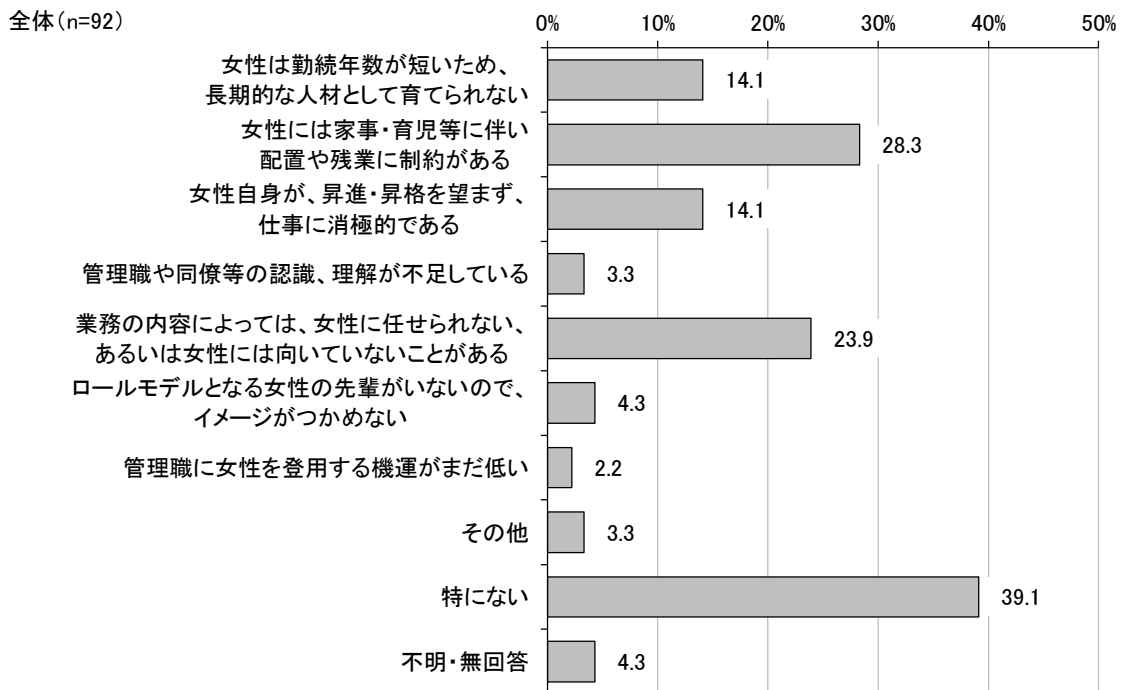
従業員が介護休業を取得するにあたっての課題についてみると、「代替要員の確保が困難」が59.8%と最も高く、次いで「休業中の賃金補償」が37.0%となっています。



### 3 多様な人材の活躍について

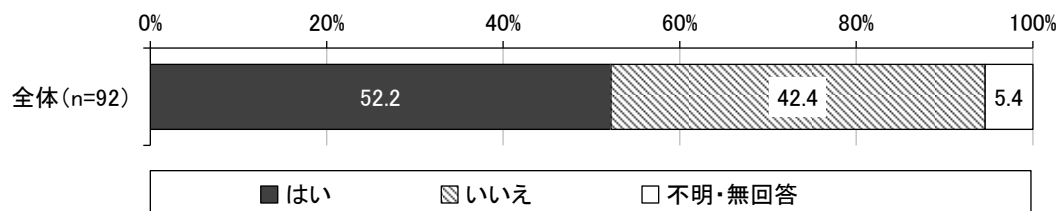
問 14 貴事業所において、女性も男性と同じような環境で働いていくために、課題となっていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

女性も男性と同じような環境で働いていくために課題となっていることについてみると、「特にない」が 39.1%と最も高く、次いで「女性には家事・育児等に伴い配置や残業に制約がある」が 28.3%となっています。



問 15 女性の正規従業員の採用や管理職への登用に積極的に取り組みたいと考えていますか。(1つに○)

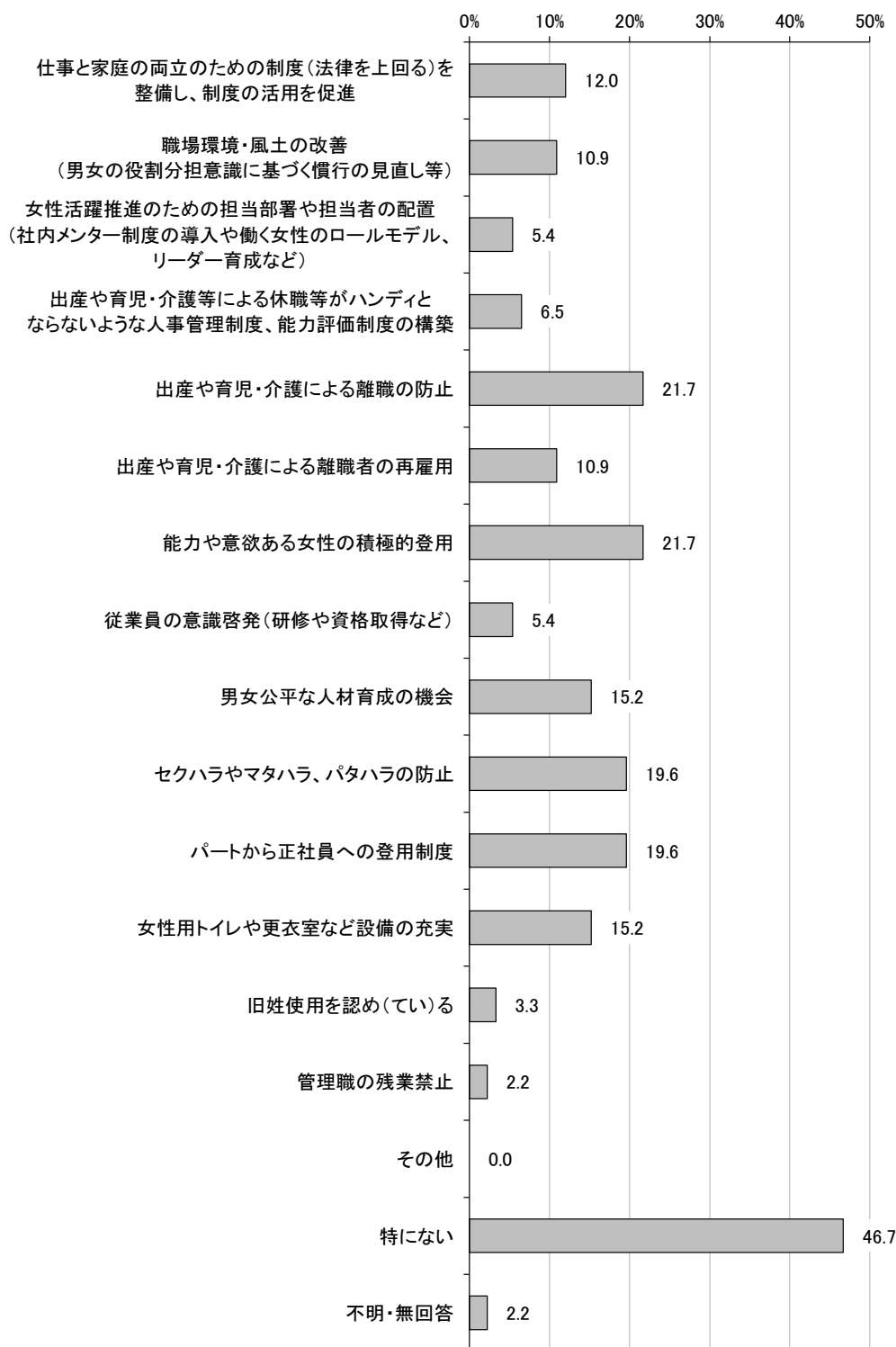
女性の正規従業員の採用や管理職への登用に積極的に取り組みたいかについてみると、「はい」が 52.2%と、「いいえ」の 42.4%を上回っています。



問 16 貴事業所において、女性の育成や管理職を増やすために行っている取り組み（ポジティブ・アクション）はありますか。（あてはまるものすべてに○）

女性の育成や管理職を増やすために行っている取り組みについてみると、「特にない」が46.7%と最も高く、次いで「出産や育児・介護による離職の防止」「能力や意欲ある女性の積極的登用」が21.7%となっています。

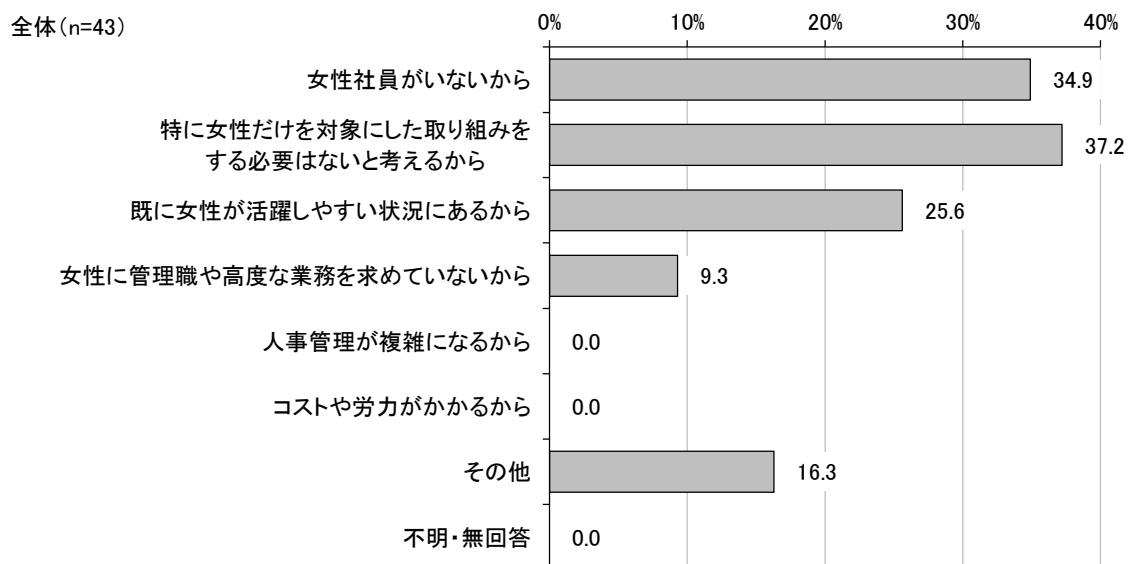
全体 (n=92)



問 16 で、「特にない」をお答えの事業所におたずねします。

問 17 問 16 の取り組みについて、「特に取り組んでいることはない」のはなぜですか。  
(あてはまるものすべてに○)

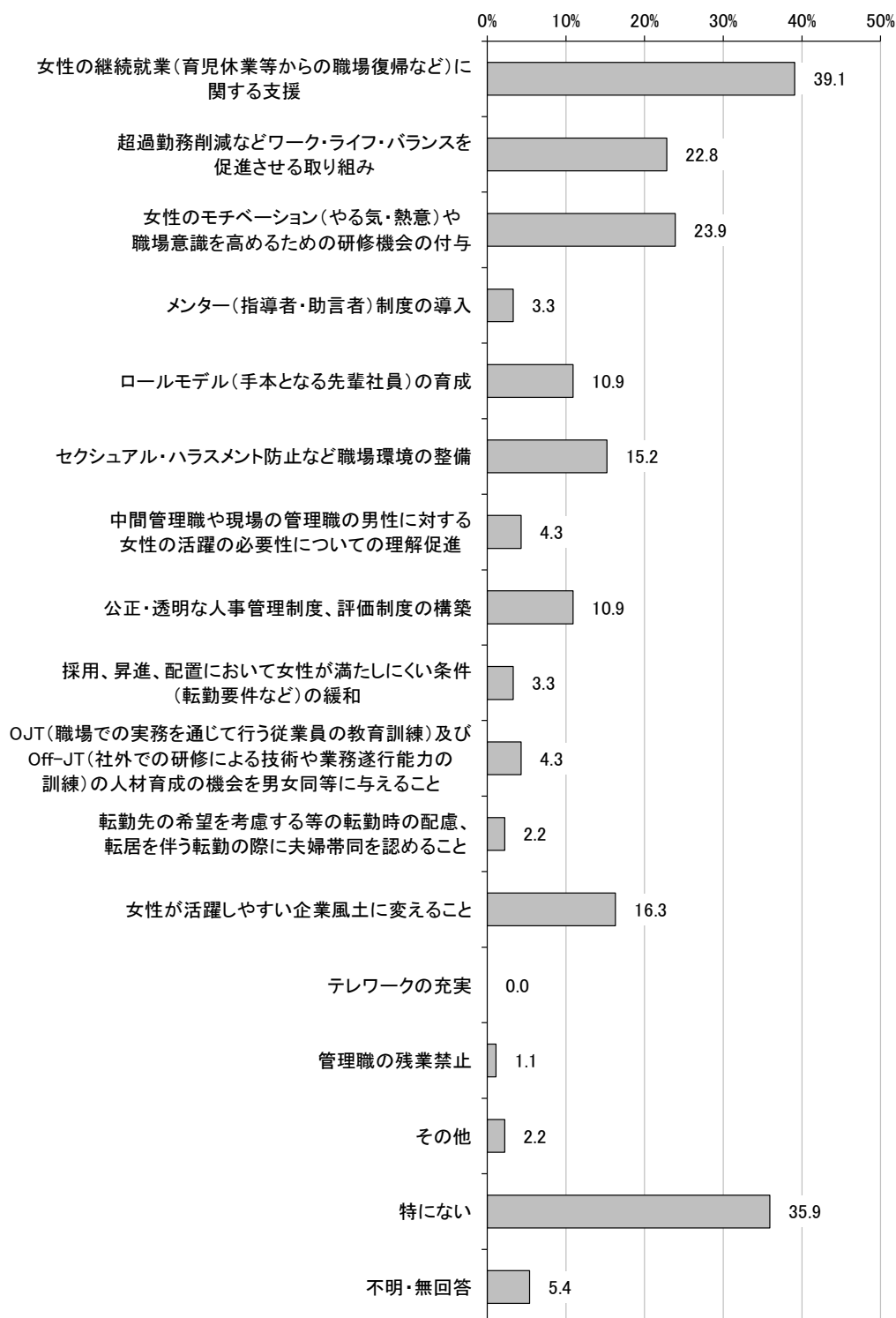
特に取り組んでいることはない理由についてみると、「特に女性だけを対象にした取り組みをする必要はないと考えるから」が 37.2%と最も高く、次いで「女性社員がいないから」が 34.9%となっています。



問 18 貴事業所において、女性の活躍推進を進める上での取り組みとして、どのようなことが必要とお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

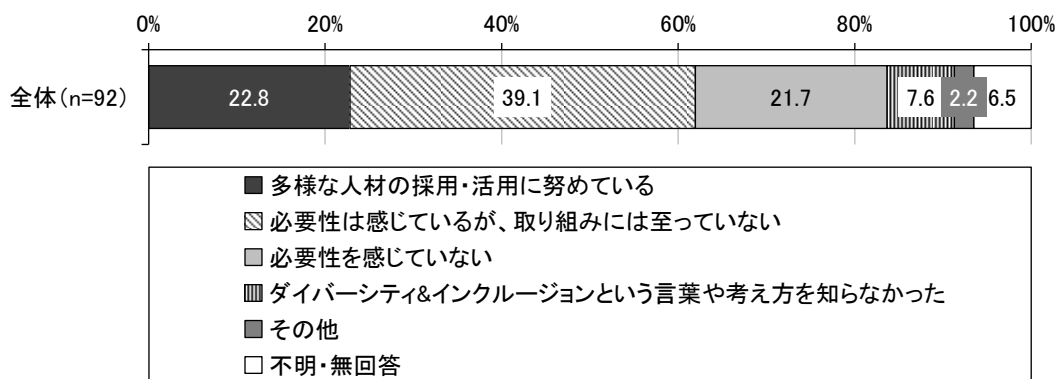
女性の活躍推進を進める上での取り組みとして必要なことについてみると、「女性の継続就業（育児休業等からの職場復帰など）に関する支援」が 39.1%と最も高く、次いで「特にない」が 35.9%となっています。

全体 (n=92)



問 19 貴事業所では、ダイバーシティ&インクルージョン（女性、外国人、高齢者、障がいのある人等の多様な人材を活かすこと）について、取り組みを進めていますか。  
（1つに○）

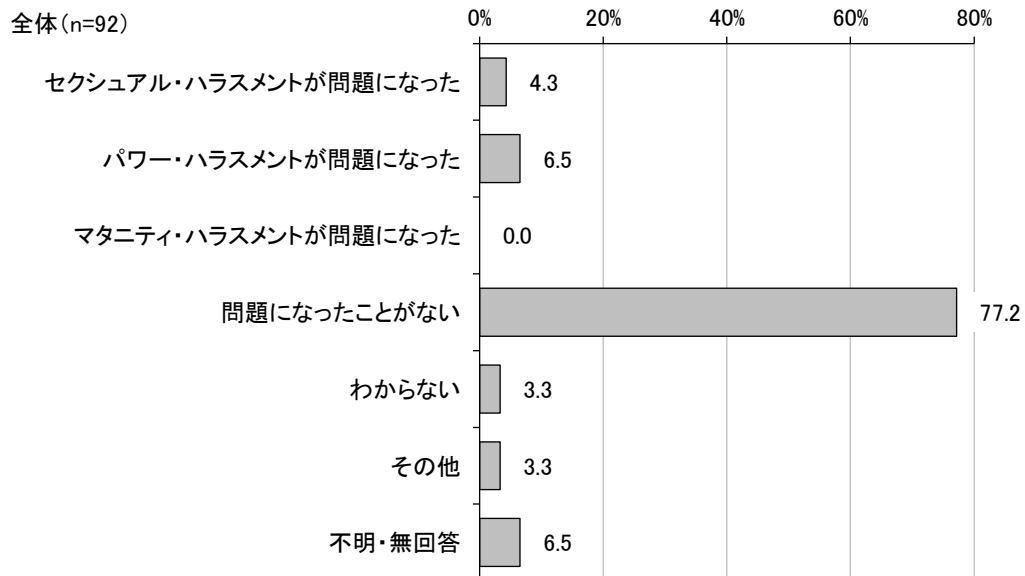
ダイバーシティ&インクルージョンの取り組みを進めているかについてみると、「必要性は感じているが、取り組みには至っていない」が39.1%と最も高く、次いで「多様な人材の採用・活用に努めている」が22.8%となっています。



## 4 ハラスメントについて

問 20 貴事業所において、ハラスメントが問題になったことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

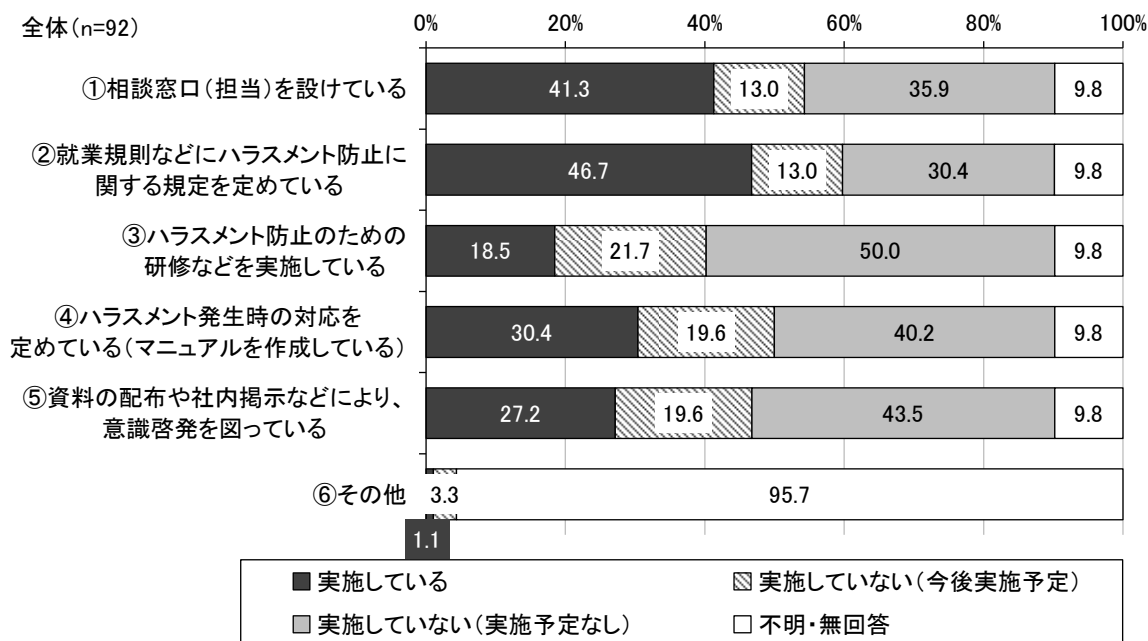
ハラスメントが問題になったことについてみると、「問題になったことがない」が77.2%と最も高く、次いで「パワー・ハラスメントが問題になった」が6.5%となっています。



問 21 貴事業所では、ハラスメント防止に関して取り組んでいることはありますか。

(①～⑥について、それぞれ○は1つ)

ハラスメント防止に関して取り組んでいることについてみると、【①相談窓口(担当)を設けている】【②就業規則などにハラスメント防止に関する規定を定めている】では「実施している」が4割以上と高くなっています。一方、【③ハラスメント防止のための研修などを実施している】では「実施していない(実施予定なし)」が50.0%と高くなっています。



※⑥その他では選択肢「実施していない(実施予定なし)」はなし。

●ハラスメントについて

さまざまな場面での「嫌がらせ」のことで下記が主に挙げられます。

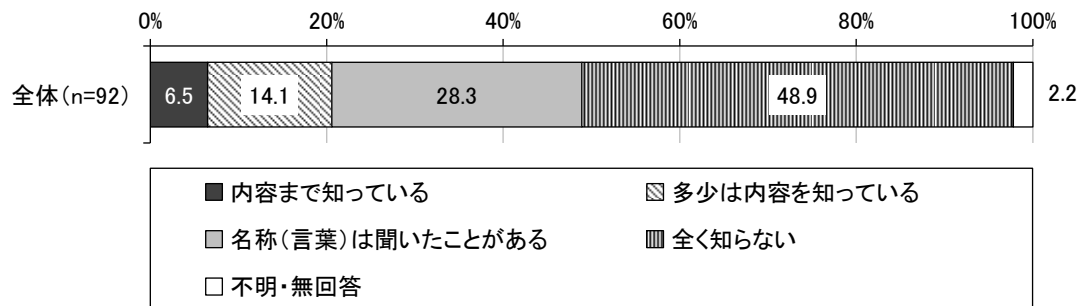
- セクシュアル・ハラスメント【セクハラ】…相手の意に反した性的な言動を行うことにより、就業環境その他の生活環境を害し、または性的な言動を受けた者の対応によってその者に不利益を与えること
- パワー・ハラスメント【パワハラ】…職務上の地位や優位性等を背景に、業務の適正な範囲を超え、精神的・身体的苦痛を与える行為や職場環境を悪化させる行為等のこと
- マタニティ・ハラスメント【マタハラ】…女性従業員が妊娠・出産・育児休業等を理由とした嫌がらせや雇用において不利益な扱いを受けること
- パタニティー・ハラスメント【パタハラ】…育児のための休暇や時短を申し出る男性に対するいやがらせのこと



## 5 佐世保市の取り組みについて

問 22 佐世保市女性活躍応援宣言登録制度について知っていますか。(1つに○)

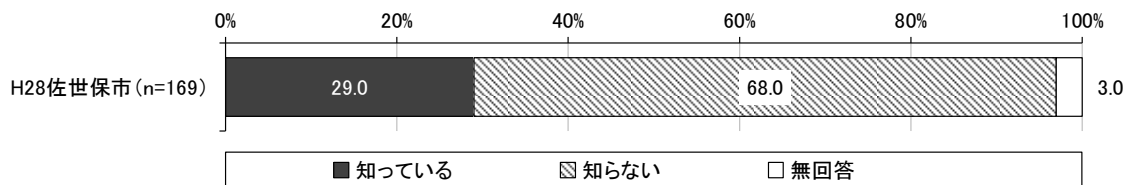
佐世保市女性活躍応援宣言登録制度の認知度についてみると、「全く知らない」が48.9%と最も高く、次いで「名称(言葉)は聞いたことがある」が28.3%となっています。



### ●佐世保市女性活躍応援宣言登録制度

市内の企業や団体のトップの方にそれぞれの職場における女性の活躍推進に向けた具体的な取り組みを「応援宣言」という形で社内外に向けて宣言してもらい、佐世保市が登録する制度。宣言により、女性が仕事と家庭を両立し、個性と能力を発揮してイキイキと働き続けることができる職場環境づくりを進め、ひいては女性だけでなく男性も仕事と家庭を両立させ、豊かで活力あるまちづくりを目指すもの。

### 【参考：前回(H28)調査】



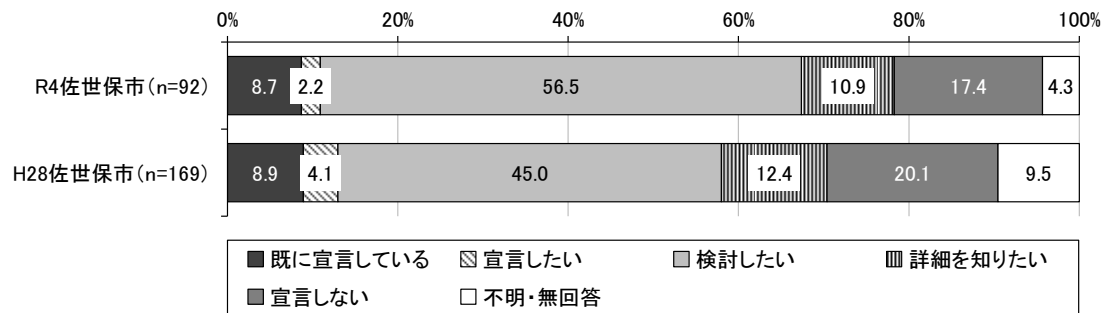
※選択肢内容に違いがあるため、参考として記載しています。

問 23 佐世保市女性活躍応援宣言登録制度について、あてはまるものをお選びください。  
(1つに○)

佐世保市女性活躍応援宣言登録制度に関してあてはまるものについてみると、「検討したい」が56.5%と最も高く、次いで「宣言しない」が17.4%となっています。

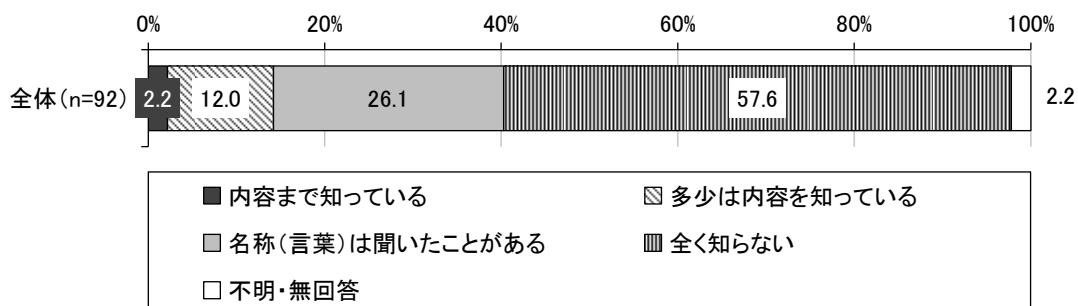
前回調査と比較すると、「検討したい」の割合が11.5ポイント増加しています。

【前回（H28）調査比較】



問 24 佐世保市で取り組んでいる「イクボス宣言」について知っていますか。(1つに○)

「イクボス宣言」の認知度についてみると、「全く知らない」が57.6%と最も高く、次いで「名称(言葉)は聞いたことがある」が26.1%となっています。

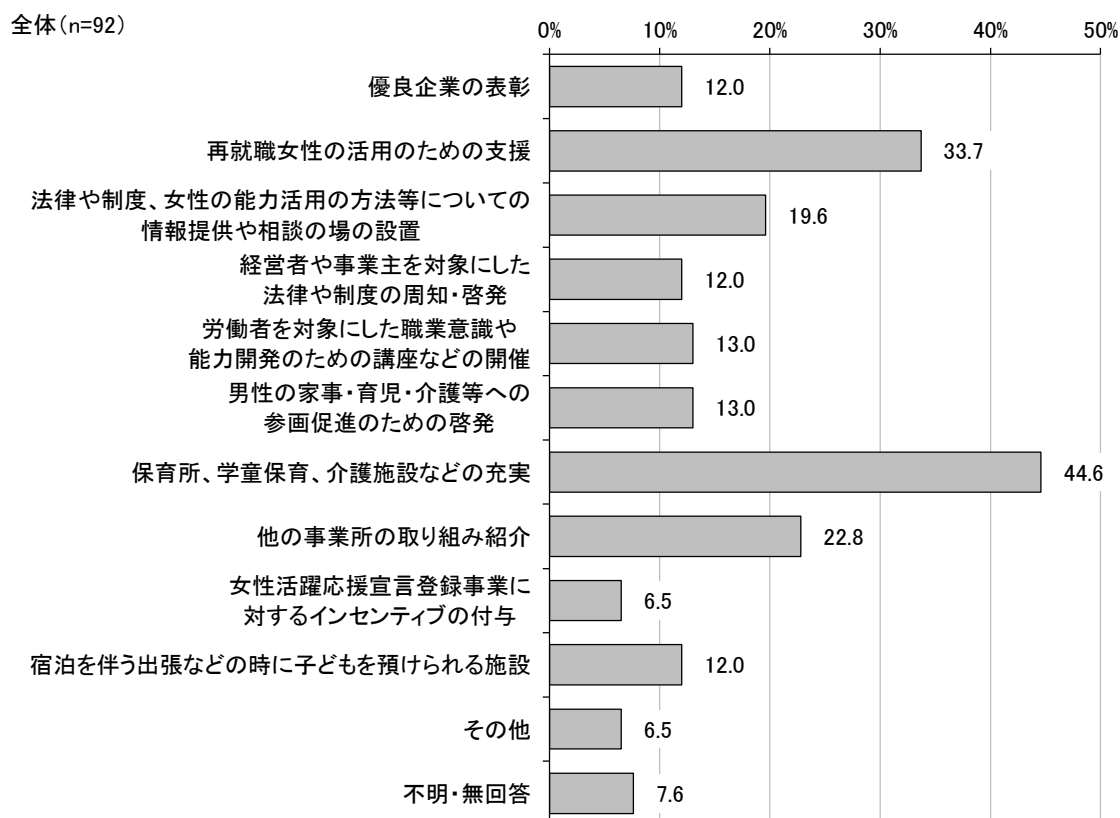


●イクボス

「イクボス」とは、職場で共に働く部下・スタッフのワーク・ライフ・バランスを考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も成果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司(経営者・管理職)のこと。

問 25 女性社員の活用を図るために、今後、佐世保市に対してどのようなことを望みますか。  
 (○は3つまで)

女性社員の活用を図るために、今後、佐世保市に対して望むことについてみると、「保育所、学童保育、介護施設などの充実」が 44.6%と最も高く、次いで「再就職女性の活用のための支援」が 33.7%となっています。



## 集計表

問1 事業所の主たる業種についてお答えください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	農業、林業	1	1.1	1.1
2	漁業	0	0.0	0.0
3	鉱業、採石業、砂利採取業	0	0.0	0.0
4	建設業	13	14.1	14.4
5	製造業	8	8.7	8.9
6	電気、ガス、熱供給、水道業	1	1.1	1.1
7	情報通信業	0	0.0	0.0
8	運輸業、郵便業	6	6.5	6.7
9	卸売業、小売業	16	17.4	17.8
10	金融業、保険業	2	2.2	2.2
11	不動産業、物品賃貸業	6	6.5	6.7
12	学術研究、専門・技術サービス業	2	2.2	2.2
13	宿泊業、飲食サービス業	3	3.3	3.3
14	生活関連サービス業、娯楽業	3	3.3	3.3
15	教育、学習支援業	4	4.3	4.4
16	医療、福祉	17	18.5	18.9
17	サービス事業	5	5.4	5.6
18	公務	0	0.0	0.0
19	その他	3	3.3	3.3
	不明・無回答	2	2.2	

問2 事業所区分について、お答えください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	単独事業所	49	53.3	57.0
2	本社・本店	36	39.1	41.9
3	支社・支店・営業所等	1	1.1	1.2
	不明・無回答	6	6.5	



第4次佐世保市男女共同参画計画策定にかかる  
アンケート調査結果報告書

発行：佐世保市 市民生活部 人権男女共同参画課  
TEL：0956-24-1111（内線 3221）  
FAX：0956-25-9703

発行年月：令和4年7月